

函館短期大学

保育学科

シラバス 2022

(授業計画等)



保育学科			
教育目標	アドミッション・ポリシー(AP)	カリキュラム・ポリシー(CP)	ディプロマ・ポリシー(DP)
保育学科の教育目標	保育学科の入学受け入れの方針	保育学科の教育課程編成・実施の方針	保育学科の学位授与の方針
以下の人材を養成することが保育学科の教育目標である。 1. 子供の利益を尊重し、人として尊敬される豊かな人間性を身に付けた人材 2. 子供の発達や心の動きに合わせた保育と保護者に対する相談支援ができる確かな専門性を身に付けた人材 3. 子育ての環境について、地域と食育を関連付け考えることができる人材	保育学科の教育目標を理解し、以下の資質を有することを期待したい。 【知識・技能】 1. 高等学校卒業相当の知識を有し、幼児教育や保育分野の専門的な学習に必要な基礎学力を身に付けている人 【思考力・判断力・表現力】 2. 幅広い教養と専門知識、高いコミュニケーション力を身に付けようとする人 3. 本学の学園訓をよく理解し、自らがなすべきことを見出してボランティアなどの学外活動に積極的に参加しようとする人 4. 自分の将来に向けて具体的な目標を持ち、他者に自分の考えを的確に表現できる人 【主体的に協働する態度】 5. 人の長所を大切にして、明るくコミュニケーションできる人 6. 子供が好きで、子供と子供を取り巻く環境の課題に関心をもち、それらの解決に向けて主体的に他者と協働して学ぶ態度を有している人	保育学科の教育目標及びディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のようにカリキュラム(教育課程)を編成する。 1. 短期大学士の学位に相応しい幅広い教養を身に付ける「基礎教育科目」並びに保育者に必要な専門的知識・技術を身に付ける「専門教育科目」を基盤とし、主体的、能動的に課題に取り組もうとする態度や意欲を形成する。 2. 「基礎教育科目」の「社会人基礎論」及び「教養ゼミナール(S・L)」を基軸として、「専門教育科目」の実習・演習を通して、コミュニケーション力と総合的な「社会人力」を形成する。特にS・LⅡでは、地域課題解決型学習(PBL)にも取り組み、地域社会に貢献しようとする資質を養う。 3. 「専門教育科目」では、講義・演習の学びと併せて各種実習のほか、フィールド学習などを通して1つの課題を多面的に把握して考察できる能力を培う。 4. 食育と音楽表現に重点を置き、より高い目標を持つ多様な学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるように、保育士資格に加えて以下の資格取得も可能とする。 ○幼稚園教諭二種免許 ○レクリエーション・インストラクター ○食育指導士® ○保健児童ソーシャルワーカー ○准学校心理士 ○マイクロソフト オフィス スペシャリスト(Word, Excel, PowerPoint) ○社会福祉主事任用資格 ○介護職員初任者研修	保育学科の教育目標を達成し、卒業認定に必要な所定の単位を修得して、以下の資質と能力を持つ者に短期大学士(保育学)を授与する。 【知識・技能】 1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識と音楽表現技術を有し、子供の成長を促すことができる。 2. 地域の特性を的確に把握し、保育に反映させることができる。 3. 保育者の社会的使命を理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】 4. 子育て環境を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。 5. 身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身に付けている。 6. 生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えることができる。 【コミュニケーション力・社会人力】 7. 専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとすることができる。 8. コミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題を解決しようとすることができる。 9. 他者への思いやりと柔軟な対応力を持つことができる。

令和4年度(2022年度)入学生 保育学科 カリキュラムマップ

保育学科

定義	学修到達度に関わらず、短期大学士に相応しい教養を身につける科目		当該領域および系列を学修するための基礎・総論的位置づけの科目		当該領域および系列の各論、1の科目の応用的内容を含む科目		当該領域および系列の発展的内容の科目		既習科目を複合させて、学修の集大成として取り組むべき科目		ディプロマ・ポリシー	教育目標		
水準	0		1		2		3		4					
領域	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP				
1. 保育の本質・目的に関する科目			保育原理	DP1.2,3,4,5,7					保育現場の幼児教育	DP4,7,8	[知識・技能] DP1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識と音楽表現技術を有し、子供の成長を促すことができる。 DP2. 地域の特性を適切に把握し、保育に反映させることができる。 DP3. 保育者の社会的使命を理解することができる。 [思考力・判断力・表現力] DP4. 子育て環境を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。 DP5. 身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身に付けている。 DP6. 生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能並びに経験を分ちりやすく他者に伝えることができる。 [コミュニケーション力・社会力] DP7. 専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとすることができる。 DP8. コミュニケーションを身に付け、他者と協働して課題を解決しようすることができる。 DP9. 他者への思いやりと柔軟な対応力を持つことができる。	1. 子供の利益を尊重し、人として尊敬される豊かな人間性を身に付けた人材 2. 子供の発達や心の動きに合わせた保育と保護者に対する相談支援ができる確かな専門性を身に付けた人材 3. 子育てでの環境について地域と食育を関連付け考えることができる人材		
			教職概論	DP3,7										
			教育原理	DP1.3,6,7										
			社会福祉	DP1.2,3,4,7,9	子ども家庭福祉	DP1.2,3,4,7								
					社会的養護Ⅰ	DP2.3,4,7								
				子ども家庭支援論	DP1.2,3,4,6,7									
2. 保育の対象の理解に関する科目			教育心理学	DP1.5,9	子ども家庭支援の心理学	DP1.5,7,9								
					幼児理解	DP1.4,5								
			子どもの保健	DP1.4,5			子どもの医療	DP1.4,5,6						
			食育の基礎知識	DP1.4	子どもの食と栄養	DP1.6								
3. 保育の内容・方法に関する科目			健康	DP1.4	保育内容(健康)指導法	DP1.4			子どもの生活や遊びA 子どもの生活や遊びB 子どもの生活や遊びC	DP1～9				
			人間関係	DP1.4,8	保育内容(人間関係)指導法	DP1.4,8								
			環境	DP1.4	保育内容(環境)指導法	DP1.4								
			言葉	DP1.4,8	保育内容(言葉)指導法	DP1.4,8								
			表現	DP1.4,8	保育内容(表現)指導法	DP1.4,5,8,9	総合表現指導法	DP1.4,5,6,8,9						
			保育内容総論	DP1.2,3,5,6,8	コミュニケーションスキルⅠ	DP2.3,5,6,8,9	コミュニケーションスキルⅡ	DP2.3,5,6,8,9	保育の記録と伝え合い	DP1～9				
					教育課程総論	DP4								
					子どもの健康と安全	DP1.2,3								
			乳児保育Ⅰ	DP1.4,5	乳児保育Ⅱ	DP1.2,4,5,6								
							社会的養護Ⅱ	DP2,3,4,7						
					特別支援教育	DP1,2,4,6			教育相談	DP3,4,9				
					保育実習指導Ⅰ	DP1.2,3,4,5,7,9	保育実習Ⅰ	DP1.2,3,4,5,7,8						
4. 保育実習							保育実習指導Ⅱ	DP1.2,3,4,5,7,9	保育実習Ⅱ	DP1.2,3,4,5,7,8				
							保育実習指導Ⅲ	DP1.2,3,4,5,7,9	保育実習Ⅲ	DP1.2,3,4,5,7,8				
5. 総合演習									保育・教職実践演習	DP1～9				
6. 保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目			教育経営論	DP1.4										
					教育の方法と技術	DP4,5,6								
					幼稚園教育実習事前指導	DP1.2,3,4,5,7,8	幼稚園教育実習	DP1.2,3,4,5,7,8						
							幼稚園教育実習事後指導	DP1.2,3,4,5,7,8						
7. 教養科目			レクリエーション指導法	DP5,8					レクリエーション現場実習	DP5,8				
	教養ゼミナール(S・L)Ⅰ	DP4,5,6,7,8,9	教養ゼミナール(S・L)Ⅱ	DP4,5,6,7,8,9										
	社会人基礎論Ⅰ	DP4,5,6,7,8,9	社会人基礎論Ⅱ	DP4,5,6,7,8,9										
	情報機器の操作Ⅰ	DP1	情報機器の操作Ⅱ	DP1	データサイエンス入門	DP1,5,8								
							コンピュータリテラシーW	DP1						
							コンピュータリテラシーE	DP1						
							コンピュータリテラシーP	DP1,6						
					ボランティア実習Ⅰ	DP4,5,6,7,8,9	ボランティア実習Ⅱ	DP4,5,6,7,8,9						
	音楽基礎	DP1,6,8	保育者のための音楽Ⅰ	DP1,3,4,6,8	保育者のための音楽Ⅱ	DP1,2,3,4,5,6,8								
			保育者のための園園工作	DP1,5,6										
	日本国憲法	DP1,3,7												
	外国語(英語・仏語・中国語)	DP8												
	体育実技(球技・フィットネス)	DP1,8,9												
	保健体育	DP1												
	国際交流	DP8	国際交流グローバル・コミュニケーション	DP6,7,8,9										
	文化交流	DP8												
	コンソーシアム基礎教養Ⅰ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅱ	DP8										
	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	DP8										
	コンソーシアム基礎教養Ⅴ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅵ	DP8										
	コンソーシアム基礎教養Ⅶ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅷ	DP8										
コンソーシアム基礎教養Ⅸ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅹ	DP8											

令和4年度(2022年度)入学生 保育学科 ナンバリング科目コード

保育学科

保育学科コード(10000番台)を「3」として5桁

↓領域 (1000番台)	3桁目の数字→ 100番台《水準》	0		1		2		3		4							
	定義	学修到達度に関わらず、 短期大学士に相応しい教 養を身につける科目		当該領域および系列を学 修するための基礎・総論 的位置付けの科目		当該領域および系列の 各論、1の科目の応用的 内容を含む科目		当該領域および系列の 発展的内容の科目		既習科目を複合させて、 学修の集大成として取り 組むべき科目							
	領域名	科目名	下2桁	科目名	下2桁	科目名	下2桁	科目名	下2桁	科目名	下2桁						
1	保育の本質・目 的に関する科 目			保育原理	10					保育現場の幼児教育	20						
				教職概論	20												
				教育原理	30												
				社会福祉	40												
												子ども家庭福祉	40				
				社会的養護Ⅰ	41												
				子ども家庭支援論	42												
2	保育の対象の 理解に関する 科目			教育心理学	10	子ども家庭支援の心理学	10			子どもの医療	30						
						幼児理解	20										
				子どもの保健	30												
				食育の基礎知識	40	子どもの食と栄養	40										
3	保育の内容・方 法に関する科 目			健康	10	保育内容(健康)指導法	10			子どもの生活や遊びA 子どもの生活や遊びB 子どもの生活や遊びC	14						
				人間関係	11	保育内容(人間関係)指導法	11										
				環境	12	保育内容(環境)指導法	12										
				言葉	13	保育内容(言葉)指導法	13										
				表現	14	保育内容(表現)指導法	14					総合表現指導法	14				
				保育内容総論	20	コミュニケーション・スキルⅠ	20					コミュニケーション・スキルⅡ	20	保育の記録と伝え合い	20		
						教育課程総論	30										
						子どもの健康と安全	40										
				乳児保育Ⅰ	50	乳児保育Ⅱ	50										
												社会的養護Ⅱ	60				
						特別支援教育	70					教育相談	80				
				4	保育実習							保育実習指導Ⅰ	10	保育実習Ⅰ	10		
		保育実習指導Ⅱ	20					保育実習Ⅱ	20								
		保育実習指導Ⅲ	30					保育実習Ⅲ	30								
5	総合演習									保育・教職実践演習	10						
6	保育士資格取得 科目ではないが、 学校独自の科目 として開設されて いる教科目			教育経営論	10												
						教育の方法と技術	20										
						幼稚園教育実習事前指導	30					幼稚園教育実習	30				
												幼稚園教育実習事後指導	31				
				レクリエーション指導法	40					レクリエーション現場実習	40						
0	教養科目			教養ゼミナール(S・L)Ⅰ	10	教養ゼミナール(S・L)Ⅱ	10										
				社会人基礎論Ⅰ	20	社会人基礎論Ⅱ	20										
				情報機器の操作Ⅰ	30	情報機器の操作Ⅱ	30					データサイエンス入門	30				
												ボランティア実習Ⅰ	40	ボランティア実習Ⅱ	40		
														コンピュータリテラシーW	31		
														コンピュータリテラシーE	32		
														コンピュータリテラシーP	33		
				音楽基礎	50	保育者のための音楽Ⅰ	50					保育者のための音楽Ⅱ	50				
						保育者のための図画工作	60										
				日本国憲法	70												
				外国語(英語・仏語・中国語)	71												
				体育実技(球技・フィットネス)	72												
				保健体育	73												
				国際交流	74	函館グローバル・コミュニケーション	74										
				文化交流	75												
				コンソーシアム基礎教養Ⅰ	80	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	80										
				コンソーシアム基礎教養Ⅱ	81	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	81										
				コンソーシアム函館教養Ⅰ	90	コンソーシアム函館教養Ⅳ	90										
				コンソーシアム函館教養Ⅱ	91	コンソーシアム函館教養Ⅴ	91										
				コンソーシアム函館教養Ⅲ	92	コンソーシアム函館教養Ⅵ	92										

保育学科

函館短期大学(令和4年度入学生)授業科目一覧

1年次開講科目

【令和4年度(2022年度)実施】

2年次開講科目

【令和5年度(2023年度)実施】

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	F G P A	掲載 ページ
基礎 教育 科目	教養ゼミナール(S・L)Ⅰ	通年	演習	1	卒		2
	社会人基礎論Ⅰ	後期	講義	1	卒	G	4
	音楽基礎	前期	演習	1			6
	保育者のための音楽Ⅰ	通年	演習	2	卒	レ	8
	保育者のための図画工作	通年	演習	2	卒	レ	10
	日本国憲法	後期	講義	2	幼	G	12
	外国語(英語・仏語・中国語)	前期	演習	2	保 幼	G	14-19
	体育実技(球技・フィットネス)	前期	実技	1	保 幼	レ*	20-23
	保健体育	後期	講義	1	保 幼	G	24
	情報機器の操作Ⅰ	前期	演習	1	卒 幼	G	26
	情報機器の操作Ⅱ	後期	演習	1	卒 幼	G	28
	コンピュータリテラシーW	後期	演習	1		MW	30
	ボランティア実習Ⅰ	その他	実習・実習	1			32
	コンソーシアム基礎教養Ⅰ	その他	その他	2			34
	コンソーシアム基礎教養Ⅱ	その他	その他	1			36
	コンソーシアム函館教養Ⅰ	その他	その他	2			38
	コンソーシアム函館教養Ⅱ	その他	その他	2			40
	コンソーシアム函館教養Ⅲ	その他	その他	1			42

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	F G P A	掲載 ページ
基礎 教育 科目	教養ゼミナール(S・L)Ⅱ	通年	演習	1	卒		44
	社会人基礎論Ⅱ	前期	講義	1	卒	G	46
	保育者のための音楽Ⅱ	前期	演習	2			48
	コンピュータリテラシーE	後期	演習	1		ME	50
	コンピュータリテラシーP	後期	演習	1		MP	52
	データサイエンス入門	後期	演習	1			54
	函館グローバル・コミュニケーション	後期	演習	1			56
	国際交流	後期	演習	1			58
	文化交流	後期	演習	1			60
	ボランティア実習Ⅱ	その他	実習・実習	1			62
	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	その他	その他	2			64
	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	その他	その他	1			66
	コンソーシアム函館教養Ⅳ	その他	その他	2			68
	コンソーシアム函館教養Ⅴ	その他	その他	2			70
	コンソーシアム函館教養Ⅵ	後期	その他	1			72

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	F G P A	掲載 ページ
専門 教育 科目	保育原理	前期	講義	2	保	主	G 76
	教育原理	後期	講義	2	卒 保 幼	主	G 78
	子ども家庭福祉	後期	講義	2	保	ソ	G 80
	社会福祉	前期	講義	2	保	ソ	G 82
	子ども家庭支援論	後期	講義	2	保	ソ	G 84
	社会的養護Ⅰ	後期	講義	2	保	ソ	G 86
	教職概論	前期	講義	2	保 幼		G 88
	教育心理学	後期	講義	2	保 幼	心	G 90
	子どもの保健	前期	講義	2	保		G 92
	食育の基礎知識	前期	講義	2	[保選]	食	G 94
	保育内容総論	前期	演習	1	保 幼		G 96
	健康	前期	演習	1	保 幼		G 98
	人間関係	前期	演習	1	保 幼		G 100
	環境	前期	演習	1	保 幼		G 102
	言葉	前期	演習	1	保 幼		G 104
	表現	前期	演習	1	保 幼		G 106
	保育内容(健康)指導法	後期	演習	1	保 幼		G 108
	保育内容(人間関係)指導法	後期	演習	1	保 幼		G 110
	保育内容(環境)指導法	後期	演習	1	保 幼		G 112
	保育内容(言葉)指導法	後期	演習	1	保 幼		G 114
	保育内容(表現)指導法	後期	演習	1	保 幼		G 116
	乳児保育Ⅰ	前期	講義	2	保		G 118
	乳児保育Ⅱ	後期	演習	1	保		G 120
	子どもの健康と安全	後期	演習	1	保		G 122
	コミュニケーション・スキルⅠ	後期	演習	1	[保選]		G 124
	保育実習指導Ⅰ	通年	演習	2	保		G 126

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	F G P A	掲載 ページ
専門 教育 科目	保育現場の幼児教育	後期	演習	2	[保選]		G 128
	子ども家庭支援の心理学	前期	講義	2	保	心	G 130
	幼児理解	前期	演習	1	保 幼		G 132
	子どもの食と栄養	前期	演習	2	卒 保		G 134
	子どもの医療	前期	演習	1		[保選] ソ	G 136
	教育課程総論	前期	講義	2	保 幼		G 138
	総合表現指導法	後期	演習	1	保 幼		G 140
	特別支援教育	前期	演習	2	保 幼	心	G 142
	社会的養護Ⅱ	前期	演習	1	保		G 144
	教育相談	後期	演習	1	保 幼	心	G 146
	コミュニケーション・スキルⅡ	前期	演習	1	[保選]		G 148
	子どもの生活や遊びA	後期	演習	2	[保選]		G 150
	子どもの生活や遊びB	後期	演習	2	[保選]		G 152
	子どもの生活や遊びC	後期	演習	2	[保選]		G 154
	保育の記録と伝え合い	後期	演習	2	[保選]		G 156
	保育実習Ⅰ	その他	実習・実習	4	保		G 158
	保育実習Ⅱ	その他	実習・実習	2	[保実習選]		G 160
	保育実習Ⅲ	その他	実習・実習	2	[保実習選]		G 162
	保育実習指導Ⅱ	その他	演習	1	[保実習選]		G 164
	保育実習指導Ⅲ	その他	演習	1	[保実習選]		G 166
	教育経営論	後期	講義	1	幼		G 168
	教育の方法と技術	前期	講義	2	幼		G 170
	幼稚園教育実習事前指導	その他	演習	1	幼		G 172
	幼稚園教育実習事後指導	その他	演習	1	幼		G 174
	幼稚園教育実習	その他	実習・実習	4	幼		G 176
	保育・教職実践演習	後期	演習	2	保 幼		G 178
	レクリエーション指導法	後期	講義	2		レ	180
	レクリエーション現場実習	その他	実習・実習	1		レ	182

【注】(1)履修登録を申告する授業科目に関しては自身で印を記入し、単位数の合計を確認すること。

(2)必修区分欄の「卒」「保」「保選」「保実習選」「幼」「レ」「レ*」「食」「ソ」「心」「MW」「ME」「MP」「主」は次のとおりである。

卒…本学における卒業必修科目

保…保育士資格必修科目

○但し、[保実習選]…「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」を修得

[保選]…「食育の基礎知識/2単位」、「コミュニケーション・スキルⅠ/1単位」、「保育現場の幼児教育/2単位」、「子どもの医療/1単位」、「コミュニケーション・スキルⅡ/1単位」、「子どもの生活や遊びA/2単位」、

「子どもの生活や遊びB/2単位」、「子どもの生活や遊びC/2単位」、「保育の記録と伝え合い/2単位」の中から6単位を修得

但し、子どもの生活や遊びA(2単位)、子どもの生活や遊びB(2単位)、子どもの生活や遊びC(2単位)はいずれか1科目を選択し修得

幼…幼稚園教諭二種免許必修科目

レ…レクリエーション・インストラクター資格必修科目

レ*…体育実技(球技・フィットネス)のうち体育実技(球技)のみレクリエーション・インストラクター資格必修科目

食…食育指導士資格必修科目

ソ…保健児童ソーシャルワーカー資格必修科目

心…准学校心理士資格必修科目

MW…マイクロソフト オフィス スペシャリスト(Word)資格必修科目

ME…マイクロソフト オフィス スペシャリスト(Excel)資格必修科目

MP…マイクロソフト オフィス スペシャリスト(PowerPoint)資格必修科目

主…社会福祉主事任用資格取得にかかわる科目—これらの科目のうち3科目以上を修得することが資格取得の条件となる

(3)G…fGPA算出対象科目

【 基礎教育科目 】

1 年次配当科目

教養ゼミナール（S・L）Ⅰ	2
社会人基礎論Ⅰ	4
音楽基礎	6
保育者のための音楽Ⅰ	8
保育者のための図画工作	10
日本国憲法	12
外国語（英語）	14
外国語（仏語）	16
外国語（中国語）	18
体育実技（球技）	20
体育実技（フィットネス）	22
保健体育	24
情報機器の操作Ⅰ	26
情報機器の操作Ⅱ	28
コンピュータリテラシー W	30
ボランティア実習Ⅰ	32
コンソーシアム基礎教養Ⅰ	34
コンソーシアム基礎教養Ⅱ	36
コンソーシアム函館教養Ⅰ	38
コンソーシアム函館教養Ⅱ	40
コンソーシアム函館教養Ⅲ	42

2 年次配当科目

教養ゼミナール（S・L）Ⅱ	44
社会人基礎論Ⅱ	46
保育者のための音楽Ⅱ	48
コンピュータリテラシー E	50
コンピュータリテラシー P	52
データサイエンス入門	54
函館グローバル・コミュニケーション	56
国際交流	58
文化交流	60
ボランティア実習Ⅱ	62
コンソーシアム基礎教養Ⅲ	64
コンソーシアム基礎教養Ⅳ	66
コンソーシアム函館教養Ⅳ	68
コンソーシアム函館教養Ⅴ	70
コンソーシアム函館教養Ⅵ	72

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30010	ICT活用	—
授業科目名	教養ゼミナール（S・L）Ⅰ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	通年	必修区分	卒		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 日常生活において、感謝の念を抱き、自己の行動に責任を持ちつつ他者をいたわる人間性を備えることができる。 2. 社会生活全般において、協調する姿勢を示し、健康な判断と正義を尊重し、円滑な人間関係を築くことができる。 3. 専門職業人として、自律した生活を実践することができる。							
授業の概要							
本学の建学の精神である学園三訓に則り、学生生活及び将来の進路に関して、学生と教員が相互に交流し学ぶことによって、社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各担当教員と良くコミュニケーションを図り、指示された必要な準備をして参加すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含め1時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・読解力やマナー向上については「保育のマナーと言葉」のテキストで実施する。 ・合同S・Lでは感想文の提出があり、S・L担当教員が点検し返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	改訂2版 保育のマナーと言葉		長島和代 編		わかば社		978-4-907270-34-6
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
必要な事項は、担当教員の指示に従うこと。							

授業計画						
第1回 合同S・L(建学の精神、研究倫理教育について) 第2回 個別S・L(前期ガイダンス/S・L長決定) 第3回 個別S・L(学内施設見学) 第4回 S・L(地域課題の発見) 第5回 クラス合同S・L(スポーツ大会について) 第6回 合同S・L(献血理解について) 第7回 S・L(地域課題の発見) 第8回 個別S・L(読解力向上) 第9回 クラス合同S・L(つどいの広場見学) 第10回 合同S・L(夏の交通安全講習) 第11回 S・L(地域課題解決情報収集) 第12回 個別S・L 第13回 個別S・L(読解力向上) 第14回 S・L(地域課題解決情報収集) 第15回 合同S・L(性教育講座) 第16回 クラス合同S・L(短大祭準備) 第17回 合同S・L(秋の交通安全講習) 第18回 クラス合同S・L(短大祭準備) 第19回 合同S・L(学生生活について) 第20回 個別S・L 第21回 S・L(地域課題解決に向けた実践の検討) 第22回 個別S・L(読解力向上) 第23回 S・L(地域課題解決に向けた実践の検討) 第24回 クラス合同S・L(スポーツ大会について) 第25回 合同S・L(護身術について) 第26回 S・L(地域課題解決にむけた実践内容の発表) 第27回 合同S・L(冬の交通安全講習) 第28回 合同S・L(就職について1) 第29回 合同S・L(就職について2) 第30回 個別S・L						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	0	50	0	50	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かつての自覚と行動をもって、様々な角度から物事を考え適切な対処法を検討できる。	合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かつての自覚と行動をもって、さまざまな角度から物事を理解し、他者に適切に伝えることができる。	合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かつての自覚と行動をもって、さまざまな角度から物事を理解できる。	合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かつての自覚と行動をもって、さまざまな角度から物事を断片的に理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かつての自覚と行動を通して、社会人力・コミュニケーション力を身に付けている。	合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かつての自覚と行動を通して、課題解決に向けて努力することができる。	合同S・L、読解力向上という形で進んでいきますが、専門的職業人に向かつての自覚と行動を通して、課題解決に向けての他者への発信ができる。	合同S・L、読解力向上という形で進んでいきますが、専門的職業人に向かつての自覚と行動を通して、課題解決にむけての発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30020	ICT活用	－
授業科目名	社会人基礎論Ⅰ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	卒		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	林原 和哉／藤井 壽夫／橋口 奈央						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
授業のテーマ ①高校から大学への円滑な接続。 ②期待される社会人・職業人を目指す。 ③働く意義を考える。 ④コミュニケーション能力などを身につける。 到達目標 ①レポート・論文の書き方、学生生活における時間管理、プレゼンテーション等の技法を習得する。 ②コミュニケーションの基本となるあいさつ、「ホウレンソウ」、ビジネスマナー等を身につける。 ③新聞、テレビのニュースや報道番組等に関心を持ち、情報を自分で集め考えることができる。 ④就職活動に必要なエントリーシート等が書け、就職試験等で自分の意見を言える。 ⑤職業人として必要な教養を身につける。							
授業の概要							
この授業は、短大生として必要な総合教育プログラムで、学問修得に向けた動機付けなどを目標とする。 ①短大で学ぶ上で必要なレポート等の書き方、学生生活における時間管理などの学修方法を習得する。 ②「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力」、「協働して働く態度」の重要性を理解する。 ③地域社会が求める思いやり、優しさ、協調性、マナー、コミュニケーション能力などを身につける。 ④現代社会を自分で捉える能力と職業人としての教養、社会的常識、就職の基礎知識を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
普段から新聞を読み、テレビの報道番組等をみて現代社会が抱える課題について考え、配布資料の下調べをしておく。日記などを書くことで、書くことに対する苦手意識を克服しよう。地域社会が自分に何を望んでいるのか、日々の生活を通して考えてみよう。授業前にはテキストの該当箇所を読み、分からない箇所を自分でノートにまとめておく。授業後は、配布プリントなどを読んで復習し、授業テーマについて学生同士でディスカッションしてみよう。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
小テストに関しては、採点后、返却します。レポート、作文などに関しては、模範例を授業中に紹介します。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		－		－		－
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
2019年版 B 検ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト 職業教育・キャリア教育財団 監修 日本能率協会マネジメントセンター 出版							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
林原：大手電機メーカー勤務・IT系専門学校教員、短大就職支援部長の経歴を活かし、就職活動支援等を行う。藤井：国公立中学校を中心に教諭・管理職として38年の教員経験から、思考力・判断力を養うための指導を行う。橋口：函館市役所での勤務（9年間）、コンサルティング会社での各種講座実施の経験を生かし、仕事におけるマナー等の指導を行う。							
その他							
実務経験者などの外部講師による特別講話を行う場合がある。ディスカッションやプレゼンテーションなど必要に応じてアクティブ・ラーニングを行う。							

授業計画						
第1回	高校生と短大生の違い。社会人とは。なぜ働くのか。キャリアをどう形成するのか。(林原・藤井)					
第2回	地域社会が求める能力は何か。やさしさや思いやり等「人間的な力」の重要性について。(林原・藤井)					
第3回	情報モラルについて。SNS等で実際に起こったトラブルなどを解説。(林原・藤井)					
第4回	「時間意識・目標意識・協調意識」など仕事の基本となる8つの意識。(橋口・藤井)					
第5回	チームワークのためのコミュニケーションを支えるビジネスマナーの基本について。(橋口・藤井)					
第6回	指示の受け方と報告・連絡・相談、わかりやすい話し方と聞き方のポイント。(橋口・藤井)					
第7回	わかりやすいプレゼンテーション技法とは何か。パワーポイントを使ったプレゼンテーションについて。(林原・藤井)					
第8回	課題解決のための情報収集の仕方。短大で学ぶ上で必要な読む能力と書く能力。わかりやすい文章はどう書くのか。(林原・藤井)					
第9回	作文・レポートの書き方。「起承転結」の構成で作文を書いてみよう。思考力、表現力をどう養うか。(林原・藤井)					
第10回	現代社会とは何か。新聞の読み方、情報の収集の仕方、考え方。現在の政治課題、国際問題等の基本を理解する。(林原・藤井)					
第11回	「起承転結」の構成で作文を書いてみよう。思考力、表現力を養う。(林原・藤井)					
第12回	法人・企業へのアプローチ方法。ネットの活用、電話のかけ方、説明会への参加の仕方など。(林原・藤井)					
第13回	個人面接における基本的マナーと会話力について。伝える力(林原・藤井)					
第14回	集団面接とグループディスカッションの留意点。グループディスカッションにおける役割分担(林原・藤井)					
第15回	グループディスカッションの実践とプレゼンテーション資料の作成。プレゼンテーションの実践(林原・藤井)					
【授業実施方法】						
原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30050	ICT活用	○
授業科目名	音楽基礎					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	山下 真由美／高橋 セリカ						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1,6,8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育における指導者に必要とされる基礎的音楽理論の理解、ソルフェージュ力、楽譜を読み記されている内容を理解して歌う力、音楽を表現する力などの音楽の基礎力を培う。 1.単旋律の楽譜を見て階名唱ができる。（♯♭各2つまでの長・短調） 2.大譜表と鍵盤との位置関係を学び、楽譜の書写、音名や基礎的なリズムを理解できる。 3.楽譜上の音符や休符の種類、調やテンポ、音程、速度標語や音楽記号を理解する。 4.主要三和音やコード、根音や和音を基にする簡易伴奏について理解し伴奏付けを行うことができる。 5.声や発声のしくみを理解し、童謡や子どもの歌を歌唱できる。							
授業の概要							
・単旋律の楽譜を見て階名唱をおこなう。（♯♭各2つまでの長・短調） ・大譜表と鍵盤との位置関係を学び、楽譜の書写、音名や基礎的なリズムを理解する。 ・楽譜上の音符や休符の種類、調やテンポ、音程、速度標語や音楽記号を学ぶ。 ・主要三和音やコード、根音や和音を基にする簡易伴奏について理解し伴奏付けを行う。 ・声や発声のしくみを理解し、童謡や子どもの歌を歌唱する。 ・当該科目は、補修教育としてのリメディアル科目である。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習・復習の課題については、授業において明示する。予習では、次回授業内容のテキスト該当箇所を読んでくること。復習では、楽典（音楽基礎理論）とソルフェージュ（音楽基礎技能）を相互に関連付け理解が深まるよう、楽譜を書いたり、楽譜を見て歌唱（階名唱）したり、リズム打ちを行ったり、楽譜に示された音を弾いてみる等、理論と実践の融合により学びの定着を図るよう努めること。							
標準学修時間の目安							
次の授業までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範解答を研究室前に掲示する。再試験対象者に答案用紙を返却する。各自理解不十分である箇所については、テキスト・資料を再度確認し、理解を深めること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名	ISBN	
1	ゼロからはじめる楽典超入門		佐美秀俊著		備考欄参照	9784845634385	
2							
3							
使用教科書備考							
「できる ゼロからはじめる楽典超入門」 佐美秀俊著 出版社：リットーミュージック							
参考書・参考資料等							
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
・山下真由美：実務経験のある教員に該当しない。 ・高橋セリカ：ピアノ教室における個人指導（指導歴15年以上）及び、私立高等学校「音楽」授業の非常勤講師を担当（5年以上）する。函館を中心としたピアノ演奏活動の経験を生かし、保育・幼児教育における「音楽基礎」理論及び実技の指導を行う。							
その他							
保育・幼児教育に必要とされる「音楽基礎力」の獲得と伸長を目指す。楽典（音楽基礎理論）とソルフェージュ（音楽の基礎技能）を相互に関連付け、段階的に学習を進めていく。ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室において、ICTを活用した双方向型授業を実施する。							

授業計画						
第1回	オリエンテーション、幼児教育における音楽基礎力とは、校歌・学園歌歌唱練習					
第2回	楽典基礎（音符と休符、リズムと拍子）①ソルフェージュ基礎（リズム打ち）、校歌					
第3回	楽典基礎（音符と休符、リズムと拍子）②ソルフェージュ基礎（リズム打ち）、学園歌					
第4回	楽典基礎（音名、変化記号）①ソルフェージュ基礎（階名唱）、声のしくみ					
第5回	楽典基礎（音名、変化記号）②ソルフェージュ基礎（階名唱）、発声の理解					
第6回	楽典基礎（音階）①ソルフェージュ基礎（音階の理解）、発声					
第7回	楽典基礎（音階）②ソルフェージュ基礎（音階の実技）、歌唱					
第8回	楽典基礎（音程）①ソルフェージュ演習（音程の理解）、歌唱					
第9回	楽典基礎（音程）②ソルフェージュ演習（音程の実技）、歌唱					
第10回	楽典（調と調号）①移動ドの理解ソルフェージュ演習（調号理解の実技）					
第11回	楽典（調と調号）②移動ドの理解と歌唱ソルフェージュ演習（調号理解の実技）					
第12回	楽典（和音・主要三和音）①コードシステムの理解					
第13回	楽典（和音・主要三和音）②コードイハンドサインの理解・歌唱					
第14回	楽典（コード）ソルフェージュ演習、歌唱ハーモニーの理解					
第15回	音楽基礎の総合的理解と幼児教育への活用					
定期試験						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	20	10	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論（音階調性、リズム、和音）及びソルフェージュを総合的に理解している。正確な読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に分かりやすく伝えることができる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想・提示できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論（音階調性、リズム、和音）及びソルフェージュを理解している。正確な読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に伝えることができる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論（音階調性、リズム、和音）及びソルフェージュを概ね理解している。読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に伝える試みに取り組むことができる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想するよう努めている。	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論（音階調性、リズム、和音）及びソルフェージュについて断片的に理解している。読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に伝えることは概ねできる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想することは、今後の課題である。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を理解しソルフェージュの力を統合して音楽を表現することができる。身につけた基礎知識や技能及び音楽的経験を活用して、音楽や音楽表現を他者に分かりやすく伝えることができる。他者と協働してコミュニケーション力を生かし保育実践の課題解決に取り組むことができる。	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を理解しソルフェージュの力を活用して音楽を表現することができる。身につけた音楽基礎知識や技能及び音楽的経験を活用して音楽や音楽表現を他者に伝えることができる。他者と協働してコミュニケーションを育み保育実践の課題解決に取り組むことができる。	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を理解し、ソルフェージュの基礎力をもとに音楽の概要を表現することができる。身につけた音楽基礎知識や技能及び音楽的経験を基に、音楽や音楽表現を他者に伝える試みに取り組むことができる。他者と協働してコミュニケーションを育み、保育実践の課題解決に努めることができる。	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を概ね理解し、ソルフェージュの基礎力を断片的に用いて音楽を表現することができる。音楽基礎知識や技能及び音楽的経験をふまえて音楽や音楽表現を他者に伝えることは概ねできる。他者と協働して保育実践の課題解決に取り組むことは今後の課題である。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30150	ICT活用	○
授業科目名	保育者のための音楽Ⅰ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	通年	必修区分	卒レ		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	クラス別		
教員	伊藤 亜希子／高 実希子／高橋 セリカ						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 3, 4, 6, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則し、幼児教育に必要とされる音楽基礎実技の習得を目指す。具体的には、音楽基礎（音楽理論・ソルフェージュ）の知識を基に、基礎的なピアノ技術や歌唱技術の向上を目指すとともに、保育の内容を理解し、子どもの発達に応じた豊かな音楽表現活動を構想・指導できる力を培う。 1. 保育及び幼児教育に必要とされる音楽基礎技術（ピアノ実技・歌唱方法）を習得する。 2. 楽譜にドレミ階名は書きこまず、読譜力を付ける。 3. 保育・幼児教育で必要とされる子ども歌の「弾き歌い」ができる。 4. 身に付けた音楽表現力を活用し、様々な保育の場を想定したお遊戯会、リズム運動等の表現活動の企画・構想および指導力を身に付ける。							
授業の概要							
・保育及び幼児教育に必要とされる音楽基礎技術（ピアノ実技・歌唱方法）を習得する。 ・保育・幼児教育で必要とされる子ども歌の「弾き歌い」ができる音楽的基礎力・表現力を培う。 ・身に付けた音楽表現力を活用し、様々な保育の場を想定したお遊戯会、リズム運動等の表現活動の企画・構想および指導力を培う。 ・当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習・復習は、授業毎各自の基礎技術の習得段階に合わせて内容を示す。次の授業までに、保育・幼児教育に必要とされる技能習得に向け、「ピアノ実技練習、歌唱練習、弾き歌い練習」に計画的・継続的に取り組む。その際、必ず自己目標を設定し、次の授業で確認・自己評価を行う。ピアノおよび歌唱技術は毎日の練習によって上達が期待されることから、毎日30分以上は、自主的に練習する時間を自ら設けること。							
標準学修時間の目安							
ピアノおよび歌唱技術は毎日の練習によって上達することから、「毎日30分」は継続的・計画的に練習に取り組む。また、次回の授業までに予習・復習を含め2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
再試験対象者のみ、試験内容（演奏及び弾き歌い）のアドバイスをを行う。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名	ISBN	
1	幼児の音楽教育		音楽教育研究協会		朝日出版社	978-4-255-15627-9	
2							
3							
使用教科書備考							
・幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。 ・「最新・幼児の音楽教育－幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導－」 音楽教育研究協会 著							
参考書・参考資料等							
適宜オリジナル楽譜・資料を配布する							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
伊藤：ピアノ教室個人指導（指導歴25年以上）。函館、東京等での演奏活動。高：ピアノ教室個人指導（指導歴10年以上）。函館、東京、海外での演奏活動。各々の指導歴、演奏活動を生かし、実技指導を行う。高橋：ピアノ教室個人指導（指導歴15年以上）、私学高等学校「音楽」授業非常勤（5年以上）。函館を中心とした演奏活動。							
その他							
・実技（ピアノ、歌唱、弾き歌い）は、個人のグレードに応じた指導を行う。また、必要に応じて一斉指導を行う。 ・実技で取り組む楽曲については、授業内で適宜説明を行う。 ・授業は、ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室にてICTを活用した双方向型授業を実施する。その他、ピアノ個人指導室を使用する。							

授業計画						
第1回	オリエンテーション（指導内容、年間計画）保育・幼児教育における音楽表現活動ねらい					
第2回	保育・幼児教育における音楽の基礎力とは、各自の音楽体験の省察、自己目標設定					
第3回	歌唱、発声、グレードの確認、弾き歌いとは					
第4回	グレードによる基礎実技力習得の計画、弾き歌いの練習方法の提示					
第5回	弾き歌い実技練習（基礎①ドレミを楽譜に書き込まない理由）					
第6回	弾き歌い実技練習（基礎②ドレミを楽譜に書き込まない読譜）					
第7回	発声法（基礎①腹式呼吸・声域アドバイス）					
第8回	発声法（基礎②頭声・ボイスチェンジ法）					
第9回	幼児教育における情報機器の活用と音楽表現活動の関わり					
第10回	弾き歌い実技練習（基礎③運指の理解）					
第11回	弾き歌い実技練習（基礎④運指の基礎）					
第12回	弾き歌い実技練習（基礎⑤運指の実践）					
第13回	歌唱法（基礎①呼吸法）					
第14回	歌唱法（基礎②フレージング）					
第15回	前期まとめ・発表会					
第16回	前期の課題確認、後期の計画					
第17回	弾き歌い実技練習（主要三和音に基づく簡易伴奏法とは）					
第18回	弾き歌い実技練習（主要三和音の根音に基づく簡易伴奏法とは）					
第19回	弾き歌い実技練習（実践①主要三和音の分析）					
第20回	弾き歌い実技練習（実践②根音の簡易奏法）					
第21回	弾き歌い実技練習（実践③リズム奏法）					
第22回	歌唱法（実践①共鳴法）					
第23回	歌唱法（実践②声を守る・音声学）					
第24回	小学校音楽教育と幼児教育の関わり					
第25回	子どもの発達をふまえた音楽表現活動とは					
第26回	お遊戯会・発表会等の計画立案（保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて）					
第27回	伴奏法（基礎①コード理解に基づく）					
第28回	伴奏法（基礎②バリエーション）					
第29回	弾き歌い実技練習（まとめ）					
第30回	実技試験に向けた準備・試験の心得					
定期試験						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	70	10	10	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を充分習得し応用できる。身につけた技能を他者に分かりやすく示すと共に、子どもの発達に応じた豊かな表現活動の課題や改善策を考えることができる。他者と協働し豊かな表現活動を計画的に構想できる。	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を十分に習得している。身につけた技能を他者に示すと共に、子どもの発達に応じた表現活動の課題や改善策を考えることができる。他者と協働した表現活動を構想できる。	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を習得している。身につけた技能を他者に示すと共に子どもの発達に応じた表現活動の課題や改善策を考えるよう努力することができる。他者と協働した表現活動のイメージをもつことができる。	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を充分ではないが習得している。身につけた技能の一部を他者に示すことはできるが、子どもの発達を考えた表現活動の課題考察や他者との協働による表現活動の構想は、今後の課題である。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を充分習得し、保育に関する課題について、具体的な解決策を考えることができる。発達段階に配慮し、子どもの成長を促すことを目的として身につけた知識・技能を他者に伝えることができる。他者と協働して音楽表現活動を計画的に構想できる。	保育者の社会的使命を理解し、保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を習得し、保育に関する課題について解決策を考えることができる。子どもの成長を促すことを目的として身につけた知識・技能を他者に伝えることができる。他者と協働して音楽表現活動を構想できる。	保育者の社会的使命を理解し、保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を概ね習得し、保育に関する課題について解決策を考えようと試みることができる。子どもの成長を促すことを目的として身につけた知識・技能を他者に伝えようと努力できる。他者と協働して音楽表現活動のイメージをもつことができる。	保育者の社会的使命を知り保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を充分ではないが習得し、継続学習の必要性を認識できる。保育に関する課題の解決策や子どもの成長を目的として身につけた知識・技能を他者に伝えること、他者と協働して音楽表現活動のイメージをもつこと等は、今後の課題である。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30160	ICT活用	—
授業科目名	保育者のための図画工作					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	通年	必修区分	卒レ		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 5, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいに即し、保育者に必要とされる造形基礎知識・技術の習得を目指す。絵画、彫刻、工芸、デザイン等の各領域を横断的かつ総合的に演習し、平面・立体の表現力を高める。 到達目標は以下の3つである。 1. 色彩と形の様々な演習を通して、視覚的イメージ力や表現力を高めることができる。 2. 立体イメージを平面上に再現することができる。 3. 平面イメージに沿って、具象的・抽象的立体物を木片等様々な素材を駆使しながら表現できる。							
授業の概要							
保育者に必要とされる造形基礎知識・技術の習得をねらいとして授業を進める。様々な造形表現の経験により、形や色彩等視覚的イメージを伸ばす。さらに手間や時間を掛けて造形作品を完成させることにより、自ら達成感を味わい、抽象的かつ具体的思考を培い、図画工作（造形表現活動）に対する興味・関心を高める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
講義用資料（プリント類－担当者作成）を随時配付する。授業後には復習し、日頃より人間の造形文化活動や自然の形態や人工的デザインに関心を持ち、美術展等の鑑賞を続ける。 実技演習中心であることから、完成までの時間に個人差も見られるため、授業外制作時間を必ず確保し、作品を完成させること。各自放課後制作及び自宅へ持参し、制作時間の個別調整（遅延の場合等）は各自もうける。							
標準学修時間の目安							
1回の講義・演習あたり、復習（作品の補足・遅延時）に重点を置き、4時間程度の学修時間が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業や展示で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
予定の計画で行うが、ほとんど実技演習であるため、時間配分に延長・短縮が出てくる場合もあるので随時調整して進める。 絵の具セット、その他の道具類は指示に従い、持参・保管する。							

授業計画						
第1回 ガイダンス、教材の配布・確認 第2回 言葉と造形表現①～川柳の作成 第3回 言葉と造形表現②～ちぎり絵の制作（色の選定） 第4回 言葉と造形表現③～ちぎり絵の制作（切り貼り） 第5回 言葉と造形表現④～作品解説の作成 第6回 言葉と造形表現⑤～鑑賞・合評 第7回 構成デザインの基本・造形要素の理解 第8回 色彩論・絵具の使い方 第9回 色面構成制作①～モチーフの観察・素材から形の抽出 第10回 色面構成制作②～形による構成（下図の作成） 第11回 色面構成制作③～色による構成（配色決め） 第12回 色面構成制作④～絵具による色づくり・着色 第13回 色面構成制作⑤～仕上げ 第14回 色面構成制作⑥～作品解説の作成 第15回 色面構成制作⑦～鑑賞・合評 第16回 立体作品制作①～導入 第17回 立体作品制作②～造形素材の選択 第18回 立体作品制作③～素材研究（手による加工） 第19回 立体作品制作④～素材研究（道具による加工） 第20回 立体作品制作⑤～素材研究（素材の組み合わせ） 第21回 立体作品制作⑥～素材研究（素材の特性の分析） 第22回 立体作品制作⑦～素材研究の発表 第23回 立体作品制作⑧～接着材の扱い方 第24回 立体作品制作⑨～土台作り・アイディアスケッチや平面図 第25回 立体作品制作⑩～立体の制作（組み立て） 第26回 立体作品制作⑪～立体の制作（接着や着色） 第27回 立体作品制作⑫～立体の制作（仕上げ） 第28回 立体作品制作⑬～作品解説の作成 第29回 立体作品制作⑭～鑑賞・合評 第30回 授業のまとめ						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	80	0	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育で用いられる様々な教材の特性を理解し、活用することができ、自己の持つイメージの言語的把握ができ、そのイメージを色彩と形態に変換・再現することができる。さらに創造的な具象的・抽象的造形表現力を身につけ保育者として乳幼児に寄り添いながら教材を扱うことができる。	保育で用いられる様々な教材の特性を理解し活用することができ、自己の持つイメージの言語的把握とそのイメージを色彩と形に変換・再現することができる。また創造的な視覚イメージ力や造形表現力を高めることができる。	保育で用いられる様々な教材の特性を理解し、活用することができる。またイメージの言語的把握とそのイメージを色彩と形に変換・再現することができる。	保育で用いられる様々な教材の特性を十分に理解し、活用することができない。またイメージの言語的把握とそのイメージを色彩と形に変換・再現する力や完成度に乏しい。さらに具象的・抽象的表現の概念を明確に理解できない。		
該当DPに対する到達度の目安	自然環境や生活環境においてその多様な美的で造形的な課題に感動でき、機能性を理解し、創造的かつ想像的に豊かな日常を送ることができる。またその自然的・人工的環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を保育者として後継する幼児へ伝達・実践することができる。	自然環境や生活環境においてその造形的な美しさに感動でき、また機能性を理解し、日常を送ることができる。また身の回りの環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を保育者として後継する幼児へ伝達することができる。	自然環境や生活環境においてその造形的な美しさに感動することができ、またその環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を保育者として後継する幼児へ伝達することができる。	自然環境や生活環境においてその造形的な美しさに無関心・無感動の度合いが大きく、ものの見方・態度などが型にはまって固定的で多様な見方に乏しい。またその環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を周囲の人々に伝えることに乏しい。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30070	ICT活用	—
授業科目名	日本国憲法					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	小林 美紗						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 3, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
①それぞれの人権規定が何を保障しているのか、なぜ保障しなければならないのかを理解する。 ②憲法は個人の人権を保障するために公権力を制限する法であることを理解する。 ③権力分立の仕組みや必要性を理解する。							
授業の概要							
日本国憲法の原理・原則を理解する。 様々な人権問題についての学習を通じ、人権意識・感覚を身につける。 現代的な人権感覚を身につけることは、多様な子どもや保護者と関わる保育者にとって必須である。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習は、授業日までに教科書の指定箇所を読み、関連する資料の下調べを行うこと。 復習は、授業時間内に配布するレジュメに示された問題を授業内容を振り返りながら解くこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり、2 時間の予習と 2 時間の復習が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に再試験対象者にのみ答案用紙を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	「伊藤真の憲法入門」第6版		伊藤真		日本評論社		978-4-535-52304-3
2							
3							
使用教科書備考							
「伊藤真の憲法入門」第 6 版（講義再現版）を使用する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
日本国憲法の全条文をプリントアウトしたものを初回の講義で配布する。 講義毎にレジュメを配布する。							

授業計画						
第1回 立憲主義 第2回 国民主権と民主主義 第3回 平和主義 第4回 権力分立と立法権（国会） 第5回 行政権（内閣）と司法権（裁判所） 第6回 人権総論と人権享有主体性 第7回 平等原則 第8回 精神的自由権①（思想・良心の自由、信教の自由、学問自由） 第9回 精神的自由権②（表現の自由） 第10回 参政権 第11回 経済的自由権 第12回 人身の自由 第13回 社会権 第14回 受益権と新しい人権 第15回 地方自治、憲法改正、憲法の私人間効力						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	70	0	0	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について理解しており、それらを他者に説明することができるとともに憲法に関する問題について自らの考えを表現することができる。	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について理解しており、それらを他者に説明することができる。	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について理解している。	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	現実社会における人権問題と身に付けた知識を関連付けることができ、関連する情報を収集・分析し、他者へ相当説得的な意見表明をすることができる。	現実社会における人権問題と身に付けた憲法の知識を関連付けることができ、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	現実社会における人権問題と身に付けた憲法の知識を関連付けることができる。	現実社会における人権問題と身に付けた憲法の知識を関連付けることがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30071	ICT活用	-
授業科目名	外国語(英語)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	阿部 ジョスリン						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能(DP1~3)、思考力・判断力・表現力(DP4~6)、コミュニケーション力・社会力(DP7~9)					
授業のテーマ及び到達目標							
This class is designed for active communication for nursery school teachers and kindergarten teachers. We will practice speaking, listening, reading and writing. Each class will focus on a new aspect of learning English which will be helpful for talking with children or their parents. The goal of the course is that students will be able to understand spoken and written English as well as communicate using basic structures in English. 本授業の内容は保育士、幼稚園教諭をめざす学生を対象としたアクティブコミュニケーションである。英語の四技能ー話す、聞く、読む、書くーを学び、特に、子どもとその保護者との会話に役に立つ英語に焦点を当てる。英語によるコミュニケーションの基本と会話及び文章としての英語が理解できるようになることを到達目標とする。							
授業の概要							
Each class requires students to participate in speaking and listening activities with other students. There will be dialogue practice activities in class, and also some writing activities. Students should ensure proper understanding by completing textbook exercises. 毎回の授業において、他の学生と一緒にスピーキングとリスニングに参加することを学生に求める。また、会話やライティングの練習も行う。学生はテキストの内容を十分に理解してることが必要である。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
Reviewing each lesson is important to be well prepared for the next class. It is important to read the textbook exercises again after class and review grammar and vocabulary. 各授業の復習が次の授業の予習にもつながる大切なものである。授業後に教科書の練習問題を読み返し単語と文法を確認すること。							
標準学修時間の目安							
At least 4 hour of preparation time is required for each class. どの授業も4時間の予習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
There will be 2 tests, based on the textbook. Class participation accounts for 50% of students' mark テキストに基づいて2回のテストを行い、それぞれが25%の評価に相当する。授業への参加意欲等は、評価の50%に相当する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	使用教科書備考に記載	使用教科書備考に記載	備考に記載	978-4-523-17883-5			
2							
3							
使用教科書備考							
教科書：Speaking of Childcare 著者：Peter Vincent, Naoko Nakazato 出版社：Nan'un-Do ISBN 978-4-523-17883-5							
参考書・参考資料等							
Englsh/Japanese , Japanese/Englsh dictionary in book or electronic form							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
Lecturer at Hakodate University since 2013 ; Hokkaido University of Education Fuzoku Kindergarten English teacher since 2017 2013年より函館大学。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回 Orientation of class, Introduction of students and teacher in English 第2回 Talk about countries and nationalities using questions 第3回 Talk about nursery school teacher activities using 'How often...' questions 第4回 Talk about childhood sicknesses and medical products 第5回 Talk about children activities at nursery school using the continuous tense 第6回 Talk about children's feelings using various adjectives 第7回 Use the imperative to talk about Do's and Don'ts in a nursery school 第8回 Review Test of Lessons 1 - 7 (25%) 第9回 Use Let's and Let's not to talk about nursery school activities 第10回 Use playground words to talk about what children want to do 第11回 Use modal verbs to talk about nursery school activities 第12回 Continue the use of modal verbs 第13回 Use the past tense to talk about how children acted at nursery school 第14回 Talk about injuries and emergencies at nursery school 第15回 Use the future tenses to talk about events which are going to happen Final Test of Lessons 8-15 (25%) 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	50	0	0	0	50	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	Student can listen and speak English very well with good intonation and is eager to join activities	Student can listen and speak English well with some small errors but student is active in class activities	Student is able to listen and speak some basic English patterns and phrases however some errors occur	Student can listen and speak some very basic English, however some errors may hinder understanding		
該当DPに対する到達度の目安	enable student to conduct basic conversations well, related to children's activities and needs in clear and correct English	enable student to conduct basic conversations related to children's activities and needs in clear English	enable student to conduct basic conversations related to children's activities in clear English, correcting through repeating and writing	enable student to conduct basic conversations related to children's activities in clear English, correcting errors as necessary		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30071	ICT活用	－
授業科目名	外国語 (仏語)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	竹花 和晴						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. フランス語独特の発音を習い、実際に発音できる。 2. フランス語独特の表記を習い、書く事ができる。 3. フランス語で簡単な会話ができる。 4. フランス料理のレシピを読むことができる。							
授業の概要							
フランス語はヨーロッパ諸語の中で最も重要な言語の一つであります。また、全世界的な学術と外交用語でもあります。文化や経済等の国際交流が発展するなかで、フランス語は益々その重要性を増しつつあります。本授業は保育学科の学生を対象としており、フランス、カナダ、スイス、ベルギー、アフリカ等のフランス語圏諸国で現在話されている生きた会話を学習すると共に、調理レシピ (recipe) や文献の読解への道筋を開くことの契機にしたいと考えております。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業で学習した内容について、繰り返し声をだして練習するとともにその内容を覚える。次の授業に出席する前に次の単元の分からない単語を調べてくること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり2時間の予習と2時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に、模範解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名		出版社名		ISBN	
1	やさしく学ぶ旅のフランス語	中村敦子		第三書房		978-4-8086-2200-8	
2							
3							
使用教科書備考							
「LE FRANCAIS POUR LE VOYAGE」（やさしく学ぶ旅のフランス語） 3 訂版							
参考書・参考資料等							
「仏和辞書」中または小辞典（出版社は随意）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
1985年、フランス国立自然史博物館博士課程前期（DEA：修士課程相当）資格取得。1991年同上博士課程学位取得 (仏国大学省認定統一博士号)。1995年から現在、函館短期大学仏語非常勤講師。2014年から現在、フランス自然史博物館人類古生物学研究所通信会員（日本担当）。仏語論文、国際学会発表複数あり。							
その他							
外国語習得の要諦は、第一にたゆまざる学習の継続であると思われる。そして、学習したことを、理解し、応用できることであると考えられる。必要に応じて、フランス語での簡単なプレゼンテーションを実施する。							

授業計画						
第1回 フランス語の歴史、現在のフランス語、日本におけるフランス語等について 第2回 フランス語独特の発音や表記等について 第3回 フランス語独特の発音や表記、数字の発音 第4回 教科書第1課の規則動詞と助動詞を伴う会話 第5回 教科書第2課の「旅先のホテルでの会話」(疑問文の文例等) 第6回 教科書第2課の「旅先のホテルでの会話」(フロントでの会話例等) 第7回 教科書第3課の「フランスの生活」と不規則動詞等について 第8回 教科書第3課の「フランスの生活」と数を伴う会話 第9回 教科書第4課の「観光と乗り物」に伴う会話 第10回 教科書第4課の「観光と乗り物」と否定文等について 第11回 副教材「フランス料理のレシピ」1 (原文の読解、料理の材料と分量) 第12回 副教材「フランス料理のレシピ」2 (原文の読解、料理の下準備文例) 第13回 副教材「フランス料理のレシピ」3 (原文の読解、調理の指示・命令形例) 第14回 副教材「フランス料理のレシピ」4 (原文の読解、料理のテーブルセッティング) 第15回 教科書と副教材を活用した全て学習の点検(まとめ)						
【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	40	0	0	0	60	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で秀逸な到達度に達している。	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で優秀な到達度に達している。	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で良好な到達度に達している。	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で最低限の到達度に達している。		
該当DPに対する到達度の目安	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しようとすることができる可能性を学習したことに秀逸な到達度に達している。	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しようとすることができる可能性を学習したことに優秀な到達度に達している。	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しようとすることができる可能性を学習したことに良好な到達度に達している。	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しようとすることができる可能性を学習したことに最低限の到達度に達している。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30071	ICT活用	—
授業科目名	外国語(中国語)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	東出 隆司						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会力(DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
この授業を選択された殆どの方にとっては、英語以外では初めてふれる外国語だと思います。隣国のコトバである中国語を学びます。この中国語の学習を通して、日本文化の源である中国文化に触れながら学んだ中国語を使つての自分の紹介ができる、語彙・表現力・発音を身につけることを目指します。自分の日常や家族、好みなどを表現し、相手に伝えられるレベルの習得を目標とします。							
授業の概要							
中国語は双方が漢字を使用している点で身近な外国語と言えます。この中国語の授業では、日本語と異なった、発音や文法、中国で新しく使われている簡単字等を学びます。「聞く、話す、読む、書く、訳す」の外国語学習の基本的習得を目指します。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
中国語は書き表すと大体意味が通じますが、「音」で伝えることが大切です。できるだけ多く中国語の「音」に接する機会を自ら持つようにしましょう。その為には、NHKの中国語講座（ラジオ・テレビ）の視聴をしてください。またテキスト付属のCDは、会話部分を2つの速度で録音されていますのでとても便利です。繰り返し視聴してください。音声ダウンロードURLもありますので、ダウンロードして活用してください。							
標準学修時間の目安							
はじめての言語ですので、予習は難しいと思いますが、授業でその都度習った単語を自分のものにできるよう、後ろに30分程度、習ったものを確実に自分のものにする時間を持ってください。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
中国語は漢字で表記される言語ですので、その表記には大きな戸惑いはないと思います。問題は「音」・「発音」です。この点は、授業の中で個別に発音を求められることが多くあります。「発音」の確認です。その都度、指導します。わからない点は、その都度投げかけていただくか、授業の始めや終わりの時間も利用してください。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	はじめての中国語		郭 明輝		朝日出版社		978-4-255-45356-9
2							
3							
使用教科書備考							
授業の最初は発音に3コマほどとられます。そのあと、課文の勉強に入り、語彙を少しずつ増やします。中国語の「音」を学習する為には、出版社開発のアプリをダウンロードして折にふれて聞いてください。							
参考書・参考資料等							
NHKラジオ中国語テキスト「まいにち中国語」テレビ中国語テキスト「テレビで中国語」、小学館刊「日中辞典」「中日辞典」。辞書は図書館にあります。又、ネット上には多数の学習動画がありますので活用してください。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
「函館日中友好協会」会長として、市内で年間を通しての一般社会人向け「中国語講座」を運営、講義。函館市・裁判所・検察庁・海保・等の、中国語（北京語）通訳人登録。ヘルプデスク（外国人緊急医療サポート）団員。							
その他							
言語は、コミュニケーションの手段ですから、その言語を表記できる、書けることも大切ですが、話せることがより試されます。筆記試験の他に授業最終日（15回目授業）には口試（話すテスト）があります。習った言葉を組み合わせ、自分のことを表現してください。							

授業計画						
第1回	中国語全体の特徴と構成を学ぶ（プリント）					
第2回	中国語の声調と発音の基本					
第3回	テキスト・発音編・母音・子音と組み合わせ					
第4回	発音のまとめ、ピンインの読み（映像を見て学習）					
第5回	自分の名前の中国語発音や紹介文（テキスト第1課）					
第6回	自分の好きな食べ物や趣味の言い方（テキスト第2課）					
第7回	家族の紹介（テキスト第3課）					
第8回	年・月・日や時間等、数字を使つての表現（テキスト第4課）					
第9回	いくつかの疑問文と可能の表現法（テキスト第5課）					
第10回	経験を表す、又、希望を伝える表現（テキスト第6課）					
第11回	いくつかの介詞を使つての表現（テキスト第7課）					
第12回	補語を使つての表現（テキスト第8課）					
第13回	比較表現・逆説表現（テキスト第9課）					
第14回	仮定の表現（テキスト第10課）					
第15回	まとめ。これまで学んだ単語、表現法を使つて自分の紹介を中国語で話してみる。					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30072	ICT活用	—
授業科目名	体育実技(球技)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼レ		
授業形態	実技	単位数	1	担当形態	単独		
教員	小越 康雄						
該当ディプロマ・ポリシー DP項目番号		DP1, 8, 9					
		知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会力(DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
3種類の球技(バドミントン、バスケットボール、バレーボール)を通して、技術と体力向上を目指す。 1. 多種目特有の動きを身に付けることができる。 2. 各種目のルールを説明することができる。 3. 積極的に参加することにより運動量を増やすことができる。 4. コミュニケーション能力を高めることができる。							
授業の概要							
本講義では、球技3種類を実践し、それぞれの球技の技術と体力の向上を図り、さらには他者とのコミュニケーション能力を養う。							
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)							
バドミントン・バスケットボール・バレーボールについて普段から関心を持ち、インターネットや新聞・テレビ等、様々なものに目を通すこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり1～2時間の自主学修が望ましい。							
課題(試験やレポート等)のフィードバック							
個々人の習熟度により、目標に達していない場合は、課題を課し、積極的にクリアするように技術向上に努めさせる。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
必要な資料等、プリントを配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
北海道公立高等学校で保健体育を指導した経験にもとづき、球技の知識と技術を適切かつ効果的に指導する。							
その他							
運動靴、ジャージを着用すること。							

授業計画						
第 1回	オリエンテーション(アイスブレイキングのプログラム、アイスブレイキングの効果を高める技術、レクリエーション活動の相互作用促進するためのコミュニケーション技術、暖かくもてなす意識と配慮)					
第 2回	楽しむ力を高める技術、気持ちをひとつにするコミュニケーション技術、スポーツレクリエーション、レクリエーション支援活動の手段の習得					
第 3回	身体活動①(バドミントン：ラケットの持ち方、シャトルの打ち方等)					
第 4回	バドミントン(ストローク、ミニゲーム等)					
第 5回	バドミントン(シングルスゲーム、ダブルスのゲーム)					
第 6回	教育・福祉分野の現場でのレクリエーション支援の立案、立案したプログラムを利用した身体活動の実施					
第 7回	身体活動②(バスケットボール：ボール慣れ、パス、ドリブル、シュート等)					
第 8回	バスケットボール(ドリブルシュート、ハーフコートのゲーム)					
第 9回	バスケットボール(リーグ形式によるゲームの計画と運営)					
第10回	身体活動③(バレーボール：ボール慣れ、パス、レシーブ、サーブ)					
第11回	バレーボール(パス、レシーブ、アタック)					
第12回	バレーボール(チーム戦術をもとにしたゲーム)					
第13回	バレーボール(リーグ形式によるゲーム計画と運営)					
第14回	対象者に合わせた表現の立案					
第15回	総合的な表現活動(ダンスを含む)の実施、まとめ					
【授業実施方法】						
原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30072	ICT活用	—
授業科目名	体育実技 (フィットネス)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	実技	単位数	1	担当形態	単独		
教員	原崎 千鶴子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
体育実技のフィットネスによる体力の維持増進と安全で正しい身体の動きを学ぶ 1. 立位、座位などでの良い姿勢を身に付け、運動時に活用する。 2. 安全で効果的な有酸素運動（エアロビックスダンスなど）の基本動作を学び、心肺機能の向上を図る。 3. 目的に合ったレジスタンス運動を安全で効果的に実践し、障害予防に役立てる。 4. 柔軟性向上のための基本動作を学び柔軟運動を実践する。 5. 平衡感覚の維持向上をめざしバランス運動の基本を学ぶ。							
授業の概要							
有酸素運動で心臓や肺の働きを改善し運動不足を解消させる。正しいフォームでレジスタンス運動やストレッチング、バランス運動を行い、骨や筋、関節の働きを改善し、安全で効果が得られるような動きを学習する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
復習：配布する復習ノートに、授業で学んだ動きから各自が選択し、実践した感想をまとめ提出する。原崎千鶴子配信のYouTubeを活用する。 予習：配布する予習ノートに、授業で学んだ動きや内容を応用し課題を見つけ次回の授業までに提出する。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり1時間程度の自主学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各自の習得度に合わせ、課題を課し積極的にサポートしクリアできるよう努めさせる。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
健康・体力づくりの運動指針の基盤であるACSM（アメリカスポーツ医学会）上級資格を取得し、予防医学的な運動処方や運動プログラムを開発し30年以上にわたり現場での指導を行っている。ADI、REI、SEIなどの資格認定テスト、教習ワークショップにおいて、理論・実技ワークショップの講師及び実技テストの試験官を担当している経験から、最新の理論にもとづいた指導をする。							
その他							
ジャージを着用。 シューズを履く。 各自で水分を用意する。							

授業計画						
第1回 自分の体力を知り、体に触れ、骨や筋、関節の仕組みを学ぶ。 第2回 悪い姿勢が及ぼす影響を理解し、良い姿勢について学ぶ。 第3回 レジスタンス運動と柔軟運動の基本を学ぶ。 第4回 ウォーキングとジョギングの正しいフォームを学ぶ。 第5回 エアロビックダンスエクササイズの基本ステップを学ぶ。 第6回 エアロビックダンスエクササイズの基本ステップの演習。 第7回 エアロビックダンスエクササイズのリースタイル学ぶ。 第8回 エアロビックダンスエクササイズのコネクションを学ぶ。 第9回 運動強度の変換&レジスタンス運動&柔軟運動を学ぶ。 第10回 下肢と上肢のスムーズな動き&レジスタンス運動&柔軟運動の演習。 第11回 リズムチェンジ&レジスタンス運動&柔軟運動の実演。 第12回 面の変化とターン&バランス運動を学ぶ。 第13回 フォーメーション&バランス運動の演習。 第14回 課題の動きの実演。 第15回 まとめ						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	50	20	20	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	健康・体力づくりから生活習慣病予防のために必要な基礎知識を理解し、自分の体力レベルの改善点を見つけ、集団、個人でも安全で効果的な運動に取り組み継続していくことができる。	健康・体力づくりから生活習慣病予防のために必要な基礎知識を理解し、自分の体力レベルの改善点を見つけ、集団において安全で効果的な運動に取り組むことができる。	健康・体力づくりから生活習慣病予防のために必要な基礎知識を理解し、自分の体力レベルの改善点を見つけ、実践できている。	健康・体力づくりから生活習慣病予防のために必要な基礎知識を最低限理解し、自分の体力レベルの改善点を見つけ、実践する努力ができる。		
該当DPに対する到達度の目安	有酸素運動、レジスタンス運動、柔軟運動、バランス運動などの基本の動きを身に付け、正しい姿勢で実践し、個人でも日常生活に活用できている。グループワークでの課題プログラムに取り組む際に、集団をまとめる力と協調性を身に付けている。	有酸素運動、レジスタンス運動、柔軟運動、バランス運動などの基本の動きを身に付け、正しい姿勢で実践し、個人でも日常生活に活用できている。グループワークでの課題プログラムに取り組む際に、積極的な意見や行動を示すことができる。	有酸素運動、レジスタンス運動、柔軟運動、バランス運動などの基本の動きを身に付け、正しい姿勢で実践し、個人でも日常生活に活用できている。	有酸素運動、レジスタンス運動、柔軟運動、バランス運動などの基本の動きを身に付け、概ね正しい姿勢で実践し、個人でも日常生活に活用する努力ができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30073	ICT活用	—
授業科目名	保健体育					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	単独		
教員	小越 康雄						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP 1					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
・現代社会がかかえる健康課題について説明できる。 ・健康増進の取り組みについて説明できる。 ・健康づくりのための運動や栄養について説明できる。 ・健康管理の具体的方法について説明できる。							
授業の概要							
健康を維持するためには、日々の生活習慣が重要である。本講義では健康の概念をはじめ、健康に影響を与える様々な生活習慣や環境要因について学び、自らの健康の維持に役立てる能力を養うことを目標とする。また、現代の日本がかかえている健康の問題点や国民の健康増進の推進に関する基本的な方向、目標等を理解するため、健康管理に関連のある最新情報を紹介し、生涯にわたり心と体を健康に保つための知識を広く解説する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
教科書、ノート及び授業内で配布するプリントを見返して、授業内容についての理解を深めること。さらに、授業で取り上げる関連内容について普段から関心を持ち、インターネットや新聞・テレビ等、様々なものに目を通したり、関連する資料を調べておくこと。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	健康増進科学概論	今村 裕行ほか	東京教学社	978-4-8082-6080-4			
2							
3							
使用教科書備考							
イラスト健康増進科学概論 第2版 —運動・栄養・休養—							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
北海道公立高等学校で教諭、管理職として36年間の教職経験を有する。							
その他							
必要に応じてプリント資料を配布する。 必要に応じて、授業に関連した内容について調べたことをプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第1回 健康のとらえ方 第2回 平均寿命と死亡率 第3回 健康づくりのこれまで 第4回 ライフステージと健康 第5回 現代社会がかかえる健康の課題 第6回 健康と体力の関係 第7回 健康とスポーツを支える筋肉 第8回 運動を正しく安全に行うために 第9回 有酸素性運動 第10回 栄養と食生活 第11回 体重管理のための食事と栄養 第12回 嗜好品と健康 第13回 メタボリックシンドロームの運動・食事療法 第14回 精神的ストレスと運動 第15回 これまでの学習のまとめ						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	80	0	10	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	健康を維持するために必要な知識について理解し、他者に詳細な情報を伝えることができるとともに、新たに発生した健康問題に対して適切な対処法を検討できる。	健康を維持するために必要な知識について理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	健康を維持するために必要な知識について理解している。	健康を維持するために必要な知識について断片的にしか理解していない。		
該当DPに対する到達度の目安	現代が抱えている健康問題や課題を自ら発見し、身に付けた知識で的確に認識して解決に結び付けるとともに、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	現代が抱えている健康問題や課題と身に付けた知識を関連付けることができ、より詳細な情報の収集と他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	現代が抱えている健康問題や課題と身に付けた知識を関連付けることができ、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	現代が抱えている健康問題や課題と身に付けた知識を結び付けることはできるが、関連する情報の収集や他者への発信を行うことができない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30030	ICT活用	○
授業科目名	情報機器の操作 I					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	卒幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	渡辺 真保						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
Microsoft Wordの基本～中級レベルの操作方法を習得し、情報モラルを学ぶとともに、社会で幅広く活用できる技術を身につけることを目標とする。 ・Windowsの基本的な操作を行うことができる。 ・データを正確に、ある一定以上のスピードで入力できる。 ・表、図、イラスト、写真を含めた文書を体裁よく作成できる。 ・ビジネス文書の体裁を覚え、適切な社内文書・社外文書を作成できる。 ・インターネットを利用して情報の検索・収集ができ、安全に利用することができる。							
授業の概要							
多くの職場、学校、家庭で利用されているMicrosoft Wordの操作方法を習得すると同時に、ビジネス文書の体裁を覚え、パソコンを使用して、社会人として適切な文書・資料を作成する技術を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・授業で学習した操作を復習し、質問がある場合は、次回の授業までにまとめておくこと。 ・毎回課題を出すので、完成させておくこと。 ・効率よく文書を作成するには、ある程度の文字入力のスピードが必要なので、各自タイピング練習をすること。 ・次回の授業でカバーする箇所に目を通しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出後の授業でコメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	30時間Word2019	-	実教出版	978-4-407-34836-1			
2							
3							
使用教科書備考							
30時間でマスター Word2019							
参考書・参考資料等							
リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office活用術2019対応 演習問題全173 NOA出版							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
大文堂外語・パソコンスクール マネージング・ディレクター、インストラクター 個人対象や、文化センター、企業、官公庁での初級から上級のパソコン講習を担当							
その他							
学習内容を定着させるために、ほぼ毎回課題を出す。 わからないところがある場合は、授業の時だけではなく、電子メールでの質問も受け付けるので、積極的に質問し解決すること。							

授業計画						
第1回 Windows基本操作、タッチタイピングの基本 第2回 インターネット検索、情報モラル、文字変換、辞書機能、保存 第3回 文章の入力 第4回 印刷、文字・文の複写・削除・移動 第5回 表の作成と編集 第6回 画像・テキストボックスの挿入と編集 第7回 演習問題 第8回 オンライン画像・ワードアートの挿入と編集 第9回 図形描画、スクリーンショットの挿入と編集 第10回 スマートアートの挿入と編集、演習問題 第11回 段組み、ドロップキャップ、ページ罫線 第12回 はがき印刷・差し込み印刷 第13回 グラフの挿入、ページ区切り、PDF変換 第14回 総復習・演習問題 第15回 総復習・演習問題 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	80	0	15	0	5	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	ワードの各機能を良く理解し、目的に合わせて適切なレイアウトで、文章、図、表等を組み入れて見栄えの良い文書を作成することができる。また、素早く正確に文字入力ができる。	ワードの各機能を理解し、目的に合わせて、文章、図、表等を組み入れた文書を作成することができる。また一定のスピード以上で正確に文字入力ができる。	ワードの主要な機能を理解し、文章、図、表等を組み入れた文書を作成することができる。また、一定のスピード以上で文字入力ができる。	ワードのごく基本的な機能を理解し、資料等を作成することができるが、図や表を入れた場合、レイアウト調整に時間がかかる。		
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援を行う上で、ワードを活用して効果的な情報の発信や記録をする力を身につけており、事務作業も効率化させることができる。	保育と子育て支援を行う上でワードを活用して情報の発信や記録をする力を身につけており、事務作業も効率化させることができる。	保育と子育て支援を行う上で、ワードを活用して情報の発信や記録をする基礎力を身につけており、事務作業もある程度効率化させることができる。	保育と子育て支援を行う上で、ワードを活用して情報の発信や記録をする最低限の力を身につけている。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30130	ICT活用	○
授業科目名	情報機器の操作Ⅱ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			66条の6に定める科目				
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	卒幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山崎 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
エクセル操作による資料作成、分析、加工することが学習テーマである。 到達目標は以下になる。 1. データの編集、表示形式と罫線などのレイアウト編集ができる。 2. 絶対参照を使った式の作成と論理関数の条件複合を理解し、関数作成ができる。 3. 適切なグラフを選択し、効果的で訴求効果のあるグラフを作成できる。 4. データ抽出と集計の方法を学習し、データベースの基本を理解し、簡単な集計ができる。 5. VLOOKUP関数、データベース関数を利用して資料分析ができる。							
授業の概要							
情報利活用能力を養う科目です。エクセル操作の考え方と実務で要求されていることを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶことが授業の概要である。 適宜小テストを実施する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
【予習】事前配布するプリントとテキストの該当部分を併読し、テキストに必要事項を書き込む。操作内容と用語をおおまかに理解する。 【復習】テキストと書き込みを読み、パソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認する。また授業で指定された操作を演習して課題を作成する。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	30時間Excel2019		-		実教出版		978-4-407-34837-8
2							
3							
使用教科書備考							
30時間でマスターExcel2019							
参考書・参考資料等							
実践ドリルで学ぶ Office活用術 Word・Excel・PowerPoint							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得し、現在パソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格試験のレッスンを実施している。実務経験にもとづいた最新の情報リテラシー教育を行う。							
その他							
まだパソコンに慣れていない学生から十分に操作知識とスキルのある学生まで、ゆっくりな速度で高度な内容を含めて学習していく。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行う。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認する。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標を設定する。							

授業計画						
第1回 ファイル管理、データ入力、情報整理◇入力測定 第2回 数式入力、グラフ作成とレイアウト 第3回 連続データ、多種のグラフ作成とレイアウト 第4回 基本的関数の効率的入力と編集レイアウト 第5回 日付と時刻入力、オートカルク、データベース活用 第6回 IF関数など、セル番地の絶対参照 第7回 セルの絶対参照、文字の属性◇入力測定 第8回 ROUND関数、端数処理の問題点 第9回 小テスト、論理関数の条件複合、情報モラル 第10回 スパークライン、グラフ作成、軸ラベル設定 第11回 条件付き書式、データバーのルール設定 第12回 円グラフ複合グラフ等グラフレイアウト設定 第13回 フィルタ、VLOOKUP関数 第14回 実務的複合資料作成演習◇入力測定 第15回 実務的複合資料作成のまとめ及び小テスト						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	70	20	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く実務データとして通用する見栄えのよいデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務データとして通用するデータ編集ができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報を自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながら自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながら編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながら編集し効果的となるようデータの編集作業ができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30331	ICT活用	○
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	MW		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山崎 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
パソコン操作による実務的な文書作成することが授業テーマです。 到達目標は以下の内容です。 1. 文字列や段落の書式設定、段落の並べ替え、グループ化ができる。 2. 表の作成と変更、リストの作成と変更ができる。 3. グラフィック要素およびSmartArtの挿入と書式設定ができる。 4. リーフレットの内容が効果的に伝わる文書編集できる。 5. 画像を挿入したり、文字の効果を設定してレイアウト編集できる。							
授業の概要							
総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶ。 マイクロソフトオフィススペシャリスト Word 365&2019の試験内容に沿って学習し合格する力をつける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
【予習】 事前配布するプリントとテキストとを併読し、操作内容と用語をおおまかに理解する。 【復習】 テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された課題演習を行う。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	使用教科書備考参照	佐藤薫	日経BP社	978-4-8222-8629-3			
2							
3							
使用教科書備考							
MOS攻略問題集 Word 365&2019							
参考書・参考資料等							
30時間でマスター Word 365&2019							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得しパソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格試験のレッスンをしている。							
その他							
実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト 365&2019の試験に対応する学習をする。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行う。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認する。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標を設定する。							

授業計画						
第1回 文書の作成、文書書式の設定 第2回 文書のオプションと表示をカスタマイズする 第3回 文字列や段落を挿入する 第4回 文字列や段落の書式設定、段落の並べ替え、グループ化 第5回 表の作成と変更 第6回 リストの作成と変更 第7回 参照のための情報や記号を作成する 第8回 標準の参考資料を作成する、管理する 第9回 グラフィック要素の挿入と書式設定 第10回 SmartArtの挿入と書式設定 第11回 文書の体裁を整えたり、複数ページを表示、編集する 第12回 リーフレットの内容が効果的に伝わる文書編集をする 第13回 他の文書から情報を引用して効率よく文書を仕上げる 第14回 画像を挿入、文字の効果設定してレイアウト編集する 第15回 まとめと総合試験演習						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	70	0	20	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く、実務文書として通称する見栄えのよい文書編集ができる。	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで実務文書として通称する文書編集ができる。	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務文書として通称する文書編集ができる。	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務文書として通称する文書編集ができる。		
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報を自在に編集し説得力ある文書となるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力ある文書となるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し説得力ある文書となるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し効果的となるよう文書をの編集作業ができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30240	ICT活用	—
授業科目名	ボランティア実習Ⅰ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	—		
教員	野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などで地域活動を支援することを実際に体験することにより、将来、社会の担い手となることの自覚を深めるとともに、協力協働、地域連携などが重要であることの意識を高める。							
授業の概要							
現代社会においては、協働協力の精神を培うことがますます重要となっている。保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などのボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集し、予備知識を増やすこと。							
標準学修時間の目安							
1回のボランティアにつき、報告書の作成に1時間程度必要							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
1回のボランティア終了後、報告書をこまめに提出すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・担当教員から承認されたボランティア活動の累計時間数が30時間以上となった場合に単位を認定する。 ・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。							

授業計画						
第1回	オリエンテーション					
第2回	例年のボランティア活動の説明					
第3回	報告書のまとめ方					
第4回	「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」を配布・説明					
第5回	ボランティア学外実習					
第6回	ボランティア学外実習					
第7回	ボランティア学外実習					
第8回	ボランティア学外実習					
第9回	ボランティア学外実習					
第10回	ボランティア学外実習					
第11回	ボランティア学外実習					
第12回	ボランティア学外実習					
第13回	ボランティア学外実習					
第14回	ボランティア学外実習					
第15回	ボランティア学外実習					
第16回	ボランティア学外実習					
第17回	ボランティア学外実習					
第18回	ボランティア学外実習					
第19回	ボランティア学外実習					
第20回	ボランティア学外実習					
第21回	ボランティア学外実習					
第22回	ボランティア学外実習					
第23回	ボランティア学外実習					
第24回	ボランティア学外実習					
第25回	ボランティア学外実習					
第26回	ボランティア学外実習					
第27回	ボランティア学外実習					
第28回	ボランティア学外実習					
第29回	ボランティア学外実習					
第30回	学外授業出席証明書・学外実習報告書提出					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	各園・福祉施設でのボランティア活動を通して、社会 人力・コミュニケーション 力を養い、社会の担い手と なることへの自覚を身に付 けることができる、その場 その場の適切な対処法を検 討できる。	各園・福祉施設でのボラン ティア活動を通して、社会 人力・コミュニケーション 力を養い、社会の担い手と なることへの自覚を身に付 け、それらを他者に情報と して伝えることができる。	各園・福祉施設でのボラン ティア活動を通して、社会 人力・コミュニケーション 力を養い、社会の担い手と なることへの自覚が理解で きている。	各園・福祉施設でのボラン ティア活動を通して、社会 人力・コミュニケーション 力を養い、社会の担い手と しての自覚が断片的である が理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	各園・福祉施設でのボラン ティア活動を通して、社会 人力・コミュニケーション 力を養い、社会の担い手と なることへの自覚と他者へ の発信力を身に付けている 。	各園・福祉施設でのボラン ティア活動を通して、社会 人力・コミュニケーション 力を養い、社会の担い手と なることへの自覚を身に付 けることができる。	各園・福祉施設でのボラン ティア活動を通して、社会 人力・コミュニケーション 力を養い、社会の担い手と なることへの自覚と他者へ の発信ができる。	各園・福祉施設でのボラン ティア活動を通して、社会 人力・コミュニケーション 力を養い、社会の担い手 となることへの自覚と他者 への発信を行うことがほと んどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30080	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅰ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー DP項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30081	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅱ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30090	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅰ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30091	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅱ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30092	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅲ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30110	ICT活用	—
授業科目名	教養ゼミナール(S・L) II					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	通年	必修区分	卒		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 日常生活において感謝の念を常に抱き、自己の行動に責任を持ちつつ他者を労わる人間性を備えることができる。 2. 社会生活全般において、協調する姿勢を示し、健康な判断と正義を尊重し、円満な人間関係を築くことができる。 3. 専門的職業人としての自律した生活を実践できる。							
授業の概要							
本学の建学の精神である学園三訓の理念に則り、学生生活及び将来の進路に関して、学生と教員が相互に交流し学ぶことによって、社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各担当教員と良くコミュニケーションを図り、指示された必要な準備をして参加すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義に予習・復習を含めて1時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・合同S・Lでは、感想文を記載してもらいS・L担当教員が点検後返却する。 ・課題解決型授業では、担当教員とコミュニケーションをとり解決に導くこと。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
1年次に使用した「保育の基本用語」を参考書として使う場合がある。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
その他必要な事項・課題提出日等は、担当教員の指示に従うこと。							

授業計画						
第1回 個別S・L(1年間の振り返り) 第2回 個別S・L(2年時の目標等について) 第3回 合同S・L(先輩たちの就職について) 第4回 合同S・L(具体的な就職試験について) 第5回 地域課題解決型授業1(周りにどのような課題があるか検証) 第6回 個別S・L(読解力向上) 第7回 合同S・L(スポーツ大会について) 第8回 地域課題解決型授業2(課題解決するための方法) 第9回 個別S・L 第10回 個別S・L 第11回 合同S・L(夏の交通安全講習) 第12回 地域課題解決型授業3(テーマ・内容・方法の決定) 第13回 個別S・L 第14回 地域課題解決型授業4(解決学習の中間発表) 第15回 個別S・L 第16回 クラス合同S・L(短大祭について) 第17回 合同S・L(学生生活について) 第18回 合同S・L(秋の交通安全講習) 第19回 合同S・L(保育士・幼稚園教諭に関する説明) 第20回 地域課題解決型授業5(問題と目的) 第21回 合同S・L(保育士登録申請用紙記入) 第22回 クラス合同S・L(スポーツ大会に向けて) 第23回 地域課題解決型授業6(レポート指導) 第24回 個別S・L 第25回 個別S・L 第26回 合同S・L(冬の交通安全講習) 第27回 地域課題解決型授業発表1 第28回 地域課題解決型授業発表2 第29回 地域課題解決型授業発表3 第30回 個別S・L 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かったの課題解決型授業に真摯に取り組み、問題解決に対しての適切な対処法について他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かったの課題解決型授業に真摯に取り組み、問題解決に対して他者に適切に伝えることができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かったの課題解決型授業に真摯に取り組み、その内容を理解している。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かったの課題解決型授業に真摯に取り組んだが、それらを断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かったの課題解決型授業に真摯に取り組み、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力が身についている。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かったの課題解決型授業に真摯に取り組み、課題解決に向けての努力することができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かったの課題解決型授業に真摯に取り組み、情報の収集他者への発信ができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かったの課題解決型授業に真摯に取り組んだが、他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30120	ICT活用	—
授業科目名	社会人基礎論Ⅱ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	卒		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	林原 和哉／海野 真樹						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
授業のテーマ ①期待される社会人・職業人を目指す。 ②働く意義を考える。 ③就職先を決めるために考え、行動する。 ④コミュニケーション能力、マナー、情報リテラシーを身につける。 到達目標 ①社会人としての基礎・基本である「読んで書く能力」を身につける。 ②電話対応、来客対応、クレーム対応など社会人として必要なコミュニケーションができる。 ③新聞、テレビの報道番組などを通して情報を収集し、現代社会が抱える課題を考え、表現できる。 ④就職活動で必要となる履歴書等の書き方、面接試験等に対応できる力を身につける。 ⑤職業人として必要な教養を身につける。							
授業の概要							
学生生活と異なる社会人・職業人としての自覚と教養を育て、社会に出ていくための準備を行う。 ①地域社会が求める「人間的な力」「社会力」を身につけ、人生を自分の力で切り開く。 ②実社会で生きてゆくためのマナー、社会常識、コミュニケーション能力等を身につける。 ③現代社会とは何か、どんな問題があるか自分で考え、表現できるようにする。 ④就職活動で必要となる力を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
普段から新聞を読み、テレビの報道番組等をみて現代社会が抱える課題について考えておく。日記などを書くことで、書くことに対する苦手意識を克服しよう。地域社会が自分に何を望んでいるのか、日々の生活を通して考えてみよう。配布プリントを読んで復習をする。配布された資料の下調べをしておく。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
小テストに関しては、採点后、返却します。レポート、作文などに関しては、模範例を授業中に紹介する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
キャリアス就活 就活支援ブック「大学生の就活編」（前半の授業で配布）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
林原和哉：大手電機メーカー勤務・IT系専門学校教員、短大就職支援部長の経歴を活かし、就職活動支援等を行う。 海野真樹：航空業界での勤務経験を活かし、社会人として必要なマナー等を担当。							
その他							
実務経験者など外部講師（ゲストスピーカー）による特別講話を行う場合がある。							

授業計画						
第1回	前年度の就職活動統計データから、今年度の就職活動を予測する。（林原）					
第2回	求人票の見方と情報収集について。実際の求人票を具体的に読み解く。（林原）					
第3回	自己分析。自身の強みと弱みを把握する。プログレスシートの活用。（林原）					
第4回	自己PRを考えよう。弱みを強みに転換する。（林原）					
第5回	書類選考の突破。履歴書・エントリーシート等作成の留意点について。（林原）					
第6回	応募書類の送付と到着のフォロー。確実に届けるための留意点について。（林原）					
第7回	面接試験に備える。良く聞かれる質問ランキングなど。（林原）					
第8回	ビジネス文書の書き方。社内文書、社外文書、報告書等の書き方。（海野）					
第9回	政治、経済問題など現代日本が抱える課題を考える。新聞を読んで考えてみよう。（海野）					
第10回	分かりやすい文章とは何か。他者をどう説得するか。自分の意見をどうまとめるか。（海野）					
第11回	就職試験の作文でどう対応するのか。「起承転結」で作文を書いてみよう。（海野）					
第12回	会社の仕組みと仕事。PDCAサイクルで仕事を改善する。（海野）					
第13回	良好な人間関係を築くための、来客対応と訪問時の基本マナーについて。（海野）					
第14回	電話の受け方、かけ方のマナーと、電話対応の重要性について。（海野）					
第15回	不満を信頼に変えるトラブル・クレーム対応力を身につけるには。（海野）					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30250	ICT活用	○
授業科目名	保育者のための音楽Ⅱ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	クラス別		
教員	伊藤 亜希子／高 実希子／高橋 セリカ						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」の内容を踏まえて、幼児教育において必要とされる音楽基礎力・音楽表現力の向上を目指す。 具体的には、保育・幼児教育の現場で必要とされる弾き歌いのピアノ奏法や発声・歌唱法、器楽合奏法など、「保育者のための音楽Ⅰ」（1年次履修）を踏まえた保育者のための音楽実践力を培う。 1. 保育・幼児教育で必要とされる弾き歌いの力を向上させる。 2. 保育現場で用いられる楽曲を分析し、簡単な伴奏や楽器を用いたリズム遊び等について提示できる力を身に付ける。 3. お遊戯会や発表会等における合奏指導法や歌唱指導法を身に付ける。							
授業の概要							
・C-durの主要三和音を理解した上で、自らが伴奏可能な簡易伴奏にアレンジし、弾き歌い出来るようになる。 ・様々な楽器の使い方を学び、合奏法やリズム遊びの提示方法を学ぶ。 ・お遊戯会や発表会等での合奏や合唱指導法など保育者のための音楽実践力について学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習・復習については、毎回の授業において、個人レッスンまたはグループレッスン時に課題を示す。 次の授業までに、各自でピアノ実技・歌唱・弾き歌い等の練習に取り組んでくること。 実習先からの課題曲については、各自が主体的に取り組むこと。							
標準学修時間の目安							
次回の講義までに、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。ピアノ実技や歌唱技術等の音楽基礎技術の習得は個人差が大きい実態から自己目標を設定し、主体的に取り組むこと。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
再試験該当者のみ、実技に関する助言を行う。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	幼児の音楽教育	音楽教育研究協会編	朝日出版社	978-4-255-15627-9			
2							
3							
使用教科書備考							
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。 「最新・幼児の音楽教育－幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導－」 音楽教育研究協会編							
参考書・参考資料等							
・適宜資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
伊藤亜希子：ピアノ教室個人指導（指導歴25年以上）。函館、東京等での演奏活動。各々の指導歴、演奏活動を生かし、実技指導を行う。高実希子：ピアノ教室での個人指導（指導歴10年以上）。函館、東京、海外での演奏活動。高橋セリカ：ピアノ教室個人指導（指導歴15年以上）、私立高等学校「音楽」授業非常勤を担当（5年以上）。函館を中心とした音楽活動。							
その他							
各自が実習に備えて本授業を有効活用し、保育・幼児教育に必要な音楽表現の力を身につけるとともに、保育実践力を養う。 授業は、ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室にて、ICTを活用した双方向型授業を実施する。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション、(授業のねらい、到達目標の確認、発声法の基礎、歌唱、読譜について) 第2回 実技(歌唱・弾き歌い) 幼児教育における音楽：主要三和音① 第3回 実技(歌唱・弾き歌い) 幼児教育における音楽：主要三和音②・活用 第4回 実技(歌唱・弾き歌い) 幼児教育における音楽：主要三和音転回形① 第5回 実技(歌唱・弾き歌い) 幼児教育における音楽：主要三和音転回形②・活用 第6回 実技(歌唱・弾き歌い) 幼児教育における音楽：器楽合奏法① 第7回 実技(歌唱・弾き歌い) 幼児教育における音楽：器楽合奏法② 第8回 実技(歌唱・弾き歌い) 指導上の留意点・情報機器の活用の工夫 第9回 楽曲分析① 基礎理論(保育・幼児教育活動に必要な保育課題曲の分析) 第10回 楽曲分析② 応用理論(保育・幼児教育活動に必要な保育課題曲の分析) 第11回 音楽による協働的取組とは：保育構想 第12回 保育構想に基づく発表会の練習①(考察) 第13回 保育構想に基づく発表会の練習②(改善) 第14回 保育構想に基づく発表会①(前半グループ) (まとめ・考察・改善) 第15回 保育構想に基づく発表会②(後半グループ) (まとめ・考察・改善) 定期試験						
【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	80	10	0	10	100
成績評価の基準(ループリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術(歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード、楽曲分析)を十分に習得し、それらの音楽表現を他者に分かりやすく伝えることができる。自己課題を的確に把握して実習先の課題曲練習に取り組むとともに他者と協働して保育を構想することができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術(歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード、根音伴奏法)を習得し、それらの音楽表現を他者に伝えることができる。自己課題を把握して実習先の課題曲練習に取り組むとともに他者と協働して保育を構想することができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術(歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード、根音伴奏法)を概ね習得し、それらの音楽表現の概要を他者に伝えることができる。自己課題を把握して実習先の課題曲練習に取り組むとともに、断片的であるが他者と協働して保育を構想できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術(歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード)を部分的に習得し、それらの音楽表現の一部を他者に伝えることができる。自己課題に気づき、実習先の課題曲練習に取り組み、断片的であるが他者と協働した保育構想のイメージをもつことができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者の社会的使命を理解して保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を習得し、他者に分かりやすく伝えることができる。実習先の実態を鑑み自己課題を把握し、実習に向け計画的取り組みができる。課題を的確に認識し、保育実践の自己評価の改善・工夫ができる。他者への思いやりや柔軟な対応に配慮した協働的保育を構想・実践できる。	保育者の社会的使命を理解して保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を習得し、他者に伝えることができる。実習先の実態を鑑み自己課題に気づき、実習に向け計画的取り組みができる。課題を認識し、保育実践の自己評価の改善・工夫ができる。保育実践に向けて他者への思いやりや柔軟な対応に配慮した協働的保育を構想できる。	保育者の社会的使命を理解して保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を概ね習得し、他者に伝えることができる。実習に向けて自己課題に気づき、保育実践の自己評価と改善について考察できる。保育実践に向けて他者への思いやりと柔軟な対応に配慮した協働的保育を概ね構想できる。	保育者の社会的使命を知り保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を充分ではないが習得し断片的に他者に伝えることができる。実習に取り組む際の自己課題に気づき、保育実践の自己評価と改善について知る。保育実践に向けて他者への思いやりや柔軟な対応に配慮した協働的保育を断片的であるが構想しようと努めることができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30332	ICT活用	○
授業科目名	コンピュータリテラシーE					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	ME		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山崎 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
授業のテーマはパソコン操作によるエクセルのデータ作成です。 到達目標は以下の内容です。 テーブルを管理し、フィルター、並べ替え、スタイルの管理ができる。 関数を使用してデータ集計と条件付きの計算を実行できる。 グラフを作成かつオブジェクトを挿入し、書式を変更できる。 売上データを集計するために、データを追加し分析することができる。 請求書データを作成し、テキストボックスや画像を挿入することができる。							
授業の概要							
総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶ。 マイクロソフトオフィススペシャリストExcel 365&2019の試験内容に沿って学習し合格する力をつける。 適宜小テストを実施する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
【予習】 事前配布するプリントとテキストとを併読し、操作内容と用語をおおまかに理解する。 【復習】 テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認する。また授業で指定された課題演習を行う。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	MOS Excel 365&	土岐順子	日経BP社	978-4-8222-8630-9			
2							
3							
使用教科書備考							
MOS攻略問題集 Excel 365&2019							
参考書・参考資料等							
30時間でマスター Excel2019							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得しパソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格試験のレッスンをしている。							
その他							
実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト365&2019の試験に対応する学習をする。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行う。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認する。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標を設定する。							

授業計画						
第1回 ワークシートとブックの作成 第2回 ワークシートとブックの管理、設定 第3回 セルやセル範囲にデータを挿入、書式設定する 第4回 セルやセル範囲にデータをまとめる、整理する 第5回 テーブルを作成し、スタイルと設定オプションを管理する 第6回 テーブルを管理し、フィルター、並べ替えをする 第7回 関数を使用してデータ集計と条件付きの計算を実行する 第8回 関数を使用して文字列を整形し、変更する 第9回 グラフを作成し、グラフの書式を設定する 第10回 オブジェクトを挿入し、書式を変更する 第11回 営業記録を集計し、ブックのデータを整理する 第12回 売上データを集計するために、データを追加し分析する 第13回 請求書データを作成し、テキストボックスや画像を挿入する 第14回 表や表示印刷を設定し、受講リストを作成する 第15回 実務的エクセルデータ作成方法のまとめと小テスト 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	70	0	20	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く、実務データとして通用する見栄えのよいデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務データとして通用するデータ編集ができる。		
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報を自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながら自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながら編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながら編集し効果的となるようデータの編集作業ができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30333	ICT活用	○
授業科目名	コンピュータリテラシーP					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	MP		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山崎 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
パソコン操作によるプレゼンテーション文書作成が授業のテーマです。 到達目標は、以下の内容です。 1. テキスト、図形、テキストボックスを挿入しスライドを作成することができる。 2. 表、グラフ、SmartArt、メディアを挿入し書式設定することができる。 3. スライドのコンテンツにアニメーションを設定することができる。 4. アンケートの結果などをプレゼンテーション資料を作成することができる。 5. 社内文書として提案書のフォーマットを作成することができる。							
授業の概要							
総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学びます。マイクロソフトオフィススペシャリスト PowerPoint 365&2019の試験内容に沿って学習し合格する力を身に付ける。 適宜小テストを実施する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
【予習】 事前配布するプリントとテキストの該当部分を併読し、操作内容と用語をおおまかに理解する。 【復習】 テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認する。また授業で指定された課題演習を行う。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	MOS PP365&2019		市川洋子		日経BP社		978-4-8222-8631-6
2							
3							
使用教科書備考							
MOS攻略問題集 PowerPoint 365&2019							
参考書・参考資料等							
30時間でマスター Word2019 30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得しパソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格試験のレッスンをしている。							
その他							
実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト 365&2019の試験に対応する学習をする。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行う。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認します。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標を設定する。							

授業計画						
第1回 スライド、配布資料、ノートを変更する 第2回 スライドショーを設定し、実行する 第3回 テキスト、図形、テキストボックスを挿入する 第4回 図形を挿入し、並べ替え、グループ化する 第5回 表、グラフを挿入し書式設定する 第6回 SmartArt、メディアを挿入し、書式設定と管理する 第7回 スライドのコンテンツにアニメーションを設定する 第8回 画面切り替えとアニメーションのタイミングを設定する 第9回 数のプレゼンテーションのコンテンツを結合する 第10回 プレゼンテーションを保護する、共有する 第11回 プレゼンテーションのフォーマットを作成する 第12回 アンケート結果などをプレゼンテーション資料にまとめます 第13回 社内文書として提案書のフォーマットを作成します。 第14回 新商品のキャンペーンをするための資料を作成します。 第15回 実務的プレゼン資料作成のまとめと小テスト						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	70	0	20	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く、実務データとして通用する見栄えのよいデータ編集ができる。	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで実務データとして通用するデータ編集ができる。	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務データとして通用するデータ編集ができる。		
該当DPに対する到達度の目安	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータを自在に編集し、説得力ある見栄えのよい編集作業が素早くできる。	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータをテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータをテキスト等を参照しながらも、自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータをテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業ができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30230	ICT活用	○
授業科目名	データサイエンス入門					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	野呂 祐人／梅影 創／辻 義人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP5, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
・データサイエンスについて説明することができる ・データ解析を行うことができる ・データサイエンスのトピックを理解する ・情報通信技術 (ICT) を活用できる ・人工知能 (AI) について説明できる ・機械学習について説明できる ・プログラミング言語を用いた統計解析ができる ・実データを用いて組織等の課題解決に資するデータ分析ができる ・情報を使ったコミュニケーションの特徴を理解する							
授業の概要							
グローバル化や産業構造の変化が加速する現代社会において、データから社会における様々な問題に対する課題と解決策を導き出し、そこから新たな価値を創造できる人材の養成が必要不可欠となってきた。本講義では、先ず、企業等の実データを教材として用い、データの処理、集計、分析等を行うために必須なデータサイエンスの基礎的事項を学習する。次いで、実データの解析演習を通して、適切なデータ分析のための実践力を養う。さらに、協同的な演習を通して、複雑な課題解決協同的に解決するために必要な対人コミュニケーション力を養う。当該科目は、思考力・判断力のための一般的知識や知的能力を発展させることを目標にする、一般教養科目 (リベラルアーツ科目) である。							
授業外に行うべき学習 (予習・復習、準備学習)							
予習：次回行う授業内容について配布資料等を活用し、その中からキーワードを抽出しまとめておくこと。 復習：授業で学んだ範囲について図書館等で関連する資料を収集し、苦手な分野を克服すること。演習で用いられたコードについては、自力で再現できるようにすること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間程度の学習が望ましい。							
課題 (試験やレポート等) のフィードバック							
講義時間外においても、講義内容や課題に関する質問は随時受け付ける。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
授業中に関連資料を適宜配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
履修には本学教務課にて単位互換システムによる履修手続が必要となる。 本講義は、本学と公立はこだて未来大学 (プラットフォーム参画大学) 間で、授業科目を共同で開発し、開講するものである。							

授業計画						
第1回	オリエンテーション、Society 5.0とは、持続可能な開発目標とは、データサイエンスとは（辻）					
第2回	データを「まとめる」考え方（辻）					
第3回	データを「比べる」考え方（辻）					
第4回	データから「予測する」考え方（辻）					
第5回	トピックス：データサイエンスに基づく社会調査（辻）					
第6回	統計解析の初歩①：Rの使い方（梅影）					
第7回	統計解析の初歩②：Rを用いたプログラミング（梅影）					
第8回	統計解析の初歩③：Rを用いた回帰分析、主成分分析（梅影）					
第9回	統計解析の実践①：Rを用いた企業等の実データの統計解析（梅影）					
第10回	人工知能（AI）について（梅影）					
第11回	統計解析の実践②：代表的なアルゴリズムを用いた実データ解析（梅影）					
第12回	情報を使った造形遊び①：Googleスプレッドシートの使い方（野呂）					
第13回	情報を使った造形遊び②：Googleスプレッドシートを使った共同制作の基礎（野呂）					
第14回	情報を使った造形遊び①：Googleスプレッドシートを使った共同制作の応用（野呂）					
第15回	情報コミュニケーションについて（野呂）					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	55	30	0	15	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	データサイエンスの基礎的事項を十分に理解したうえで、データを正しく処理・集計・可視化・分析することができ、社会における様々な問題に対する課題と解決策を導き出して、新たな価値を創造することができる。	データサイエンスの基礎的事項を十分に理解したうえで、データを正しく処理・集計・可視化・分析することができ、社会における様々な問題に対する課題と解決策を導き出すことができる。	データサイエンスの基礎的事項を理解したうえで、データを正しく処理・集計・可視化・分析することができ、社会における様々な問題に対する課題を導き出すことができる。	データサイエンスの基礎的事項を理解したうえで、データを正しく処理・集計・可視化・分析することができる。		
該当DPに対する到達度の目安	データサイエンスの専門的な知識と技術を十分に有し、データから正確な分析結果を導き出すことができる。また、高いコミュニケーション力にて他者と協働して課題の解決に向け行動することができる。	データサイエンスの専門的な知識と技術を十分に有し、データから正確な分析結果を導き出すことができる。また、コミュニケーション力にて他者と協働して課題の解決に向け行動することができる。	データサイエンスの専門的な知識と技術を有し、データから正確な分析結果を導き出すことができる。また、コミュニケーション力にて他者と協働して課題の解決に向け行動することができる。	データサイエンスの専門的な知識と技術を有し、データから分析結果を導き出すことができる。また、他者と協働して課題の解決に向け行動することができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30174	ICT活用	—
授業科目名	函館グローバル・コミュニケーション					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	澤辺 桃子／劉 眞福／土井岡 眞理子／渡辺 真保						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
国家資格取得を目指し学んだ知識・技能をグローバル（地球規模で考えながら、自分の地域で活動する）に生かすために必要となる、外国人とのコミュニケーションスキルを学ぶ。 1. 外国人とのコミュニケーションの心構えを理解することができる。 2. 調理作業に必要な英単語を理解し、他者に伝えることができる 3. 他者に人柄を理解してもらえる英語の自己紹介ができる 4. 観光案内、食文化及び道案内を平易な英語で説明できる。 5. 子どもと平易な英語でコミュニケーションをとることができる。 6. 英語以外の言語によるコミュニケーションの注意点を理解することができる。							
授業の概要							
保育士の国家資格取得を目指し学んだ知識・技能をグローバル（地球規模で考えながら、自分の地域で活動する）に生かすために必要となるスキルを認識する。言語的・非言語的コミュニケーションを用いて、個人の発信力を高めることで、多様な人々と柔軟に連携するための素養を養う。本授業は、TOEIC対策を含めた構成とし、インタラクティブなアクションラーニング型の授業として実施する。当該科目は、思考力・判断力のための一般的知識や知的能力を発展させることを目標にする、リベラルアーツ科目である。当該科目は一部の授業回で、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習は、各授業回に必要なと思われる英単語や資料の下調べを行い、会話のシミュレーションをしておくこと。復習は、授業回で習った単語や表現をノートに記録し、使えるように繰り返し音読する。また、友人同士の会話に積極的に英語表現を取り入れるように心がける。TOEIC対策練習問題は、自分で翻訳し正解を導けるようにする。							
標準学修時間の目安							
次の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
TOEIC対策の練習問題は、翌週に解答を配付する。 その他の課題は、その都度、教員と意見交換することで完成度を上げる。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
授業回ごとに、資料等を配付する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
土井岡：日系アメリカ人で、音楽、スポーツ業界で通訳、翻訳等、英語を使う仕事を経て、現在の市内で飲食店経営経験を生かし、英語の指示による調理実習を担当する。渡辺：市内で外語スクールを経営している経験からTOEIC対策と英語コミュニケーションの内容を担当する。澤辺・劉：実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
調理実習は、調理室を使用するため、衛生管理に関するルールを守り、教職員からの指示に従うこと。学修成果を実感するために、自主学習を重ね、TOEIC試験を受験することを強く推奨する。授業日程の都合上、授業計画の順番が入れ替わることがある。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション（授業の進め方説明）（澤辺） 第2回 仕事における外国語コミュニケーションの必要性（澤辺、劉） 第3回 生活における外国語コミュニケーションの必要性（澤辺、渡辺） 第4回 シチュエーションで学ぶ英語「自己紹介」：TOEIC対策（渡辺） 第5回 シチュエーションで学ぶ英語「道案内・観光」：TOEIC対策（渡辺） 第6回 シチュエーションで学ぶ英語「買い物」：TOEIC対策（渡辺） 第7回 シチュエーションで学ぶ英語「食事」：TOEIC対策（渡辺） 第8回 シチュエーションで学ぶ英語「子どもとのコミュニケーション（手遊び、リズム遊び等）」（渡辺） 第9回 シチュエーションで学ぶ英語「子どもとのコミュニケーション（折り紙等）」（渡辺）、次回の調理実習の準備（澤辺） 第10回 英語の指示で料理をつくる：調理実習（土井岡） 第11回 料理を英語で説明する（土井岡） 第12回 英語以外の言語でのコミュニケーション方法（澤辺） 第13回 発表会準備（澤辺、劉） 第14回 発表会：調理実習報告（澤辺、劉、渡辺） 第15回 発表会：ロールプレイ披露（澤辺、劉、渡辺） 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	50	50	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	外国人とのコミュニケーションの心構えを十分に理解し、英語、英語以外を問わず意思の疎通を図ることができる。以下の内容について積極的に学び、実践できる。①調理作業に必要な英単語、②人柄を理解してもらえる英語の自己紹介、③英語による観光案内、食文化及び道案内、④子どもとの英語コミュニケーション	外国人とのコミュニケーションの心構えを理解し英語、英語以外を問わず意思の疎通を図ることができる。以下の内容について学び、実践できる自信をもつことができる。①調理作業に必要な英単語、②人柄を理解してもらえる英語の自己紹介、③英語による観光案内、食文化及び道案内、④子どもとの英語コミュニケーション	外国人とのコミュニケーションの心構えを概ね理解し英語、英語以外を問わず意思の疎通をある程度図ることができる。以下の内容について、実践を試みることができる。①調理作業に必要な英単語、②人柄を理解してもらえる英語の自己紹介、③英語による観光案内、食文化及び道案内、④子どもとの英語コミュニケーション	外国人とのコミュニケーションの心構えを最低限理解し、英語、英語以外を問わず意思の疎通を図る努力ができる。以下の内容について最低限の努力ができる。①調理作業に必要な英単語②人柄を理解してもらえる英語の自己紹介、③英語による観光案内、食文化及び道案内、④子どもとの英語コミュニケーション		
該当DPに対する到達度の目安	生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能及び経験を創造力をもって分かちやすく他者に伝えることができる。専門職業人としての高い倫理観、他者への思いやりと柔軟な対応力をもって高度に社会に貢献できる。高いコミュニケーション力を身に付け、他者と協働して積極的に課題を解決できる。	生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能及び経験を創造力をもって他者に伝えることができる。専門職業人としての倫理観、他者への思いやりと柔軟な対応力をもって社会に貢献できる。コミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題を解決できる。	生涯にわたって学び続ける意思をもち、身に付けた知識や技能及び経験を他者に伝えることができる。専門職業人としての倫理観、他者への思いやりをもって社会に貢献できる。ある程度のコミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。	生涯にわたって学び続ける意味を理解し、身に付けた知識や技能及び経験を他者に伝える努力ができる。専門職業人としての倫理観と他者への思いやりをもって社会にある程度、貢献できる。最低限のコミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題解決に取り組む努力ができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30074	ICT活用	—
授業科目名	国際交流					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2 年	期間	後期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
海外研修旅行を通して、国際交流について深く学び、自己の成長につなげる。 1. 見聞・体験を通して得たことを報告書に表現できる。 2. 集団での行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てる。 3. 外国での体験に基づく価値観の違いを理解し、豊かな人間性を身に付け、行動で示すことができる。 4. 自分で作り上げる研修を通して、能動的な学習能力を身に付け、普段の学習に役立てる。							
授業の概要							
本学科で学んだ講義や実習を通して修得した知識を基に、海外の保育・幼児教育施設を視察し、その実情を見聞・体験して、自分の進むべき分野に対する一層の認識を深める。 また、そのときの感動および幅広い視野から判断できる新たな自分の基準を持つことを目標とする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
出発前に個人及びグループ毎のテーマを決め、それに沿った準備学習を行う。関連する資料の下調べ、グループワーク、グループディスカッションを行い、理解を深める。							
標準学修時間の目安							
事前の各種手続き、渡航準備および帰国後の報告書作成等を合わせて、合計 3 0 時間の自主学習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
参加者全員の研修報告書を取りまとめ、冊子として配布する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
訪問国の観光ガイド並びに関連書籍							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
渡航費用が別途必要である。学内掲示等で参加者の募集を行う。1 年次に履修することも可能である。現地研修に際しては、特に体調管理に努めること。履修者数によっては、旅行会社が提供するパッケージツアーに研修内容を組み入れる場合がある。研修報告のプレゼンテーションを実施する。国際情勢等、種々の事由により開講を中止することがある。							

授業計画						
第1回	事前研修	(オリエンテーション、パスポートの取得方法)				
第2回	事前研修	(渡航先情報の確認、旅行準備指導)				
第3回	事前研修	(自主研修計画の作成、旅のしおり作成)				
第4回	事前研修	(出発式、事前学習発表会)				
第5回	現地研修	(国際線搭乗手続き、時差体験、地球の大きさの実感)				
第6回	現地研修	(日本の常識と海外の常識)				
第7回	現地研修	(生活文化の違いを知る)				
第8回	現地研修	(海外の食文化を体験する)				
第9回	現地研修	(日本と海外の教育の違いを知る)				
第10回	現地研修	(海外でのコミュニケーション体験)				
第11回	現地研修	(集団行動における自分の役割を知る)				
第12回	現地研修	(訪問国の歴史、建造物、芸術、エンターテインメントを学ぶ)				
第13回	事後研修	(研修報告書の作成)				
第14回	事後研修	(研修報告会の資料作成)				
第15回	事後研修	(研修報告会での発表)				
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30075	ICT活用	—
授業科目名	文化交流					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 集団行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てる。 2. 他地域との距離感や気候・風土などの違いに興味を持ち、自ら調べることができる。 3. 現地の保育所を見学し、気候・風土・文化・歴史等が異なる地域の保育環境や子どもの特徴について学ぶ。 4. 自主研修の内容を自ら計画し、実行することができる。 5. 旅行の運営や進行に意欲的に参加し、学生同士や教職員との親睦を深め、積極的に思い出作りを行う。							
授業の概要							
国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会へと旅立つ学生諸君が見聞を広め、さらには自分達の住む地域への郷土愛を深めることを目標とする。また、現地の保育所を訪問し、子ども達や保育士と交流を図る。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
個人あるいは、グループ毎にテーマを決め、それに沿った準備学習を行う。							
標準学修時間の目安							
1回の講義当たり1時間の予習を行う事。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
研修成果をレポートにまとめ参加学生に配布する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
現地の観光ガイド並びに関連書籍							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・別途費用がかかる ・現地研修に際しては、十分体調管理に気を配ること。 ・自主研修に際しては、自覚をもって行動すること。特に安全面に注意すること。 ・国内情勢等、種々の事由により開講を中止することがある。							

授業計画						
第1回 事前オリエンテーション 第2回 研修に向けての役割分担を決める 第3回 保育所での交流計画を作成する 第4回 保育所の子ども達へのプレゼントを考える 第5回 保育所の子ども達へのプレゼント作成 第6回 現地研修1(現地の文化に触れる) 第7回 現地研修2(現地の歴史に触れる) 第8回 現地研修3(現地の食文化に触れる) 第9回 現地研修4(現地の保育環境に触れる) 第10回 現地研修5(現地の保育所にて子ども達と交流) 第11回 現地研修6(自主研修を行う) 第12回 研修の成果について報告会 第13回 研修成果レポート準備 第14回 研修成果レポート作成 第15回 研修のまとめと課題の整理						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	60	0	40	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	国内研修旅行を通して異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、それを理解し、他者に詳細かつ適切な情報を伝えることが身についている。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、それらについて理解している。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、それらを断片的に理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	国内研修旅行を通して異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、ある程度の情報収集と他者への発信ができる。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広めたが、関連する情報の収集と他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30340	ICT活用	—
授業科目名	ボランティア実習Ⅱ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	—		
教員	野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などで地域活動を支援することを実際に体験することにより、将来、社会の担い手となることの自覚を深めるとともに、協働協力、地域連携などが重要であることの意識を高める。							
授業の概要							
現代社会においては、協働協力の精神を培うことがますます重要となつてきている。保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などのボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集して、予備知識を増やすこと。							
標準学修時間の目安							
1回のボランティア終了後、報告書の作成に1時間程度必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
1回ごとのボランティア終了後、報告書を提出すること。 この報告書提出により認定された活動時間の累積30時間以上が単位認定対象となる。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・担当教員から承認されたボランティア活動の累積時間数が30時間となった場合に単位認定をする。 ・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。							

授業計画						
第1回	オリエンテーション					
第2回	例年のボランティア活動の説明					
第3回	報告書のまとめ方を説明					
第4回	「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」を配布・説明					
第5回	ボランティア学外実習					
第6回	ボランティア学外実習					
第7回	ボランティア学外実習					
第8回	ボランティア学外実習					
第9回	ボランティア学外実習					
第10回	ボランティア学外実習					
第11回	ボランティア学外実習					
第12回	ボランティア学外実習					
第13回	ボランティア学外実習					
第14回	ボランティア学外実習					
第15回	ボランティア学外実習					
第16回	ボランティア学外実習					
第17回	ボランティア学外実習					
第18回	ボランティア学外実習					
第19回	ボランティア学外実習					
第20回	ボランティア学外実習					
第21回	ボランティア学外実習					
第22回	ボランティア学外実習					
第23回	ボランティア学外実習					
第24回	ボランティア学外実習					
第25回	ボランティア学外実習					
第26回	ボランティア学外実習					
第27回	ボランティア学外実習					
第28回	ボランティア学外実習					
第29回	ボランティア学外実習					
第30回	学外授業出席証明書・学外実習報告書提出					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を備えていると同時に、協力協働・地域貢献への精神が身についている。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を備えていると同時に他者に適切な情報として伝えることができる。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を備えている。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚について断片的に理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と他者への発信力を身に付けている。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と課題解決に向けて努力することができる。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と他者への発信ができる。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養ったが、社会の担い手への理解と自覚がほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30180	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅲ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30181	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅳ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30190	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅳ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容を最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30191	ICT活用	—
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅴ					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	—		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。							
授業の概要							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	受講科目シラバスに従う		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
参考書・参考資料等							
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。							
その他							
毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。							

授業計画						
第1回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第2回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第3回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第4回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第5回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第6回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第7回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第8回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第9回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第10回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第11回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第12回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第13回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第14回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
第15回	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	0	100	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	30192	ICT活用	○
授業科目名	コンソーシアム函館教養VI					実務教員	—
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	山下 真由美／白府 士孝／澤辺 桃子／伊木 亜子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
キャンパスコンソーシアム函館が開催する「函館学」の講義をDVDもしくはNCVケーブルテレビ放送等で視聴し、設問に解答することで講義内容の理解を深め、函館地域に関する教養を高める。 1. 視聴した「函館学」の内容を説明できる。 2. 視聴した「函館学」の内容に関する設問に対し、適切に解答できる。 3. 食に関する内容の「函館学」に関連して、調理実習を行い、郷土料理や食材に関する情報を他者に説明できる。							
授業の概要							
「函館学」で実施された講義内容を元に展開する授業である。いくつかの「函館学」の講義を視聴して、その内容を理解するとともにe-ラーニング等を用いて、設問に対する解答を作成して提出する。また、食に関する内容の「函館学」に関連する郷土料理を実際に調理し、試食することで、函館地域の食に関する教養を身に付ける。 ・当該科目は、思考力・判断力のための一般的知識や知的能力を発展させることを目標にする、リベラルアーツ科目である。 ・当該科目は、一部の授業回で学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習は、授業日までに該当する「函館学」のキーワードを下調べしておくこと。復習は、視聴した「函館学」に関する感想を整理してまとめる。準備学習として、図書館等で関連する分野の参考書や資料を用いて情報を把握しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
復習テストの結果を模範解答と合わせて返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
必要に応じて資料を配付する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。DVDの視聴については、自宅等でNCVケーブルテレビ放映番組による視聴に置き換えることができる。原則として、設問への解答は、e-ラーニングにて実施する。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション（授業の進め方、e-ラーニング使用に関する説明）（澤辺、白府） 第2回 「函館学」歴史分野の視聴（前半）（澤辺） 第3回 「函館学」歴史分野の視聴（後半）（澤辺） 第4回 視聴後の感想に関するディスカッションと設問への解答（澤辺） 第5回 「函館学」社会・環境分野の視聴（前半）（白府） 第6回 「函館学」社会・環境分野の視聴（後半）（白府） 第7回 視聴後の感想に関するディスカッションと設問への解答（白府） 第8回 「函館学」食・食材分野の視聴（前半）（伊木、山下） 第9回 「函館学」食・食材分野の視聴（後半）（伊木、山下） 第10回 視聴後の感想に関するディスカッションと設問への解答（伊木、山下） 第11回 調理実習準備①：郷土料理のアレンジメニュー考案（伊木、山下） 第12回 調理実習準備②：郷土料理の調理手順確認（澤辺、伊木、白府、山下） 第13回 調理実習（澤辺、伊木、白府、山下） 第14回 授業内容の振り返り（澤辺、伊木、白府、山下） 第15回 函館教養VIに関する学びについての発表（澤辺、伊木、白府、山下）						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	20	0	60	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	到達目標をおおよそ理解して、その内容にある程度（4/5程度）到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	到達目標を最低限理解し、その内容に最低限（3/5程度）到達するとともに、学びの内容を断片的に他者に説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	コミュニケーションを図りながら、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決して、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして、他者と協働して課題を解決できる。		

【 専門教育科目 】

1 年次配当科目

保育原理	76
教育原理	78
子ども家庭福祉	80
社会福祉	82
子ども家庭支援論	84
社会的養護Ⅰ	86
教職概論	88
教育心理学	90
子どもの保健	92
食育の基礎知識	94
保育内容総論	96
健康	98
人間関係	100
環境	102
言葉	104
表現	106
保育内容（健康）指導法	108
保育内容（人間関係）指導法	110
保育内容（環境）指導法	112
保育内容（言葉）指導法	114
保育内容（表現）指導法	116
乳児保育Ⅰ	118
乳児保育Ⅱ	120
子どもの健康と安全	122
コミュニケーション・スキルⅠ	124
保育実習指導Ⅰ	126

2 年次配当科目

保育現場の幼児教育	128
子ども家庭支援の心理学	130
幼児理解	132
子どもの食と栄養	134
子どもの医療	136
教育課程総論	138
総合表現指導法	140
特別支援教育	142
社会的養護Ⅱ	144
教育相談	146
コミュニケーション・スキルⅡ	148
子どもの生活や遊び A	150
子どもの生活や遊び B	152
子どもの生活や遊び C	154
保育の記録と伝え合い	156
保育実習Ⅰ	158
保育実習Ⅱ	160
保育実習Ⅲ	162
保育実習指導Ⅱ	164
保育実習指導Ⅲ	166
教育経営論	168
教育の方法と技術	170
幼稚園教育実習事前指導	172
幼稚園教育実習事後指導	174
幼稚園教育実習	176
保育・教職実践演習	178
レクリエーション指導法	180
レクリエーション現場実習	182

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31110	ICT活用	—
授業科目名	保育原理					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	咲間 まり子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
歴史・思想・制度などの視点から保育に関して学び、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解を深める。 1. 保育の意義について理解し、説明することができる。 2. 保育所保育指針における保育の基本について述べるようになる。 3. 保育の内容と方法の基本について理解し、応用することができる。 4. 保育の思想と歴史的変遷について説明できるようになる。 5. 保育の現状と課題について述べるようになる。							
授業の概要							
歴史・思想・制度などの視点から保育に関して学び、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解を深める。 基本的には講義形態であるがグループに分かれて課題に取り組みプレゼンテーションを行い、学修者間でディスカッションをする学習方法もとる。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
教科書にしたがって授業は展開されるので、必ず予習・復習をしてくる。予習:シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。教科書をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。復習: 課題について考えをまとめる。積極的に子どもと関わる機会を持ち、子どもについての理解を深める努力をしてほしい。日頃から保育・幼児教育に関して情報収集し、自らの学習課題を明確にしておくこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題レポートに対するフィードバックは次回の講義に行う。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	保育原理 [第2版]	咲間 まり子 (監修)	株式会社みらい	9784860154806			
2							
3							
使用教科書備考							
保育原理 [第2版] 第2版 はじめて保育の扉をひらくあなたへ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない							
その他							
なし							

授業計画						
第1回 オリエンテーション 授業の概要、授業の進め方などについて説明する。「保育」という言葉のイメージを自分なりに整理しておくこと 第2回 保育とは 第3回 子どもの発達と子ども理解 第4回 西欧の保育の思想と歴史 第5回 わが国の保育の思想と歴史 第6回 保育の場 第7回 保育の目標と内容 第8回 保育の方法 第9回 保育の計画 第10回 保育者の専門性 第11回 子育て支援と連携 第12回 諸外国の保育 第13回 保育の現状と今後の方向性 第14回 グループディスカッション 第15回 総復習 第1回～第14回の授業内容について、まとめの小テストを行うので復習して授業に臨むこと。 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	40	20	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育所保育指針の基本原則や歴史の変遷など保育の基本事項を理解し、他者に適切に説明できるとともに、新たな課題への対処を検討できる。	保育所保育指針の基本原則や歴史の変遷など保育の基本事項を理解し、他者に適切に説明できる。	保育所保育指針の基本原則や歴史の変遷など保育の基本事項を理解している。	保育所保育指針の基本原則や歴史の変遷など保育の基本事項について、断片的にしか理解していない。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって保育への反映が見込めるとともに新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てを検討できる。	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって保育への反映が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決へのプロセスを組み立てる努力ができる。	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって、保育への反映が見込める。	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項の理解が断片的であるため、身に付けた知識による保育への反映が十分とは言えない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31130	ICT活用	－
授業科目名	教育原理					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想				
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	卒保幼主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	白幡 俊一						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1,3,6,7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
本授業のテーマは、教育の基本的概念を学び、歴史的な視点から教育の理念を捉え、教育観、教育制度の変遷を理解することである。到達目標は以下の5つである。 1. 教育の意義、目的及び教育を成立させる諸要因と諸関係、教育と子ども家庭福祉との関わりについて説明できる。 2. 教育思想の歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について論述できる。 3. 教育制度の歴史的変遷について説明することができる。 すなわち、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解できる。 4. さまざまな教育実践について論述できる。 5. 現代社会における教育の現状と課題を歴史的な視点から論述できる。							
授業の概要							
本授業では、まず、「教育とは何か」「人間にとってなぜ教育は必要なのか」といった教育の基本的概念、教育の本質について検討していく。その上で、教育に関する歴史、教育に関する思想についての理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業が始まる前に必ず、学習用のノートを準備しておくこと。 予習は、授業日までに教科書該当ページを読み、質問や感想、自分のなりの考えをノートに整理しておく。復習は、学習した内容をノートに分かりやすく整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
小テスト後に模範解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	教育原理		矢藤誠慈郎・北野幸子編		中央法規出版		978-4-8058-5782-3
2							
3							
使用教科書備考							
新基本保育シリーズ② 教育原理							
参考書・参考資料等							
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
白幡は、学校現場における一般教員経験（24年間）や管理職経験（14年間）の実務経験を生かして、教育の理念と思想、歴史を教授する。							
その他							
教科書の内容理解を深め、論点を整理するために、毎時レジュメを配布する。 ※毎回の授業の流れは、①教科書の論点整理（講義）⇒②論点に関する議論（グループワーク）⇒③議論の共有と「学習のまとめシート」への記入（授業のふり返し）を基本とする。							

授業計画						
第1回 教育の意義 — 教育の基本的概念の理解（教育学の諸概念の理解） 第2回 教育の目的 — 教育の本質及び目的の理解 第3回 教育を成立させる学校・家庭・地域の相互関係 — 教育と子ども家庭福祉の関連性（子供・教員・家庭・学校を中心に） 第4回 人間形成と家庭・地域社会 — 乳幼児期の教育の特質をふまえて 第5回 諸外国の教育思想の系譜 — 代表的な教育家の思想を紐解く 第6回 諸外国の教育の歴史 — 家族と社会による教育の歴史を中心に 第7回 日本の教育の思想と歴史の変遷 — 家族と社会による教育の歴史を中心に 第8回 諸外国における子ども観と教育観の変遷 — 家庭や子供に関わる教育の思想の理解 第9回 諸外国の教育制度の展開過程 — 近代教育制度の成立と展開を中心に 第10回 わが国の教育制度の展開過程 — 近代教育制度の成立と展開を中心に 第11回 わが国の現在の教育に関する法律と行政制度 第12回 現代社会における諸外国の教育制度 第13回 さまざまな教育実践 — 諸外国の教育実践（内容・方法・計画と評価）に学ぶ、教育実践の多様な取り組み 第14回 生涯学習社会と教育の現状と課題 — 学校や学習に関わる教育の思想及び理論を中心に 第15回 現代社会における教育課題 — 歴史的な視点から理解を深める 定期試験						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	40	0	40	10	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について構造的に理解し、他者にわかりやすく、詳細かつ正確に説明することができる。	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について理解し、他者に正確に説明することができる。	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について理解している。	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について部分的な理解にとどまっている。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術及び倫理観を有し、その知識や技術を他者にわかりやすく伝えることができ、尚且つ自らが学び続けることで、地域社会に貢献しようとする姿勢を身に付けている。	保育者の社会的使命を理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術及び倫理観を有し、その知識や技術を他者に発信することができ、自らが学び続けようとする努力をしている。	保育者の社会的使命を理解し、保育と子育て支援に必要な知識と技術及び倫理観を身に付けている。	必要最低限、保育者の社会的使命を理解し保育と子育て支援に必要な知識と技術及び倫理観を保持しているが、それらは自己成長と地域社会への貢献に関連づけられて理解されていない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31240	ICT活用	—
授業科目名	子ども家庭福祉					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保ソ主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	岡崎 圭子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
子どもや家庭を取り巻く社会情勢と実態を踏まえ、課題を把握し、子どもの育ちと子育て家庭の支援のあり方を学ぶ。 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。 2. 子どもの人権擁護について説明できる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について説明できる。 4. 子ども家庭福祉と現状と課題について説明できる。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について説明できる。							
授業の概要							
本講義では、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や現状と課題について学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業は配付プリントで行うので、配付プリントで復習をすること。子どもや子育て家庭に関する新聞やニュースに目を通すこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり予習・復習を含めて 4 時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
授業のなかで実施する確認テストや課題レポートについては、提出後、回答内容をチェックし返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
必要に応じてプリントを配布する。							
参考書・参考資料等							
子ども家庭福祉 伊藤嘉余子、澁谷昌史 ミネルヴァ書房							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
社会福祉、子どもの育ちと子育て支援分野に関する行政職の経験を生かし授業を行う。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念					
第2回	子ども家庭福祉の歴史の変遷					
第3回	子ども家庭福祉の歴史の変遷					
第4回	子どもの人権擁護の歴史の変遷					
第5回	児童の権利に関する条約					
第6回	子どもの人権擁護と現代社会における課題					
第7回	子ども家庭福祉の制度と法体系					
第8回	子ども家庭福祉の実施体系					
第9回	児童福祉施設					
第10回	子ども家庭福祉の専門職					
第11回	少子化と地域子育て支援					
第12回	母子保健と子どもの健全育成					
第13回	多様な保育ニーズへの対応					
第14回	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止、社会的養護、障害のある子どもへの対応、少年非行等への対応					
第15回	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応、次世代育成支援と子ども家庭福祉への対応、地域における連携・協働ネットワーク、諸外国の動向					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31140	ICT活用	○
授業科目名	社会福祉					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保ソ主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	劉 眞福						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
社会福祉は、現代社会に生活する私たちにとってはなくてはならないものである。しかし、その意義や内容等は、必ずしも正しく理解されていない。社会福祉の歴史的な変遷、制度、動向、課題等を学び、社会福祉の現状について理解を深めることを目的とする。 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について論述できる。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について論述できる。 3. 社会福祉における相談援助について論述できる。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて論述できる。 5. 社会福祉の動向と課題について論述できる。							
授業の概要							
社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点、社会福祉の制度や実態体系等、社会福祉における相談援助利用者の保護に係る仕組み、そして、社会福祉の動向と課題について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業は配付プリントで行うので、配付プリントで復習をすること。社会福祉に関する新聞やニュースに目を通すこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり予習・復習を含めて 4 時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
授業のなかで実施する確認テストや課題レポートについては、提出後、回答内容をチェックし返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
最新保育士養成講座第 4 巻 社会福祉 最新保育士養成講座編纂委員会編 全国社会福祉協議会							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
授業（学外授業も含む）は、主に PPT 資料で進行し、グループワークとディスカッションを行う。質問や要望があるときは振り返りシートに記入すること。							

授業計画						
第1回	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷①（社会福祉の理念と概念）					
第2回	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷②（社会福祉の歴史の変遷）					
第3回	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷③（子ども家庭支援と社会福祉）					
第4回	社会福祉の制度と実施体系①（社会福祉の制度と法体系）					
第5回	社会福祉の制度と実施体系②（社会福祉行政と実施機関）					
第6回	社会福祉の制度と実施体系③（社会福祉施設と社会福祉の専門職）					
第7回	社会福祉の制度と実施体系④（社会保障及び関連制度の概要）					
第8回	社会福祉における相談援助①（相談援助の理論）					
第9回	社会福祉における相談援助②（相談援助の意義と機能）					
第10回	社会福祉における相談援助③（相談援助の対象と過程）					
第11回	社会福祉における相談援助④（相談援助の方法と技術）					
第12回	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み①（情報提供と第三者評価）					
第13回	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み②（利用者の権利擁護と苦情解決）					
第14回	社会福祉の動向と課題①（少子高齢化社会における子育て支援、共生社会の実現と障害者施策）					
第15回	社会福祉の動向と課題②（在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向）					
定期試験						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
I C Tを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31242	ICT活用	○
授業科目名	子ども家庭支援論					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保ソ		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	劉 眞福						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 6, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
この授業では、現代の子育ての実態や家庭の現状を踏まえた家庭支援のあり方を学ぶ。子供の健やかな成長・発達を守るためには養育の主な担い手である子育て家庭への支援が鍵となる。また、親が主体性をもって子育てに関われるようにするには、どのような支援が必要か検討することを目的とする。 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明できる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明できる。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について説明できる。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について説明できる。							
授業の概要							
現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護、子ども福祉の制度や実施体系、さらには、子ども家庭福祉の現状と課題、子ども福祉の動向と展望について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業が始まる前に必ず、学習用のノートを準備すること。 予習は、授業日までに配布資料の当該ページを読み、資料の下調べを行い、質問や感想、自分なりの考えをノートに整理する。 復習は、学習した内容をノートに分かりやすく整理する。また、授業後に学生同士のディスカッション等により、学習した内容をさらに掘り下げておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験（追・再試験対象者発表日）後に模範解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
授業（学外授業も含む）は、主にPPT資料で進行し、グループワークとディスカッションを行う。質問や要望があるときは振り返りシートに記入すること。							

授業計画						
第1回	子ども家庭支援の意義と役割①（子ども家庭支援の意義と必要性）					
第2回	子ども家庭支援の意義と役割②（子ども家庭支援の目的と機能）					
第3回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本① （保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義）					
第4回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本②（子どもの育ちの喜びの共有）					
第5回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本③ （保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援）					
第6回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本④（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）					
第7回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑤（家庭の状況に応じた支援）					
第8回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑥ （地域の資源の活用と自治体・関係機関等の連携・協力）					
第9回	子育て家庭に対する支援の体制①（子育て家庭の福祉を図るための社会資源）					
第10回	子育て家庭に対する支援の体制②（子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進）					
第11回	多様な支援の展開と関係機関との連携①（子ども家庭支援の内容と対象）					
第12回	多様な支援の展開と関係機関との連携②（保育所等を利用する子どもの家庭への支援）					
第13回	多様な支援の展開と関係機関との連携③（地域の子育て家庭への支援）					
第14回	多様な支援の展開と関係機関との連携④（要保護児童等及びその家庭に対する支援）					
第15回	多様な支援の展開と関係機関との連携⑤（子ども家庭支援に対する現状と課題）					
定期試験						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31241	ICT活用	○
授業科目名	社会的養護Ⅰ					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保ソ		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	劉 眞福						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP2, 3, 4, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
社会的養護は、大別すると、児童福祉施設における養護(施設養護)と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭(里親または養育家庭)における養護(家庭養護)に分類される。社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と取り組みの現状や課題について学ぶことを目的とする。 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について説明できる。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について説明できる。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について説明できる。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について説明できる。 5. 社会的養護の現状と課題について説明できる。							
授業の概要							
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本、社会的養護の制度や実施体系等、社会的養護の対象や形態、関係する専門職、社会的養護の現状と課題について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業前には、あらかじめテキスト（資料）の当該箇所を読み、関連する事柄について下調べも行うこと。 授業後には、授業の内容について振り返り、当該箇所のテキスト（資料）を読み返し、理解を深めること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
成績確定後、コメントを付した課題レポートを返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
資料は適宜配布する。 厚生労働省ホームページ資料 https://www.mhlw.go.jp/content/000711002.pdf							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
授業（学外授業も含む）は、主にPPT資料で進行し、グループワークとディスカッションを行う。質問や要望があるときは振り返りシートに記入すること。							

授業計画						
第1回 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷①（社会的養護の理念と概念） 第2回 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷②（社会的養護の歴史の変遷） 第3回 社会的養護の基本①（子どもの人権擁護と社会的養護） 第4回 社会的養護の基本②（社会的養護の基本原則） 第5回 社会的養護の基本③（社会的養護における保育士等の倫理と責務） 第6回 社会的養護の制度と実施体系①（社会的養護の制度と法体系） 第7回 社会的養護の制度と実施体系②（社会的養護の仕組みと実施体系） 第8回 社会的養護の対象・形態・専門職①（社会的養護の対象） 第9回 社会的養護の対象・形態・専門職②（家庭養護と施設養護） 第10回 社会的養護の対象・形態・専門職③（社会的養護に関わる専門職） 第11回 社会的養護の現状と課題①（社会的養護に関する社会的状況） 第12回 社会的養護の現状と課題②（施設等の運営管理） 第13回 社会的養護の現状と課題③（被措置児童等の虐待防止） 第14回 社会的養護の現状と課題④（社会的養護と社会福祉） 第15回 全体のまとめ 定期試験						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	50	0	20	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と、児童福祉施設における養護（施設養護）と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭（里親または養育家庭）の現状や課題について十分に理解し、子どもの人権擁護の視点で社会的養護の基本について説明できる。	社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と、児童福祉施設における養護（施設養護）と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭（里親または養育家庭）の現状や課題について理解し、子どもの人権擁護の視点で社会的養護を考えることができる。	社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と、児童福祉施設における養護（施設養護）と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭（里親または養育家庭）の現状について理解している。	社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と児童福祉施設における養護（施設養護）と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭（里親または養育家庭）の現状について不十分ながら把握している。		
該当DPに対する到達度の目安	社会的養護を必要としている子どもに対する人権擁護の視点での理解と、課題解決に向けて、高い倫理観を備えた保育士として十分な知識、能力を備え、主体的に取り組むことができる。	社会的養護を必要としている子どもに対する人権擁護の視点での理解と、課題解決に向けて、高い倫理観を備えた保育士として取り組む努力ができる。	社会的養護を必要としている子どもに対する人権擁護の視点での理解と、課題解決に向けて、高い倫理観を備えた保育士として取り組む基礎的な知識を有している。	社会的養護を必要としている子どもに対する人権擁護の視点での理解と、課題解決に向けて、保育士としての高い倫理観や知識を備える努力が必要である。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31120	ICT活用	—
授業科目名	教職概論					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	白幡 俊一／小林 博子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP3, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
(1) 教職の意義、教員の役割どのような職業か説明できる。 (2) 教員に求められる専門性・実践的能力、資質・能力、職務内容等について説明できる。 (3) 自らめざす教師・保育士とその他の自己課題について具体的に説明できる。 (4) 教員の資質向上＜成長する教師・学び続ける教師＞、協働、キャリア形成について説明できる。 (5) 教師教員の服務・倫理、および制度的位置づけ等について説明できる。							
授業の概要							
教員の職務は、人間の心身の発達に直接関わり人格形成に大きな影響を及ぼすもので、高い専門性と実践的指導力が要求される。教職概論は、教師・保育者の職務と備えるべき条件を概括的に取り上げ教職の全体像を把握し、専門職としての基礎を確立するものである。この授業では、公教育の目的、教職の意義、教師・保育者の役割・資質・能力、職務内容、服務など教職等に必要な知識及び技能等に関する学習を通して、教職の魅力や教職への意欲、適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解を深めることを目標としている。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業前に、(1)資料等を読み、重要語・注目語等にマーキングする。(2)重要語・注目語等の語彙・意味を辞書・事典等で調査し、予習ノートに記述する。(3)併せて資料の主張等を整理し概要をまとめるとともに疑問点等をもとに予習ノートに作成し、授業に持参する。授業後に、(4)授業における学びをノートにまとめる。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
小テスト後に模範解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
白幡は、学校現場における一般教員経験（24年間）や管理職経験（14年間）の実務経験を生かして、教職の意義や役割を教授する。小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、これまで多くの保育者を育ててきた実績から、専門的職業人としての基礎を教授する。							
その他							
「教室授業の学びと教室外の学びの学習成果」を集成した「学習ポートフォリオ（総合報告書）」を作成し、評価対象とする。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション（白幡、小林） 第2回 公教育の目的と教職・保育者の意義・職業的特徴と教職観の変遷、保育者の役割、職務内容、倫理（白幡、小林） 第3回 理想の教師・保育士像（専門家への学び）と教員免許法・児童福祉法における規定、資格・要件（白幡） 第4回 今日の教師に求められている役割・専門性・実践的指導力・資質能力と専門職として実践的指導力向上の学び（白幡） 第5回 幼児への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務内容の全体像、保育士の資質・能力（白幡、小林） 第6回 教員・保育者の役割・職務内容・職業的特徴と教員の任用と服務上・身分上の倫理・義務（守秘義務・信用失墜行為等）、欠格事由及び身分保障、保育士の制度的位置づけ（白幡、小林） 第7回 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題への対応（白幡） 第8回 保育の専門職間・専門機関そして家庭・保護者との連携・協働（白幡） 第9回 発達気になる子に寄り添う教師・保育者と家庭・保護者との連携・支援（白幡） 第10回 地域における自治体や関係機関等・家庭との連携・協働・支援における教師・保育者（白幡） 第11回 教師・保育士の資質・能力向上＜成長する教師・学び続ける教師＞とキャリア形成・研修の制度上の位置づけ・組織的取り組みとリーダーシップ、生涯学び続ける必要性（白幡） 第12回 養護と教育の一体的展開（白幡） 第13回 計画に基づく実践と省察・評価と保育の質の向上（白幡） 第14回 これからの保育と教師・保育者と進路選択・教員採用選考・準備等（白幡） 第15回 まとめ（振り返り等）（白幡）						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	0	30	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	教職の魅力や教職への意欲・適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解し学び続ける保育者として自己学習を進める計画を検討できる。	教職の魅力や教職への意欲・適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解しそれらを他者に伝えることができる。	教職の魅力や教職への意欲・適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解している。	教職の魅力や教職への意欲・適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての高い倫理観を保持し、子どもの成長を促し社会に貢献しようとする。	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての高い倫理観を保持し、子どもの成長を促し社会に貢献しようとするとともに他者への情報発信力を身につけている。	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての倫理観を身につけ、子どもの成長を促し社会に貢献しようとするとともに情報発信力にむけ努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての倫理観を身につけ、子どもの成長を促し社会に貢献しようとするが難しい。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32110	ICT活用	—
授業科目名	教育心理学					実務教員	—
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼心		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	赤坂 和哉						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 5, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
人間の発達と学習諸理論の心理学的ベースと幼稚園教育 1. 教育心理学の基礎的な理論や概念を理解し、説明できる。 2. 乳幼児期の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し、説明できる。 3. 教育、保育に関する様々な事象を心理学的な観点から理解できる。 4. 学習意欲、動機付け等について臨床例をもとに理解できる。							
授業の概要							
発達、学習、人格・適応、測定、評価など教育心理学の基礎的な理論を学び、教育に関する様々な事象を心理学的な観点から理解できるようにすること、特に乳幼児の心身の発達や学習について理解を深め、教育・保育の実践や支援に必要となる心理学的な基礎を身につけることをめざす。さらに、幼児の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・予習や準備学習：図書館にある「教育心理学」という言葉が入っている図書等で、シラバスに示されている各回の内容を一読して、資料の下調べをしておくこと。 ・復習：毎回様々な心理学用語が出てくるので、それが何を意味するのか理解し、資料の下調べにて理解を深めること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義につき、2時間の予習と2時間の復習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後、再試験対象者のみに問題解答用紙を開示する。 尚、解答は研究室前の掲示板に掲示する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
服部環・外山美樹『スタンダード教育心理学』（サイエンス社、2015年） 古川聡『教育心理学をきわめる10のチカラ』（福村出版、2018年）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・中間試験は口述試験に類する形で実施予定。 ・授業の進行状況に応じて、グループディスカッションやグループワークを行う。							

授業計画						
第 1回	オリエンテーション（教育心理学とは何か）、子どもの発達を理解することの意義、発達の概念、教育における発達理解の意義					
第 2回	発達①（遺伝と環境、発達の原理、諸理論、外的及び内的要因の相互作用）、子どもの発達と環境					
第 3回	発達②（乳幼児期から児童期の運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達とその具体的内容）、乳幼児期の学びに関わる理論					
第 4回	発達③（思春期から青年期の運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達とその具体的内容）					
第 5回	発達④（子どもの発達に関する代表的理論と発達概念の整理）、発達理論と子ども観・保育観					
第 6回	様々な学習の形態・概念とその理論（学習に関する基礎的理解とその過程を説明する代表的理論）					
第 7回	記憶					
第 8回	動機づけ（主体的学習を支える動機づけと発達の特徴の関連）					
第 9回	言語・社会情動的発達、認知の発達					
第10回	知能の発達と個人差					
第11回	パーソナリティ、適応					
第12回	乳幼児期の学びの過程と特性、乳幼児期の学びを支える保育					
第13回	測定・尺度、学習評価（主体的学習を支える学習評価の在り方と発達の特徴との関連）					
第14回	幼稚園、保育園での発達に即した援助の基本と実践的活用（主体的学習を支える集団づくりとの関連）					
第15回	主体的な学習活動を支える指導のあり方ー幼児の心身の発達を踏まえて					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32130	ICT活用	—
授業科目名	子どもの保健					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	松坂 美奈子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
子どもの心身の健康増進を図る保健活動や身体的な発育・発達と保健について理解する。また、子どもの心身の健康状態の把握の方法について理解し、疾病とその予防法や他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 1. 子どもの保健活動の意義を説明し、身体発育、生理・運動・精神機能を理解できる。 2. 子どもの精神保健とその問題・課題を理解し説明できる。 3. 感染症、予防接種、子どもに多い疾病やその適切な対応を理解し、発表できる。							
授業の概要							
健康の概念を把握し、現代の子どもの健康についての現状や課題を認識し、心身の健全な発達及び健康増進について理解する。さらには子どもの疾病やその予防法についても理解を深めるとともに、他職種間の連携の在り方や協働の下での適切な対応について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
【予習】授業日までにテキストの該当箇所を読み、わからないところは資料の下調べを行い、理解しておくこと。 【復習】提示された課題に取り組み、不明点等あれば、テキストの該当部分を読み返し、学生同士でのディスカッションなどで解消しておく。 【準備学習】乳幼児および健康に関する最新の情報を得るために、日ごろから意識して新聞やニュースを見聞きする。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後、追・再試験対象者発表日に解答と解説を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	子どもの保健テキスト		小林美由紀		診断と治療社		978-4-7878-2531-5
2	子どもの保健・実習		兼松百合子 他		同文書院		978-4-8103-1476-2
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・必要に応じて資料を配布するので、専用ファイルを準備すること。・課題等の提出は厳守すること。 ・特に重要な内容については課題を提示するので、グループでのディスカッションおよびグループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第 1回 生命の維持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 第 2回 健康の概念と健康指標 第 3回 現代社会における子どもの健康に関する現状の把握 第 4回 現代社会における子どもの健康に関する諸課題 第 5回 地域における保健活動と子どもの虐待防止 第 6回 身体発育及び運動機能の発達と保健 第 7回 生理機能の発達と保健 第 8回 健康状態の観察 第 9回 心身の不調等の早期発見 第10回 発育・発達の把握と健康診断 第11回 子どもの健康状態の記録 第12回 子どもの健康状態の伝達と保護者との情報共有 第13回 主な子どもの疾病の特徴 第14回 子どもの疾病の予防 第15回 子どもの疾病に対する適切な対応						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	80	0	10	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について理解し、それらを他者に詳細な情報を含めて正確に伝えることができ、予測される問題に適切に対応できる。	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について理解し、それらを他者に正確に伝えることができる。	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について、理解している。	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について、断片的に理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を的確に認識し、解決に向けて計画的に考え、答えを導き出すとともに、評価できる。	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を見つけ出し、解決に向けて計画的に考え、答えを導き出すことができる。	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を見つけ出し解決に向けて考えることができる。	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を見つけ出すことができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32140	ICT活用	○
授業科目名	食育の基礎知識					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	[保選] 食		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	清水 陽子／山下 真由美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
栄養に関する基本的な知識を習得して、健康維持のために正しい選択力や知識を身に付ける。また、現代の子どもの食事情について現状や課題を理解する。 1 5大栄養素の働きを説明できる。 2 消化・吸収のしくみについて説明できる。 3 食習慣と健康の関係を説明できる。 4 健全な食生活を営むための食に関する正しい選択力や知識を身に付けることができる。 5 食育の必要性を理解し、その取り組みについての考えを持つことができる。 6 食育と表現の融合的取り組みを実践できる。							
授業の概要							
本講義では、保育者として子どもの食生活や栄養について学んだ知識を保育の現場で実践し発展させることができる力を養う。多様な表現技法（絵本作り、音楽、パワーポイントによる動画絵本、パフォーマンス等）を用いて発達段階に応じた食育指導の構想と実践（オンライン配信等）に取り組みます。 15回の授業内において、食育基本法を理解し、心身ともに健康で豊かな生活を営むことを目指した食と表現活動の融合による総合的な教材を開発するとともに、フィールドワーク（オンライン等による取り組み）の実践を通して、保育の専門性の向上を目指します。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
事前学習：配布した次回の講義に使用するプリントを予め読んでおく。わからないところは資料の下調べを行い、理解しておくこと。あらかじめ学生同士で表現技術によって食育を幼児に伝えることができるストーリーを話し合いでまとめること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
心・栄養・食べ方を育む 乳幼児の食行動と食支援 巷野悟郎・向井美恵・今村榮一/監修 医歯薬出版							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・必要な資料等は授業時に配布する。 ・授業の進行状況に応じて、グループ内でディスカッションを行い、その結果についてプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第 1回 オリエンテーション(授業目標と講義計画の確認、授業の進め方等について) (山下、清水) 第 2回 栄養素の基礎知識①(たんぱく質) (清水) 第 3回 栄養素の基礎知識②(脂質) (清水) 第 4回 栄養素の基礎知識③(炭水化物) (清水) 第 5回 栄養素の基礎知識④(ビタミン・ミネラル) (清水) 第 6回 消化と吸収のしくみ①(口・胃) (清水) 第 7回 消化と吸収のしくみ②(小腸・大腸) (清水) 第 8回 食習慣と健康 (清水) 第 9回 子どもの食の問題と気になる行動 (清水) 第10回 表現技術による食育教材作成の実践 1 (多様な表現技法を用いた食育指導とは) (山下) 第11回 表現技術による食育教材作成の実践 2 (表現技法を用いた食育指導の原案作成) (山下) 第12回 表現技術による食育教材作成の実践 3 (表現技法を活用した教材作成 1) (山下) 第13回 表現技術による食育教材作成の実践 4 (表現技法を活用した教材作成 2) (山下) 第14回 表現技術による食育教材作成の実践 5 (発表・フィールドワーク 準備) (山下) 第15回 表現技術による食育教材作成の実践 6 (発表・フィールドワーク まとめ) (山下)						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	50	40	0	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を理解し、食に関する正しい選択力や知識を身につけるとともに、現代の食育における課題に対して保育者の立場で提案と適切なプレゼンテーションができる。	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を理解し、食に関する正しい選択力や知識を身につけ、保育者として食育の必要性を表現によって十分に伝えることができる。	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を理解し、ある程度表現で伝えることができる。	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を断片的に理解しているが、表現による伝え方が不十分である。		
該当DPに対する到達度の目安	現代の食育における課題や問題を自ら見つけ出し、身につけた知識で的確に認識して解決に結びつけるとともに、保育者として他者へ発信することができる。	現代の食育における課題や問題と身につけた知識を関連づけることができ、他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	現代の食育における課題や問題と身につけた知識を関連づけることができ、他者への発信ができる。	現代の食育における課題や問題と身につけた知識をある程度、関連づけることができ、他者の協力を得ながら発信することができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33120	ICT活用	—
授業科目名	保育内容総論					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー DP項目番号		DP1, 2, 3, 5, 6, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
幼児教育の環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、主体的・対話的で深い学びにより、幼児が遊びを通して育つことを理解する。 1. 幼児期の教育における見方・考え方について具体的な事例を挙げて説明できる。 2. 遊びを通しての総合的な指導の意義と教師の役割が説明できる。 3. 幼稚園教育における幼児理解に基づく評価の考え方について説明できる。 4. 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続について説明できる。							
授業の概要							
本講義では、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的に幼児の姿と関連づけながら環境を構成し、実践するために必要な知識並びに技能を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：授業に関連する項目について、『保育所保育指針』等を熟読しておくこと。 復習：授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
ノートあるいはレポートの提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
使用しない。							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・本科目履修生は、資料を綴るA4ファイルを持参すること。 ・ノートあるいはレポートなどは点検し、評価する。							

授業計画						
第1回	要領・指針に基づく保育の基本及び保育の全体構造と保育内容を理解する。					
第2回	子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的考え方と指導上の留意点、保育内容の歴史的変遷と社会的背景を理解する。					
第3回	子どもの主体性を尊重した保育、環境を通し行う保育、家庭、地域、小学校の教科等のつながりを踏まえた保育を理解する。					
第4回	保育の基本を踏まえた、保育内容の展開と5領域のねらい及び内容のつながりについて。養護及び教育が一体的に展開する保育					
第5回	生活や遊びを通しての総合的な指導の意義、個と集団の発達を踏まえた保育、保育者の役割について。					
第6回	指導計画の考え方について理解する。					
第7回	幼児の具体的な姿から指導計画を作成する手順・配慮点を説明できる。					
第8回	指導計画の評価の考え方を説明できる。					
第9回	幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事のあり方を説明できる。					
第10回	情報機器及び視聴覚教材を活用し、幼児のあそびを観察し、保育の構想に活用する。					
第11回	情報機器及び視聴覚教材を活用し、幼児のあそびを観察し、保育の構想に活用する。					
第12回	指導案の構成を理解し、具体的なテーマをもって指導案を作成し、模擬保育を実践する。					
第13回	模擬保育とその振り返り、保育の改善の視点を学ぶ。					
第14回	保育実践の動向を知り、保育を改善する視点を身につける。幼児の見方や受け止め方を知り、幼児理解を深める。					
第15回	長時間保育、特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育、授業を振り返り、課題の整理とまとめ。					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33110	ICT活用	—
授業科目名	健康					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 健康				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。 2. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「健康」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。 3. 教育・保育の内容の視点および「健康」の領域をふまえて子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。特に領域「健康」においては、子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
毎回の授業で前回の復習をするので、ノートを確認し、疑問点を整理すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義当たり予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
単元終了毎に課題が出されるので、しっかり取り組むこと。確認後課題については、コメントを付し、担当印を押し学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
使用しない							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・A4ファイルを用意すること。 ・必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第1回	「養護」（子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」）について					
第2回	「教育」（子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」）について					
第3回	乳児保育における3つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「健康」との関連					
第4回	乳児保育における3つの視点②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「健康」との関連					
第5回	乳児保育における3つの視点③「身近なものに関わり感性が育つ」と領域「健康」との関連					
第6回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「健康」　ねらい（自分から体を動かすことを楽しむ、様々な動き）					
第7回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「健康」　内容①（安定感、午睡、休息、全身を使う遊び、様々な食品や調理形態）					
第8回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「健康」　内容②（生活リズム、清潔、衣類の着脱、排泄の自立）					
第9回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「健康」　内容の取扱い（体を動かす機会、アレルギー、自分でしようとする気持ち）					
第10回	3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　概要（経験、考えの自己表現、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、表現力）					
第11回	3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　ねらい（充実感、進んで運動、見通し、安定感）					
第12回	3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　内容①（十分に体を動かす、戸外遊び、食べ物への興味関心、生活リズム、清潔）					
第13回	3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　内容②（見通しをもって行動、病気の予防、食習慣）					
第14回	3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　内容③（危険な場所、危険な遊び方、災害時の行動）					
第15回	3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　内容の取扱い（体を動かす楽しさ、意欲、調整、自然・戸外遊び、食育）					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33111	ICT活用	—
授業科目名	人間関係					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 人間関係				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	咲間 まり子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
(1). 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。(2). 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「人間関係」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。(3). 教育・保育の内容の視点および「人間関係」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。(4). 子どもの発達過程に即して、具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解できる。(5). 幼児教育の基本を理解し、領域「人間関係」の特質を説明できる。(6). 幼児の人との関わりに関する現代的課題を説明できる。(7). 乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を説明できる。(8). 自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。領域「人間関係」の内容を理解した上で、「人間関係」に関する乳幼児の発達や人間関係をめぐる現代的課題について学ぶ。さらにその育ちを支える保育者に求められる子ども理解と、保育の方法について理解を深めることを目標とする。加えて、自己の人間関係を振り返り、自己理解を深め、子どもや保護者と豊かな人間関係を築くことのできる保育者を目指す。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：教科書にしたがって授業は展開されるので、必ず予習・復習をしてくること。 復習：授業の到達目標を確認し、その回の講義内容をプリントやノートにまとめておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範的な解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	保育内容「人間関係」	咲間まり子 編	株式会社みらい	9784860154370			
2							
3							
使用教科書備考							
保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」[第2版]							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
特になし							

授業計画						
第 1回	現代社会の子どもを取り巻く今日的課題 ・家庭・地域社会の変容と仲間関係の崩壊 ・就学前施設における人間関係づくりの必要性					
第 2回	領域「人間関係」の「ねらい」および「内容」 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園 ・教育・保育要領の改訂（定）と領域「人間関係」 ・乳児保育に関わる「ねらい」および「内容」 ・1歳以上3歳未満児の保育に関わる「ねらい」および「内容」					
第 3回	領域「人間関係」の「ねらい」および「内容」 ・3歳以上児の保育に関わる「ねらい」および「内容」 ・領域「人間関係」と他領域との関連					
第 4回	乳幼児の発達と人間関係 ・0歳児から3歳未満児の発達と関わり					
第 5回	3歳児の発達と関わり ・4歳児・5歳児の発達と関わり					
第 6回	遊びのなかで育つ人間関係 ・乳幼児期における遊びの意義 ・遊びと乳幼児の育ち ・コミュニケーションの場としての遊び					
第 7回	幼児期の環境構成や人との関わり ・幼児期の体験に必要な“環境”とは					
第 8回	環境との関わりから生まれる幼児期の人間関係					
第 9回	保育者に求められている人間関係 ・年齢別における保育者との関わり					
第10回	自己発揮や他者理解、自己抑制を支える保育者の工夫 ・自発性や共同性を育む関わり					
第11回	特別な支援を必要とする子どもと他の子どもがともに育ち合うための関わり ・集団生活に困難を伴う子どもへの保育障がいのある子どもへの保育 ・障がいのある子どもへの保育					
第12回	誰もが居場所のある集団づくり ・個別の支援計画の作成とさまざまな連携					
第13回	就学前の子どもの育ちを支える人間関係 ・情動統制力の育ち ・身体能力の育ち ・学力問題への取り組み					
第14回	子育て支援活動や預かり保育においての保育者の工夫や取り組み ・地域子育て支援センターにおける親子支援 ・預かり保育における保育者の関わり					
第15回	まとめ					
定期試験						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	0	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	教育・保育の基本を理解して、領域「人間関係」の特質を説明できる。乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を理解し、豊かな人間関係を育む保育を説明できる。さらに子供の人との関わりに関する現代的課題を見極めることができる。自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。	教育・保育の基本を理解して、領域「人間関係」の特質を説明できる。乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を説明できる。さらに子供の人との関わりに関する現代的課題を説明できる。自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。	教育・保育の基本を理解して、領域「人間関係」の特質を説明できる。乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を説明できる。自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。	教育・保育の基本を理解して、領域「人間関係」の特質を理解している。自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。		
該当DPに対する 到達度の目安	子供を取り巻く環境を深く分析して、人との関りに関する課題や問題を見つけ出し、他者と協働してその解決に向けた保育を考えるとともに、自らの保育を的確に評価できる能力を身につけている。	子供を取り巻く環境を深く分析して、人との関りに関する課題や問題を見つけ出し、他者と協働してその解決に向けた保育を考えるとすることができる。	保育・教育に必要な知識を身に付けて、子供の豊かな人間関係を育むための適切な保育を考えることができる。	保育・教育に必要な知識を身に付けて、子供の豊かな人間関係を育むための保育を考えることができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33112	ICT活用	－
授業科目名	環境					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 環境				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	白幡 俊一／田福 朱美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
(1) ． 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。(2) ． 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「環境」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。(3) ． 教育・保育の内容の視点および「環境」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。(4) ． 子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解できる。(5) ． 領域「環境」について学び、幼児を取り巻く環境や発達における幼児の環境とのかかわりを理解する。(6) ． 保育・教育における「環境」を説明できる。(7) ． 子どもの発達過程におけるさまざまな環境との関わりを説明できる。(8) ． 保育環境の具体的なデザイン・方法を考え・説明することができる。(9) ． 子どもを取り巻く環境の現代的課題について説明できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。特に、本授業は、保育内容の5領域のうちの「環境」のねらいと内容をふまえ、「幼児を取り巻く環境」と「幼児の環境との関わり」について理論と技術を学ぶ。そのため子どもにとっての環境を、数々の事例をもとに正しく理解する。これをもとに、子どもが好奇心や探究心をもって活動できる環境について配慮・援助が行える基礎知識を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
保育「環境」を意識しながら新聞、ニュースに関心を持つこと。自分の幼少期のことを思い出しながら保育所、幼稚園の保育環境をイメージできるよう予習、復習して授業内容を整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習復習を含め2時間の学習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に模範解答を掲示							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	事例で学ぶ保育内容 領域環境		無藤隆・福元真由美		萌文書林		978-4-89347-258-8
2							
3							
使用教科書備考							
新訂 事例で学ぶ保育内容 領域環境 無藤 隆・福元真由美 萌文書林							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針ハンドブック 2017年告示版 監修 汐見 掄幸 学研 40のサインでわかる乳幼児の発達 くらき永田保育園 監修 鈴木八郎 著 黎明書房							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
白幡は、学校現場で一般教員経験（24年間）や管理職経験（14年間）の実務経験を生かし、保育内容における環境について教授する。 田福は、保育士として21年、園長として17年の実務経験を生かし、保育内容における環境について教授する。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回	「養護」（子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」）について（白幡・田福）					
第2回	「教育」（子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」）について（白幡・田福）					
第3回	乳児保育における3つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「環境」との関連（田福）					
第4回	乳児保育における3つの視点②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「環境」との関連（田福）					
第5回	乳児保育における3つの視点③「身近なものに関わり感性が育つ」と領域「環境」との関連（田福）					
第6回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「環境」ねらい（身近な環境への好奇心、探究心、発見、見る、聞く、触る）（田福）					
第7回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「環境」内容①（見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わう、玩具、絵本、遊具）（田福）					
第8回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「環境」内容②（形、色、大きさ、量、区別、場所的感覚、身近な生き物、近隣の生活や季節の行事）（田福）					
第9回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「環境」内容の取扱い（命、生命の尊さ、社会とのつながり、文化）（田福）					
第10回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」概要（周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わる）（田福）					
第11回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」ねらい（自然、生活への取り入れ、性質、数量、文字）（田福）					
第12回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容①（自然の不思議さ、性質や仕組み、季節、生命の尊さ）（田福）					
第13回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容②（文化や伝統、比較、関連、数量、図形、標識、文字、情報、施設、国旗）（田福）					
第14回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容の取扱い①（法則性、身近な事象や動植物、行事、国家、唱歌、わらべうた）（田福）					
第15回	3歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容の取扱い②（伝統的な遊び、異文化、国際理解、体験に基づく数量や文字への興味関心）（田福）					
定期試験						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33113	ICT活用	—
授業科目名	言葉					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 言葉				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	三島 裕一						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。 2. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針等における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「言葉」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。 3. 教育・保育の内容の視点及び「言葉」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。特に領域「言葉」においては、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：授業に関連する項目について、『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』等の次時の授業に関する事項を熟読しておくこと。 復習：授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などを整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義につき、0.5時間の予習と、1.5時間の復習を行うこと。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
ノートあるいはレポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
三島裕一は、24年間の中学校国語教師、8年間の幼稚園勤務の経験をもとに、『言葉』『保育内容(言葉)指導法』を通して、保育における言葉の重要性・必要性、また乳幼児にとって大切な言語環境である保育者として必要な、「読む力」「書く力」「話す力」などについて指導する。							
その他							
・本科目履修生は、資料を綴るファイル、記録用のノート等を用意する。 ・ノート、レポート等の提出物については適宜点検し、評価する。							

授業計画						
第1回	「養護」(子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」)について					
第2回	「教育」(子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」)について					
第3回	乳児保育における3つの視点 ①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「言葉」との関連					
第4回	乳児保育における3つの視点 ②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「言葉」との関連					
第5回	乳児保育における3つの視点 ③「身近なものに関わり感性が育つ」と領域「言葉」との関連					
第6回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「言葉」ねらい(言葉遊び、言葉表現の楽しさ、児童文化財(絵本等)や物語)					
第7回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「言葉」内容 ①(応答的関わり、生活に必要な言葉、挨拶、繰り返し、模倣)					
第8回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「言葉」内容 ②(ごっこ遊び、言葉のやりとり、保育者や友達の話への興味関心)					
第9回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「言葉」内容の取扱い(言語化の援助、仲立ち、片言、二語文、ごっこ遊び)					
第10回	3歳以上児の教育・保育～領域「言葉」概要(経験、考えの自己表現、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、表現力)					
第11回	3歳以上児の教育・保育～領域「言葉」ねらい(言葉表現の楽しさ、伝え合う喜び、言葉に対する感覚)					
第12回	3歳以上児の教育・保育～領域「言葉」内容 ①(自分なりの言葉表現、分からない点を尋ねる、相手に分かるように話す)					
第13回	3歳以上児の教育・保育～領域「言葉」内容 ②(生活の言葉、挨拶、言葉の楽しさや美しさへの気付き)					
第14回	3歳以上児の教育・保育～領域「言葉」内容 ③(豊かなイメージや言葉、想像する楽しさ、文字などで伝える楽しさ)					
第15回	3歳以上児の教育・保育～領域「言葉」内容の取扱い(言葉を交わす喜び、伝え合い、言葉の響きやリズム、文字)					
【授業実施方法】						
原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33114	ICT活用	－
授業科目名	表現					実務教員	－
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			領域に関する専門的事項 表現				
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	山下 真由美／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
(1) . 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。(2) . 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「表現」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。(3) . 教育・保育の内容の視点および「表現」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。(4) . 子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解できる。(5) . 幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容を踏まえて、それらの領域と関連付けて幼児の発達と特性を理解し、保育を構想する方法を身に付ける。(6) . 幼稚園教育要領に示される身体・造形・音楽表現等の基礎的な知識・技能・表現力を身に付ける。(7) . 子どもが主体的・対話的で深い学びを通して自らの気持ちを表現し、また他者の表現に共感できる子どもの心を育む保育構想ができるよう、学生自らが「感性・表現力・共感性」の涵養をめざす。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの発達段階や学びの過程の理解に基づいた表現の基礎技術の獲得とそれらに関連づけて具体的な保育場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。また、子どもが主体的・対話的な深い学びを実現する学習過程を支えることを目指し、学生自身が主体的・対話的な深い学びに他者と協働して取り組むことにより、創造性と共感・受容について学びを深め、より豊かな表現力を身に付けることをめざす。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習は、保育所保育指針、幼稚園教育要領の領域「表現」の内容について、解説書に目を通しておくこと。復習は、学習した内容を振り返り、配布プリントやワークシートをまとめること。準備学習として、日常的に「子どもの素朴な表現とその受容」について、指針をもとに考察を深め、豊かな感性を養うことができるよう、生活の事象に目を向けるよう努めること。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
レポート等の提出課題には、コメントを付して返却する。 試験後に解答を研究室前に掲示する。各自見直しをすること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名	ISBN	
1	子どもの音楽表現		石井玲子編著		保育出版社	978-4-938795-78-8	
2							
3							
使用教科書備考							
実践しながら学ぶ子どもの音楽表現（石井玲子編著、保育出版社） その他授業中に適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領（平成29年4月 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年4月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月 文部科学省・厚生労働省） 小学校学習指導要領（平成29年度 文部科学省）、ワークシート、美濃保育園の歌とオペレッタ情報教材							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。 ・保育所保育指針及び幼稚園教育要領「表現」のねらい・内容を熟読し、子どもの表現についてイメージをもち授業に取り組むこと。							

授業計画						
第1回	「養護」（子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」）について（山下）					
第2回	「教育」（子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達援助である「教育」）について（山下）					
第3回	乳児保育における3つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「表現」との関連（山下）					
第4回	乳児保育における3つの視点②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「表現」との関連（野呂）					
第5回	乳児保育における3つの視点③「身近なものに関わり感性が育つ」と領域「表現」との関連（野呂）					
第6回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「表現」 ねらい（感じたことや考えたことを自分なりに表現、イメージ、感性）（野呂）					
第7回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「表現」 内容①（水、砂、土、紙、粘土などの素材、音楽、リズムに合わせた動き）（野呂）					
第8回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「表現」 内容②（音、形、色、手触り、動き、味、香り、手遊び、全身遊び、イメージ）（山下）					
第9回	1歳以上3歳未満児の保育～領域「表現」 内容の取扱い（感性を豊かにする経験、試行錯誤、受容的関わり、達成感）（山下）					
第10回	3歳以上児の教育・保育～領域「表現」 概要（豊かな感性、創造性）（野呂）					
第11回	3歳以上児の教育・保育～領域「表現」 ねらい（美しさに対する豊かな感性、自分なりの表現、イメージを豊かにする）（野呂）					
第12回	3歳以上児の教育・保育～領域「表現」 内容①（音、形、色、手触り、動き、感動、音や動き、自由な描写や創作）（野呂）					
第13回	3歳以上児の教育・保育～領域「表現」 内容②（いろいろな素材、音楽、リズム楽器、動きや言葉）（山下）					
第14回	3歳以上児の教育・保育～領域「表現」 内容の取扱い①（風の音、雨の音、草や花の形や色、子どもの素朴な表現の受容）（山下）					
第15回	3歳以上児の教育・保育～領域「表現」 内容の取扱い②（生活経験や発達に応じた表現の楽しみ、表現する過程）（山下）					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33210	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(健康)指導法					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
領域「健康」のねらいと内容を理解し、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びを通し、健康な心と体を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や運動発達の理解を深め、適切な指導法を身に付ける。 1 幼稚園教育要領に示された、幼稚園教育の基本を踏まえて、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4 領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。							
授業の概要							
本講義では、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・ 毎回授業時に前回の復習をするので、事前にノートを見て、疑問点を明らかにすること。 ・ 実技では、実技内容を解説するので、メモを取り、後にノートに整理すること。 ・ 指導案は決められた日時に提出すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題・ノートの提出後は、コメントを付し、担当印を押し学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
使用しない							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・ A4ファイルを用意すること。 ・ 実技については別途知らせる。 ・ 必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。 ・ 授業内容に応じて、情報機器を活用する。							

授業計画						
第 1回	領域「健康」のねらい及び内容ならびに全体の構造を理解する（子どもの生活と遊びについての知識・技術を含む）。					
第 2回	領域「健康」のねらい及び内容と指導上の留意点を理解する（子どもの生活と遊びにおける他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術を含む）。					
第 3回	幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価の考え方について理解する。					
第 4回	領域「健康」において幼児が身に付けた内容と小学校との教科等との接続について理解する。					
第 5回	領域「健康」の特性と幼児の体験等を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。					
第 6回	幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する、指導案の構造を理解する。					
第 7回	具体的な保育を想定した指導案作成（子どもの生活と遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養う環境構成を含む）。					
第 8回	作成した指導案を検証する（見立てやごっこ遊び、劇遊び等における体験を含む）。					
第 9回	実技：無理なく全身を使って遊ぼう（幼児の認識・思考、動き等を視野にいれた保育の構想）。					
第10回	実技：様々な変化に対応してみよう（幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想）。					
第11回	実技：神経回路を刺激してみよう（幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想）。					
第12回	3回実施した実技をモデルに模擬保育を実施（遊びの素材や教材等の特性の理解とその作成の知識・技術も含む）。					
第13回	模擬保育の振り返りと改善の視点を学ぶ。					
第14回	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践。					
第15回	領域「健康」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む、課題の整理とまとめ。					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33211	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(人間関係)指導法					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	咲間 まり子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。 ・領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できる。 ・豊かな人間関係を育む保育を理解し、保育者の役割を説明できる。 ・人間関係の育ちを把握する視点について説明できる。 ・幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領における領域「人間関係」について学び、子どもが人との関わりを広げていく過程や発達に即して主体的・対話的な学びが実現する過程に応じた適切な援助を知り、豊かな人間関係を育む保育者の役割を理解する。また、人間関係の育ちを観察する視点を理解し、指導案の作成や模擬保育の実施を通して豊かな人間関係を育む保育を実践する力を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの該当する章をよく読んでおくこと。 事後学習：授業の到達目標を確認し、その回の講義内容をプリントやノートにまとめておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題（指導案やレポート等）の提出期限後の授業で、コメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	保育内容「人間関係」		咲間まり子 編		株式会社みらい		9784860154370
2							
3							
使用教科書備考							
保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」[第2版] 教科書は、前期「人間関係」と同じものを使用する。							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
授業内容に応じて、情報機器を活用する。							

授業計画						
第1回 さまざまな人との関わりと交流活動・異年齢との関わり 第2回 地域の人々との関わり 第3回 幼児期から学童期への「なめらかな接続」 第4回 保育者と保護者の人間関係・就学前施設の果たす役割 第5回 保護者とのソーシャルワーク的な関わり・ 第6回 保護者への支援事例から考えられる人間関係 第7回 多文化保育と人間関係・多文化共生社会と人間関係 第8回 外国につながる子どもとの関わり 第9回 異文化理解のための関わり 第10回 ともに支え合うための関わり 第11回 「人間関係」の指導計画・保育に関する計画 第12回 指導計画の作成 第13回 ①模擬授業・自らの考えを指導計画に基づいて表現する 第14回 ②模擬授業 第15回 模擬授業を自己評価及び友達の評価を含めて発表し合う 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	40	40	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに具体的な指導場面を想定して保育を構成することができる。	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できる。豊かな人間関係を育む保育者を理解し、保育者の役割を説明できる。		
該当DPに対する到達度の目安	領域「人間関係」について学んだ知識を生かして子供を取り巻く課題について深く考察し、その解決に向けて何をすべきか理解している。さらには他者と協働しその課題に取り組むことができる。	領域「人間関係」について学んだ知識を生かして子供を取り巻く課題について深く考察し、その解決に向けて何をすべきか理解している。さらには他者と協働しその課題に取り組もうとする。	領域「人間関係」について学んだ知識を生かし、子供を取り巻く課題について考えることができる。	領域「人間関係」について学んだ知識を生かし、より良い保育を考えることができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33212	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(環境)指導法					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	白幡 俊一／田福 朱美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会力(DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
幼稚園教育要領、保育所保育指針等の領域「環境」のねらい及び内容について専門領域と関連させて理解し、幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって主体的にかかわり、それを生活に取り入れていこうとする力を養うための、具体的な保育内容を考え実践する力を身に付けることをねらいとする。 ・領域「環境」のねらい・内容を理解し、幼児が主体的・対話的に環境にかかわる保育を考えることができる。 ・子どもの遊びの特徴および意義を十分に理解し、経験から育つ内容を説明できる。 ・野外保育・自然体験の事前・事後の準備・活動を具体的にイメージし、保育を構成することができる。							
授業の概要							
本授業は、科目「環境」で学んだことを踏まえて、環境を通した保育・教育を実践できる保育者の育成を目指す。そのために「外遊びと環境」をテーマに、屋外・野外保育におけるさまざまな実践例を参考にして、幼児期にどのような実践をすればよいか具体的な技能を身につける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
保育「環境」を意識しながら新聞、ニュースに関心を持つこと。自分の幼少期のことを思い出しながら保育所、幼稚園の保育環境をイメージできるよう予習、復習して授業内容を整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習復習を含め2時間の学習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に模範解答を掲示。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	事例で学ぶ保育内容 領域環境		無藤 隆・福元真由美		萌文書林		978-4-89347-258-8
2							
3							
使用教科書備考							
新訂 事例で学ぶ保育内容 領域環境 無藤 隆・福元真由美 萌文書林							
参考書・参考資料等							
授業時にプリントを配布する。 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
白幡は、学校現場で一般教員経験（24年間）や管理職経験（14年間）の実務経験を生かし、保育内容における環境について教授する。 田福は、保育士として21年、園長として17年の実務経験を生かし、保育内容における環境について教授する。							
その他							
授業内容に応じて、ICTを活用する。							

授業計画						
第 1回 保育における環境とは～幼児教育の基本的理解、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術（白幡・田福） 第 2回 領域「環境」のねらい・内容と全体構造の理解、生活や遊びでイメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術（田福） 第 3回 子どもを取り巻く生活環境の変化と課題（田福） 第 4回 主体的に環境に関わる幼児の姿と評価の考え方（田福） 第 5回 子どもの遊びの現状と伝承遊び～幼児期に経験させたい内容と指導上の留意点（田福） 第 6回 外遊び・野外保育・自然体験の意義（田福） 第 7回 野外保育の事前・事後の準備（田福） 第 8回 数遊びと文字遊び～小学校とのつながり（田福） 第 9回 情報機器及び教材の活用～身近な動植物の観察・栽培と記録、遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、その活用や作成に必要な知識・技術（田福） 第10回 森のようちえんの事例と解説（幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解）（田福） 第11回 子どもの遊び・活動中のヒヤリ・ハット事例（田福） 第12回 年齢に応じた環境構成（指導案の構成の理解）（田福） 第13回 ねらいに応じた環境構成（指導案作成と検討）（田福） 第14回 環境を通して行う保育（模擬保育と保育の改善）（田福） 第15回 子ども向けの環境教育活動と保育実践の動向～保育構想の向上（田福） 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	80	5	10	0	5	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	領域「環境」のねらい・内容を理解し幼児自身の気づきや好奇心、探求心に着目ができて幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考える学びへと繋げることができる。子他者へ情報発信ができる。子供の遊びの特徴及び直接体験の意義を十分に理解し、経験から育つ内容を具体的に説明できる。	領域「環境」のねらい・内容を理解し幼児自身の気づきや好奇心に着目ができて幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考えることができる。子供の遊びの特徴及び意義を十分に理解し経験から育つ内容を説明できる。	領域「環境」のねらい・内容を理解し、幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考えることに努力している。子供の遊びの特徴及び意義を理解している。	領域「環境」のねらい・内容を断片的に理解し幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育に対してイメージや子供の遊びの意義について理解がやや不足している。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できるその意図を説明できる。又子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて他者へ発信でき計画的に考え、答えを導き出す能力を身に着けている。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に着けている。	領域「環境」のねらい・内容を理解し、幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考えることに努力している。子供の遊びの特徴及び意義を理解している。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術は断片的に有し、子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考えようとする。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33213	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(言葉)指導法					実務教員	○
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	三島 裕一						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
幼稚園教育要領、保育所保育指針等示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、領域「言葉」の全体構造を把握するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定し、豊かな言葉を育む保育を構想する力を身につける。また、児童文化財や言葉遊びの保育環境をデザインし、実践する力を身につける。							
授業の概要							
乳幼児の言葉の発達過程については、遊びの中での文字の有用性や非言語的なコミュニケーションの重要性も含めて包括的に考える必要がある。そのため、本授業では領域「言葉」の内容を理解するとともに、遊びを通して言葉の面白さや楽しさを共有する。そして児童文化財とのかかわりを中心に指導案を作成し、言葉に遅れがある子への配慮等も含めて保育を構想しながら実践的な学びを深める。さらに幼稚園教育における評価の考え方を理解する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：授業に関連する項目について、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等を熟読しておくこと。 復習：授業で学んだ要点、課題、疑問点、自分で調べた事項などを整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
ノート、レポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては授業の中で紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
三島裕一は、24年間の中学校国語教師、8年間の幼稚園勤務の経験をもとに、『言葉』『保育内容(言葉)指導法』を通して、保育における言葉の重要性・必要性、また乳幼児にとって大切な言語環境である保育者として必要な、「読む力」「書く力」「話す力」などについて指導する。							
その他							
・本科目履修生は、資料を綴るファイル、記録用のノート等を用意する。 ・ノート、レポート等については随時点検し、評価する。 ・授業内容に応じて、情報機器を活用する。							

授業計画						
第1回	領域「言葉」と他領域との関連性－幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本を踏まえて					
第2回	領域「言葉」のねらい及び内容と全体構造の理解、指導上の留意点－小学校の教科等とのつながりを視野にいれて－					
第3回	言葉の育ちと保育者の役割－幼稚園教育における評価の考え方の理解との関連で					
第4回	児童文化財や言葉遊びを通じた保育の構想の重要性、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術					
第5回	言葉遊びの実践－幼児の認識・思考の特性を視野にいれて－					
第6回	言葉遊びの実践－幼児の動きの特性を視野にいれて－					
第7回	言葉に遅れがある子、障害のある子、外国籍の子に対する保育実践－指導上の留意点を踏まえて					
第8回	児童文化財（絵本、紙芝居、人形劇等）や言葉遊びとのかかわりを中心とした保育計画、生活や遊びでイメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術					
第9回	指導案の構成の理解－具体的な指導案の事例を参照しながら－					
第10回	指導案の作成と教材研究－具体的な保育を想定して－ 遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と活用・作成に必要な知識・技術					
第11回	模擬保育の実施1－絵本、紙芝居を中心に－					
第12回	模擬保育の実施2－物語や素話を中心に－					
第13回	自分たちの保育を改善する－模擬保育の振り返りを通じて－					
第14回	情報機器及び教材の活用法を理解する－幼児の言葉体験との関連で－					
第15回	保育実践の動向と保育構想の向上－幼児の言葉の発達の特性を踏まえて－					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33214	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(表現)指導法					実務教員	－
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	山下 真由美／野呂 祐人／小林 貴美子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」のねらいや内容をもとに、幼児の発達を踏まえた表現及び多様な表現方法を理解する。 2. 幼児の学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する力や、保育を振り返り保育を改善する力を身に付ける。 3. 子どもが表現の喜びを感じ得し、他者の表現に共感できる主体的・対話的な深い学びに導く保育構想及び指導法を身に付ける。							
授業の概要							
幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」のねらいや内容を理解し、幼児の発達を踏まえて多様な表現活動の展開を考える力を身に付ける。また、音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等の多様な表現活動を関連付けて考え、子どもの豊かな育ちを支える保育の構想を自ら考察する。指導案の作成や模擬保育の実施を通して教材の選択・活用の重要性を認識し、創意工夫した保育の構想及び保育を改善する力を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
復習に重点を置き、各自で授業内容をノートに記録しておくこと。手遊びの実践に関しては輪番制のため事前準備が必要である。授業前には、あらかじめテキストの該当箇所を読み、関連する事柄について資料の下調べも行うこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題・レポート等は提出後の授業でコメントを付し返却する。 試験の解答は、試験後に研究室前に掲示する。各自見直しをすること。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	子どもの音楽表現		石井玲子編著		保育出版社		978-4-938795-78-8
2							
3							
使用教科書備考							
・実践しながら学ぶ子どもの音楽表現（石井玲子編著、保育出版社） ・その他授業内で適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領（平成29年4月 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年4月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月 文部科学省・厚生労働省） 小学校学習指導要領（平成29年度 文部科学省）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
山下・野呂：実務経験のある教員に該当しない。 小林：保育士資格を有し、スポーツクラブ（15年）の勤務経験及び市内近郊の幼稚園等での身体表現指導の実績をもとに教授する。							
その他							
本授業は1単位45分であり、授業内において様々な表現の指導法を学ぶことから、授業前の準備や授業後の片付けなど、自らの手際を鑑みて自主的・主体的かつ迅速に行うことができるよう工夫すること。授業は、ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室も使用する。その際は、ICTを活用した双方向型授業を実施する。							

授業計画						
第 1回	オリエンテーション、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の確認・理解、子どもの生活と遊びにおける他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術（山下）					
第 2回	幼稚園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向－コダーイ・音楽と表現－、イメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術（山下）					
第 3回	幼稚園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向－フレーベル・遊びと表現－（山下）					
第 4回	幼稚園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向－モンテッソーリ・造形と表現－（野呂）					
第 5回	幼稚園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向－シュタイナー・自然環境と表現－（野呂）					
第 6回	指導案の作成・指導上の留意点及び評価の考え方、小学校教科との関連について（山下）					
第 7回	幼児の認識、思考、動き等を踏まえた保育の構想の重要性の理解、教材の工夫と活用、素材や教材等の特性の理解とその活用や作成に必要な知識・技術（野呂）					
第 8回	協働的造形表現の取組と保育構想・表現の喜びと共感性－壁面飾りの構想と表現技術－（野呂）					
第 9回	協働的音楽表現の取組と保育構想・表現の喜びと共感性－遊びと音楽表現－（山下）					
第10回	協働的身体表現の取組と保育構想・表現の喜びと共感性－遊びと身体表現－（小林）					
第11回	環境構成と遊び・表現の展開－専門領域の関連と表現技術及び教材・情報機器の活用（野呂）					
第12回	模擬保育の実施1－造形表現を中心とした指導法・保育構想－（野呂）					
第13回	模擬保育の実施2－音楽表現を中心とした指導法・保育構想－（山下）					
第14回	模擬保育の実施3－身体表現を中心とした指導法・保育構想－（小林）					
第15回	模擬保育の省察とまとめ－保育の改善及び保育構想の向上－（山下）					
【授業形態】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
</						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33150	ICT活用	—
授業科目名	乳児保育 I					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	前期	必修区分	保		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	咲間 まり子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
0、1、2歳児の保育の内容・方法、そしてその質が、人間の一生の育ちや生活に深い影響を与えることが明らかになってきました。乳児や1、2歳児の保育では温かく丁寧な保育、受容的で応答的な保育が大切であることから、本講義では、次の到達目標に沿って行うことを目的とする。 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について説明できる。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について説明できる。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について説明できる。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について説明できる。							
授業の概要							
乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容運営体制、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域機関との連携について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
ニュースや新聞等で乳幼児・子育てに関する記事等の収集に努める事。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題・レポートについては、担当者からコメントを付し、担当印を押し、学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	コンパス 乳児保育		咲間まり子編著		建帛社		9784767950631
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・担当教員の指示に従う事。 ・必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第 1回 乳児保育とは ・乳児保育とは ・ 0、1、2 歳児が育つ場所 ・子どもと家庭を取り巻く環境 第 2回 乳児保育の課題 ・保育所保育指針からみる乳児保育 第 3回 乳児保育の基本 ・乳児保育の理念と歴史的変遷 ・現代における乳児保育の社会的役割 第 4回 乳児保育の制度と課題 ・認可保育所 ・ 認定こども園 第 5回 乳児保育の制度と課題 ・小規模保育 ・ 家庭的保育 ・ 乳児院 ・乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援 ・ 第 6回 3 歳未満児の発達過程からみる保育内容 ・発達の理解に基づく援助や関わりの基本 ・0 ～ 6 か月未満児の発達と保育内容 ・6 か月以上 1 歳未満児の発達と保育内容 第 7回 3 歳未満児の発達過程からみる保育内容 ・1 歳以上 2 歳未満児の発達と保育内容 ・2 歳以上 3 歳未満児の発達と保育内容 第 8回 基本的生活習慣の獲得 ・食 事 ・ 排 泄 ・ 睡 眠 第 9回 基本的生活習慣の獲得 ・清潔の習慣 ・ 衣服の着脱 ・ 第10回 乳児保育の計画と記録 ・保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価 第11回 乳児保育の計画と記録 ・個々の発達を促す生活と遊びの環境 ・職員間の協働 第12回 乳児保育における連携 ・子育て支援の背景 ・日本の子育て支援システム ・子育て支援の連携法 第13回 食事の計画、提供及び評価・改善 ・冷凍・冷蔵母乳の取り扱いについて ・乳幼児と食物アレルギー 第14回 食事の計画、提供及び評価・改善 ・保育室での配慮 第15回 子育てをめぐる家族の権利と責任/まとめ 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	40	20	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題について理解し、3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制並びに乳児保育における関係機関との連携について説明できる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題について理解し 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制並びに乳児保育における関係機関について他者に伝えることができる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷、3 歳未満児の発育・発達、乳児保育における関係機関について理解している。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷、3 歳未満児の発育・発達、乳児保育における関係機関について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、3 歳未満児の発育・発達、関係機関との連携について知識・技能としてしっかり身につけている。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、3 歳未満児の発育・発達、関係機関との連携について身につけているように努力することができる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、3 歳未満児の発育・発達と関係機関への連携についてある程度発信できる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、3 歳未満児の発育・発達と関係機関について他者へ発信することが最低限できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33250	ICT活用	—
授業科目名	乳児保育Ⅱ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	咲間 まり子／田福 朱美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 4, 5, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
乳児期の発達については、視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成されるという特徴がある。これらの発達を踏まえて、乳児保育は、愛情豊かに、応答的におこなわれることが必要とされることを基本にし、本講義では、次の到達目標を達成することを目的におこなう。 1. 3 歳未満児の発達・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について説明できる。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に説明できる。 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に説明できる。 4. 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に説明できる。							
授業の概要							
3歳児未満児の発達・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的考え方、養護と教育の一体性を踏まえ、3歳児未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、乳児保育の配慮の実践、乳児保育における計画の作成についての理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業後、ノート・プリントを振り返りをする。翌週復習をする。 ニュース・新聞・Webページ等で乳児保育、子育てに関する記事の収集に努める事。							
標準学修時間の目安							
1 回の講義あたり予習・復習を含め 2 時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出の場合は、担当教員のコメントを付し、担当印を押し学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	はじめて学ぶ乳児保育	志村聡子 編	同文書院	9784810314731			
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・適宜資料を配布する							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
咲間まり子は、実務経験のある教員に該当しない。 田福朱美は、保育士として21年、園長として17年の実務経験から、現場での実態に基づいた授業を行う。							
その他							
オムニバス形式の授業なので、それぞれの講義の担当教員の指示にしたがうこと。 必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。							

授業計画						
第1回	乳児保育の基本①	子どもと保育士等との関係の重要性（咲間・田福）				
第2回	乳児保育の基本②	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり（咲間・田福）				
第3回	乳児保育の基本③	子どもの主体性の尊重と自己の育ち（咲間・田福）				
第4回	乳児保育の基本④	子どもの体験と学びの芽生え（咲間・田福）				
第5回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践①	子どもの1日の生活の流れと保育の環境（田福）				
第6回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践②	子どもの生活や遊びを支える環境の構成（田福）				
第7回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践③	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践（田福）				
第8回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践④	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践（田福）				
第9回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践⑤	子ども同士の関わりとその援助の実践（田福）				
第10回	乳児保育における配慮の実践①	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮（田福）				
第11回	乳児保育における配慮の実践②	集団での生活における配慮（田福）				
第12回	乳児保育における配慮の実践③	環境の変化や移行に対する配慮（田福）				
第13回	乳児保育における計画の実践①	長期的な指導計画と短期的な指導計画（田福）				
第14回	乳児保育における計画の実践②	個別的な指導計画と集団の指導計画（田福）				
第15回	全体のまとめ	（咲間・田福）				
定期試験						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	40	0	40	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	3歳未満児の発育・発達の特徴を捉えた援助の仕方や養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びと乳児保育における配慮の実践について理解し、他者に詳細かつ適切な説明ができる。	3歳未満児の発育・発達の特徴を捉えた援助の仕方や養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びと乳児保育における配慮の実践について、他者に適切に伝えることができる。	3歳未満児の発育・発達の特徴を捉えた援助の仕方や養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びと乳児保育における配慮の実践について、理解している。	3歳未満児の発育・発達の特徴を捉えた援助の仕方や養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びと乳児保育における配慮の実践について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	3歳未満児の特徴を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについて他者への発信力を身に付けている。	3歳未満児の特徴を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについて他者への発信に向け努力することができる。	3歳未満児の特徴を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについてある程度他者へ発信できる。	3歳未満児の特徴を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについて他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33240	ICT活用	－
授業科目名	子どもの健康と安全					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1 年	期間	後期	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	川村 幾代						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
近年の社会の動きや子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえて、アレルギー疾患への対応を充実させ、より丁寧に対応することが求められる。また、小さな子どもは、まだ免疫力が十分ではないことから、感染症などが発生しやすくなり、園全体での取り組みが必要となります。さらには、子どもが安全で過ごしやすい保育環境が大切であることから、本講義では、国からのガイドラインを踏まえ、次の到達目標を達成することを目的とする。1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について説明できる。2. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に説明できる。3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に説明できる。4. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に説明できる。5. 保育における保健的対応の基本的な考えを踏まえ、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に説明できる。6. 子どもの健康及び安全の管理に関わり、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に説明できる。							
授業の概要							
子どもの健康と安全では、上記のガイドラインを参照し、保健的観点を踏まえた保育環境や援助、子どもの体調不良等に関する適切な対応、子どもの健康及び安全の管理に係る、組織的取組や保健活動の計画及び評価について具体的に理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習は、授業日までに教科書の該当箇所を読んでおき、当日の演習がスムーズに行えるようにする。また、行った演習が技術として身につくように、可能なものは個別で演習の振り返りを行っておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義当たり予習・復習それぞれ、1時間程度の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
再試験対象者には模範の内容を提示し、返却時に指導する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		－		－		－
2							
3							
使用教科書備考							
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
必要時プリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
病院および施設にて看護師、養護教諭として子どもの健康に関わる業務を行ってきた経験から、学生の身になるような「子どもの安全と健康」に関する知識を伝えていく。							
その他							
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等							

授業計画						
第 1回 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助① 子どもの健康と保育の環境 第 2回 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助② 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理 第 3回 保育における健康及び安全の管理① 衛生管理 第 4回 保育における健康及び安全の管理② 事故防止及び安全対策 第 5回 保育における健康及び安全の管理③ 危機管理と災害への備え 第 6回 子どもの体調不良等に対する適切な対応① 体調不良や傷害が発生した場合の対応 第 7回 子どもの体調不良等に対する適切な対応② 応急処置と救急処置及び救急蘇生法 第 8回 感染症対策① 感染症の集団発生予防 第 9回 感染症対策② 感染症発生時と罹患後の対応 第10回 保育における保健的対応① 保育における保健的対応の基本的考え方 第11回 保育における保健的対応② 3歳未満児への対応 第12回 保育における保健的対応③ 個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等） 第13回 保育における保健的対応④ 障害のある子どもへの対応 第14回 健康及び安全の管理の実施体制① 職員間の連携・協働と組織的取組、保育における保健活動の計画及び評価 第15回 健康及び安全の管理の実施体制② 母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	40	20	10	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法を理解し、自ら問題意識を持ち、且つ積極的に学ぶ姿勢がみられる。	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法をしっかりと理解できている。	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法を、おおむね理解できている。	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法を断片的に理解できている。授業に意欲がない。		
該当DPに対する到達度の目安	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識を的確に、身に付けるとともに、自ら問題意識をもって解決する力を身に付けることができている。	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識を的確に、身に付けるよう努力できている。	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識がある程度、身に付けることができている。	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識を断片的あるいは部分的にし、身に付けることができていない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33220	ICT活用	○
授業科目名	コミュニケーション・スキルⅠ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	小林 博子／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP2, 3, 5, 6, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 将来、社会人として基本的な挨拶、感謝、謝罪ができるようになる。 2. 相手の話を態度も含めてしっかりと聴くように努める。 3. 適切な人間関係を築くために必要な思考・スキルを身につけるよう努力する。 4. 相手の良いところを探し、記録し、相手に言葉で伝えることができるようになる。 5. 場面に応じて適切な言葉を選び、敬語を使うように心がける。							
授業の概要							
価値観が多様化するなかで、保育者を取り巻く環境も大きく変化している。そのような環境において、対応力を備えるために必要なコミュニケーション方法の基礎を学ぶ。特に1年後期2月には、保育所での観察実習がある。長い一日を園で過ごす子どもたちの姿、保育所で働く保育士の職務内容を、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。良い気づきを得るためにも、そこで働く保育士とのコミュニケーションを円滑にするためのスキル（聴くこと、話すこと）を習得する。それだけでなく、保育士・社会人としての一歩を踏み出すための基礎的なスキルを習得することを目標とする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習、復習、準備学習については、その都度伝えます。							
標準学修時間の目安							
次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
採点后課題返却、ミニテストや自己チェックリストの確認で得手不得手を知り、次回の講座まで正しい知識・より良いスキルを身に付けられるようにする。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、これまで有能な保育者を育ててきた実績から、専門的職業人としての基礎部分について講義する。 野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回 オリエンテーション、挨拶・感謝・謝罪を場面に応じて適切に行えるようになる 第2回 自己紹介の仕方 第3回 上手な聴き方 第4回 上手な質問の仕方 第5回 敬語の使い方 第6回 あたため言葉かけ、気持ちをわかって働きかける 第7回 子どもや保護者を観察する視点 第8回 観察と記録の方法 第9回 非言語のコミュニケーション（視線や動作） 第10回 非言語のコミュニケーション（色と形） 第11回 幼児への働きかけ（0・1・2歳児とのコミュニケーション） 第12回 幼児への働きかけ（3・4・5歳児とのコミュニケーション） 第13回 保育者とのコミュニケーション、保護者とのコミュニケーション（保護者との話し方、電話対応） 第14回 相手から見た姿 第15回 まとめ（保育者になる上でのコミュニケーションの重要性）						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	0	50	0	50	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。そこで働く保育士とのコミュニケーションを円滑にするためのスキルを習得し、他者に詳細な情報を伝えることができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。そこで働く保育士とのコミュニケーションを円滑にするためのスキルを理解し、それらを他者に適切に伝えることができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。それらについて、理解している。	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。それらを断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解し、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解し、他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力についてある程度理解しているが、関連する情報の収集や他者への発信をおこなうことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34110	ICT活用	－
授業科目名	保育実習指導Ⅰ					実務教員	－
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	通年	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	劉 眞福／白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー DP項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育実習の意義・目的・内容等を理解し、保育実習がより効果的に実施できることを目的とする。 1 保育実習の意義・目的を理解する。 2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。							
授業の概要							
・本講義では、保育実習の意義・目的・内容を理解し、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることである。 ・当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・保育実習指導ファイルを整理して、毎回持参すること。 ・やむなく欠席した場合は、授業担当者を訪ね個別に授業内容を確認すること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義当たり、予習・復習を含め2時間の学習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
指導案や見学时レポート等は、担当者が確認後返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	保育所保育指針解説書	厚生労働省編	フレーベル館	9784577814482			
2	幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	9784577814475			
3	教育・保育要領解説	使用教科書備考欄参照	フレーベル館	9784577814499			
使用教科書備考							
3. 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省							
参考書・参考資料等							
必要に応じてその都度プリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
児童福祉施設の見学・参観に関連しては、必要に応じてプリントを配布する。							

授業計画						
第 1回 保育実習の意義、実習の目的、実習の概要について 第 2回 保育実習の内容と課題の明確化について(実習の内容、実習の課題) 第 3回 保育実習Ⅰ(保育所の実習について) 第 4回 保育実習Ⅰ(施設の実習について) 第 5回 保育計画の実際①(保育課程や指導計画) 第 6回 保育計画の実際②(日案、部分指導案の立案と実践) 第 7回 保育内容の研究①(手遊び) 第 8回 保育内容の研究②(絵本・紙芝居) 第 9回 保育計画の実際③(部分指導案の検討) 第10回 保育内容の研究③(ジャンケン遊び) 第11回 保育内容の研究④(素話) 第12回 保育計画の実際④(部分指導案の修正) 第13回 実習に際しての留意事項(子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構え) 第14回 保育実習の学び:先輩に学ぶ 第15回 実習園調査と実習希望調査書の記入について 第16回 実習希望調査書の提出、保育所の子育て機能を学ぶ 第17回 保育実習Ⅰ(施設)に関連し、施設見学オリエンテーション 第18回 児童福祉施設の見学・参観①(児童養護施設の概要説明) 第19回 児童福祉施設の見学・参観②(児童養護施設内の見学) 第20回 児童福祉施設の見学・参観③(障害者入所施設の概要説明) 第21回 児童福祉施設の見学・参観④(障害者入所施設の見学) 第22回 保育実習Ⅰ施設、保育実習Ⅲについて 第23回 実習関連書類の作成 第24回 実習中の子どもとのかかわり 第25回 実習記録の意義と内容、方法 第26回 実習の計画と記録(実習における計画と実践、実習における観察、記録及び評価) 第27回 実習生としての心構え2 第28回 自己課題の設定と発表 第29回 実習ガイダンス、実習事前訪問オリエンテーション 第30回 事後指導における実習の総括と課題の明確化、実習報告会・実習の総括と自己評価・実習事後指導・課題の明確化						
【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	40	40	0	20	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が具体的に理解でき、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にできる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が具体的に理解でき、他者に伝えることができる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が具体的に理解している。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が他者へ発信できる力を身に付けている。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が他者への発信と問題解決に向けての努力することができる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等がある程度他者への発信ができる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価について他者へ発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	31420	ICT活用	—
授業科目名	保育現場の幼児教育					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	柏倉 義						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所が幼児教育を担う機関として位置づけられたことにより、乳児と1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容、特に3つの視点の理解、生きる力の基礎となる育みたい資質・能力等を総合的に理解した上で、保育現場での子どもの姿を可視化した、実践例について学ぶ。 1. 保育所が幼児教育を担う機関であることを説明できる。 2. 乳児保育の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人との気持ちが通じ合う」「身近なもののかかわり感性が育つ」を説明できる。また、現場での実践例を説明できる。 3. 育みたい資質・能力を説明できる。 4. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を説明できる。 5. 小学校への接続について説明できる。							
授業の概要							
保育所保育指針改定のポイントは、保育所も幼児教育をおこなう施設としての位置づけ、乳児と1歳以上3歳未満児の保育、特に「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人との気持ちが通じ合う」「身近なもののかかわり感性が育つ」で保育を評価することが示された。さらには、小学校への接続をスムーズにするため「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有していくことになった。これらを総合的に理解し、保育現場での子どもの姿を可視化した、幼児教育の実践例について具体的に学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
毎週前回の復習と次週への課題が出されるので、それらをしっかり確認し学修すること。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに事前学習(2時間)と事後学習(2時間)程度の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題については、担当教員確認後、担当印を押し、コメントを付し、学生に返却します。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
平成18年4月より保育園に勤め、平成27年4月より認定こども園の園長に就任（在職中）。これらの実務経験を活かし、保育現場の幼児教育における現状や実践例を具体的に教授する。							
その他							
・A4のノートを用意すること。 ・必要に応じてプリントを配布する。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション(保育所の役割) 第2回 養護と教育の一体性 第3回 乳児保育の3つの視点 「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なもののかかわり感性が育つ」のポイント 第4回 「健やかに伸び伸びと育つ」のねらいと内容に沿って幼児教育の実践例の理解 第5回 「身近な人と気持ちが通じ合う」のねらいと内容に沿って幼児教育の実践例の理解 第6回 「身近なもののかかわり感性が育つ」のねらいと内容に沿って幼児教育の実践例の理解 第7回 乳児保育の現場での子どもの姿を可視化した幼児教育の実践例報告・解説・改善 第8回 1歳以上3歳未満児の現場での子どもの姿を可視化した幼児教育の実践例報告・解説・改善 第9回 3歳以上児の現場での子どもの姿を可視化した幼児教育の実践例報告・解説・改善 第10回 育みたい資質・能力(1知識・技能、2思考力、判断力、表現力 3学びに向かう力、人間性) 第11回 幼児期の終わりまで育ってほしい姿(10の姿) 第12回 幼児期の終わりまで育ってほしい姿から小学校への接続の考え方 第13回 小学校との接続の具体的な内容 第14回 子どもの育ちを支える保育所児童保育要領 第15回 まとめ						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	30	0	50	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	保育所保育指針が改定され保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ乳児と1歳児以上3歳児未満の保育について3つの視点に留意し保育を評価することができる。育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、他者に詳細かつ適切な情報として伝えることができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設であること、乳児と1歳児以上3歳児未満の保育についての評価、育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設であること、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について理解している。	保育所も幼児教育をおこなう施設であること、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ乳児と1歳児以上3歳児未満の保育について3つの視点に留意し保育を評価することができる。育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、専門的職業人に必要な社会人力・コミュニケーション力が身についている。	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまで育ってほしい姿を理解し、専門的職業人としての社会人力・コミュニケーション力が身につくにつぎ、課題解決に向けて努力することができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられたこと、育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまで育ってほしい姿を理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられたこと、育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまで育ってほしい姿を理解できず、他者への発信がほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32210	ICT活用	○
授業科目名	子ども家庭支援の心理学					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保心		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	赤坂 和哉						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 5, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達の及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知見の習得を目指す。 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。							
授業の概要							
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等が関与する発達における初期経験の重要性及び発達課題等を学び、また、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・予習や準備学習：時間的に余裕のある学生には、図書館にある「子育て」や「発達心理学」という言葉が入っている図書等で、シラバスに示されている各回の内容を一読して、資料の下調べをしておくこと。 ・復習：毎回様々な心理学用語が出てくるので、それが何を意味するのか理解し、資料の下調べにて理解を深めること。							
標準学修時間の目安							
1回の講義につき、2時間の予習と2時間の復習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
試験等後、再試対象者のみにフィードバックを行う。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	子ども家庭支援の心理学	本郷一夫・神谷哲司編著	建帛社	978-4-7679-5092-1			
2							
3							
使用教科書備考							
講義内で適宜資料も配付する。							
参考書・参考資料等							
伊藤篤『保育の心理学』（ミネルヴァ書房、2017年）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
テキストにもとづくプレゼンテーションをしてもらう。また、授業の進行状況に応じて、グループディスカッションやグループワークを行う。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション：授業の概要と目標、評価方法 第2回 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 第3回 学童期後期から青年期にかけての発達 第4回 成人期における発達 第5回 老人期における発達 第6回 家族・家庭の意義と機能 第7回 親子関係・家族関係の理解 第8回 子育ての経験と親としての育ち 第9回 子育てを取り巻く社会的状況 第10回 ライフコースと仕事・子育て 第11回 多様な家庭とその理解 第12回 特別な配慮を要する家族 第13回 子どもの生活・生育環境とその影響 第14回 子どもの心の健康に関わる問題 第15回 まとめ						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	10	0	50	40	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、十分に理解し、説明することができる。	早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、十分に理解し、説明することができる。	早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、十分に理解している。	早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、言葉の上で理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価でき、様々な場面に应用できる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価できる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有し、その知識と技術を生かして物事を適切に評価する努力をすることができる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観の重要性を理解している。	保育と子育て支援に必要な最低限の知識と技術を有し物事を適切に評価する努力をすることができる。また他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観の重要性を理解している。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32220	ICT活用	—
授業科目名	幼児理解					実務教員	○
科目	専門教育科目/道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			幼児理解の理論及び方法				
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	小林 博子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。本授業では、保育の基本となる幼児理解についての知識を幼児の生活や遊びの実態に即して学び、保育者としての基本となる態度や考え方を理解する。さらには、観察や資料などから、幼児理解の具体的な方法を理解することをねらいとする。 ・保育における幼児理解の重要性を説明できる。 ・幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を説明できる。 ・幼児の姿から学びやつまずきを理解し、適切に記録して分析することができる。 ・幼児理解に基づいた適切な援助の在り方を考えることができる。							
授業の概要							
幼児期にふさわしい教育を行うために、保育者は一人一人の幼児に対する理解を深めることが求められる。本授業では、保育における幼児理解の重要性と幼児理解の方法を具体的に学び、観察及び資料等の具体的な事例を通して適切な援助の在り方についてグループワークにより分析・考察し、実践力を養う。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・実習で出会った子どもたちの様々なエピソードを記録しておくこと。 ・授業の到達目標を確認し、その日の授業内容をプリントやノートにまとめておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	子ども理解		請川 滋大		萌文書林		978-4-89347-363-9
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
授業中に適宜資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、保育対象である幼児の特徴・理解、支援の方法等の幼児理解の基礎について講義する。							
その他							
学外での観察学習のため、講義内容の順番が変更することがある。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション・保育における幼児理解の意義 第2回 幼児理解の基本（発達や学びを捉える原理）、子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開 第3回 幼児理解と評価の考え方 第4回 適切な幼児理解（幼児理解を深める教師の基礎的な態度）、共感的理解と子どもとの関わり 第5回 幼児理解のための観察法の理解（観察と記録の意義、目的に応じた観察法）、子どもの生活や遊び 第6回 保育における観察の視点①（幼児の言動からの理解） 第7回 保育における観察の視点②（個と集団の関係を捉える意義や方法、相互の関わりと関係づくり、集団における経験と育ち） 第8回 保育における観察の視点③（環境との関わり～幼児の葛藤やつまずきと周りの幼児との関係、環境の理解と構成、環境の変化や移行） 第9回 保育における観察の視点④（幼児の心理～様々な背景からの幼児理解） 第10回 幼児理解のための視点の整理①（事例検討、観察、記録、省察、評価、職員間の対話、保護者との情報の共有） 第11回 幼児理解のための視点の整理②（グループワーク） 第12回 幼児理解と援助①（3歳児の事例）、発達の課題に応じた援助と関わり、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 第13回 幼児理解と援助②（4、5歳児の事例）、発達の課題に応じた援助と関わり、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 第14回 幼児理解と援助③（保護者の心情の理解と基礎的な対応の方法、特別な配慮を要する子どもの理解と援助、発達の連続性と就学への支援） 第15回 まとめ（幼児理解の再確認、保護者への対応、地域における専門家との連携） 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解し幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を詳細に説明することができる。さらに記録を分析し、幼児理解に基づいた適切な援助の在り方を考えることができる。	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解し幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を説明できる。さらに幼児の姿から学びやつまずきを理解し、適切に記録して分析することができる。	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解している。さらに幼児の姿から学びやつまずきを理解し適切に記録して分析することができる。	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解している。さらに幼児の姿から学びやつまずきを理解し記録することができる。		
該当DPに対する到達度の目安	幼児理解について身に付けた知識と技能を生かし、的確な観察や記録から適切な援助の在り方を考え、自己の幼児理解を振り返り保育を正しく評価することができる。	幼児理解について身に付けた知識と技能を生かし、適切な観察や記録ができる。その記録を分析し子供の成長を促す適切な援助の在り方を考えることができる。	幼児理解について身に付けた知識と技能を生かし、幼児の学びやつまずきを理解し、子供の成長を促す適切な援助の在り方を考えることができる。	保育に必要な幼児理解の重要性を理解し、記録することができる。さらに課題を見つけ適切な援助を考えることができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32240	ICT活用	－
授業科目名	子どもの食と栄養					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	卒保		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	佐賀 暁美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。また、養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的・基本的な考え方、その内容等について理解した上で、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解する。さらには関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深めていく。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等 1. 子どもの食生活に関する基礎的な栄養の知識と課題を理解する。 2. 子どもの発達段階における食育の基本と具体的な支援方法、内容及び環境について理解する。 3. 特別な配慮の必要な子どもの食と栄養について理解し、説明できる。 4. 保育実践に活用できるようになる。							
授業の概要							
適切な栄養の摂取は人間形成にとって重要であり、それによって健全な生活を営むことができる。また、小児期は、発育・発達の特性も加わり、栄養の摂取は特に重要である。この科目によって、子どもにとっての望ましい食生活を考え、実践しなければならないことを理解し、実践する力を養っていく。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
①予習→毎回の授業の内容について教科書を読む。 ②復習→演習の課題・授業内容のレポートを読みなおしを行う。 ③食に関する新聞等などの情報記事について関心を持つ。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり予習・演習を含めて4時間の学習が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験に関しては、模範解答を提示し、確実に理解できるようにする。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	子どもの食と栄養	堤ちはる・土井正子編	萌文書林	978-4-89347-154-3			
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜、配布							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
幼稚園教諭5年・管理栄養士25年を生きし、子供の成長に欠かせない栄養「食べる」ことの重要性を教授する。							
その他							
課題に対してグループによる演習を実施。 栄養と子どもに関する情報(ニュース)を取りあげ、意見交換を実施。							

授業計画						
第 1回 子どもの心身の健康と食生活 第 2回 子どもの食生活の現状と課題 第 3回 栄養の基本的概念と栄養素の種類、機能 第 4回 食事摂取基準と献立作成・調理の基本 第 5回 食生活指導及び食を通じた保護者支援 第 6回 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 第 7回 幼児期の心身の発達と食生活 第 8回 学童期の心身の発達と食生活 第 9回 生涯発達と食生活 第10回 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方 第11回 食育の内容と計画及び評価 第12回 食育のための環境と関係機関、職員間の連携 第13回 家庭および児童福祉施設における食事と栄養 第14回 疾病及び体調不良、食物アレルギーのある子どもへの対応 第15回 障害のある子どもへの対応						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	50	20	20	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	子どもの発達段階における食生活の特色や課題を理解し、段階に応じて保護者等に支援ができるとともに、栄養と食品に関する基礎知識を習得し、保育現場で食育を実践できる能力が身についている。	子どもの発達段階における食生活の特色や課題を理解し、段階に応じて保護者等に支援ができるとともに、栄養と食品に関する基礎知識を習得し、食育を理解している。	子どもの発達段階における食生活の特色や課題を理解しているが、栄養と食品に関する基礎知識、食育をおおよそ理解している。	子どもの発達段階における食生活の特色や課題をほぼ理解しているが、栄養と食品に関する基礎知識、食育を理解していない。		
該当DPに対する到達度の目安	子どもに必要な栄養について理解し、食生活における発達段階や特別な配慮が必要な環境でも適切な食育の支援ができる。	子どもに必要な栄養について理解し、食生活における発達段階や特別な配慮が必要な環境でも適切な支援が必要であることを理解している。	子どもに必要な栄養についておおよそ理解し、食生活における発達段階や特別な配慮が必要な環境で支援が必要であることを理解している。	子どもに必要な栄養についておおよそ理解し、食生活における発達段階や特別な配慮が必要な環境でも支援が必要であることを理解していない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	32330	ICT活用	－
授業科目名	子どもの医療					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2 年	期間	前期	必修区分	[保選] ソ		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	熊川 雅樹／小越 康雄						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育所保育指針改定により、子どもの健康及び安全について、近年社会の動きや子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえて修正が加えられた。本講義では、これらについて、特に医師・薬剤師の立場から子どもの体の構造等の理解を含め、留意点を学ぶことをねらいとする。 1. 子どものからだの構造、骨格系、筋系、循環器系、内分泌系、神経系、感覚器系を説明できる。 2. 子どもが罹患しやすい病気の留意点を説明できる。 3. 感染症の予防について臨床の視点から説明できる。 4. 保育所における薬を与える場合の留意点を説明できる。							
授業の概要							
保育所保育指針改定で修正が加えられた点は、感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応等である。本講義では、医師・薬剤師の立場から、子どもの体の構造等の理解を含め、子どもが罹患しやすい病気への留意点、保育所において子どもに薬を与える場合の留意点を学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
「医学一般」の教科書を事前読んでおくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義当たり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範的な課題を提示する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	医学一般		－		医療教育協会		－
2							
3							
使用教科書備考							
医学一般（一般社団法人医療教育協会）							
参考書・参考資料等							
必要に応じてプリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
熊川は、薬剤師である。実務経験に基づき、医薬品や投薬、与薬における留意点等を教授する。 小越は、高校教諭・管理職（36年）並びに函館アリーナ館長の経歴をもち、本学で保健体育等の授業を5年以上担当している。それらの経験に基づき、子どもの体や応急処置等について教授する。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回 子どもの体の構造・骨格系（小越） 第2回 子どもの筋系、循環器系、呼吸器系（小越） 第3回 子どもの消化器系、泌尿器系、生殖系（小越） 第4回 子どもの内分泌系、神経系、感覚器系（小越） 第5回 子どもが罹患しやすい病気の留意点（小越） 第6回 子どもの高熱、脱水症、痙攣の処置（小越） 第7回 子どもの応急処置における留意点（誤飲・誤嚥への対応）（小越） 第8回 子どもが特に罹患しやすい感染症（小越） 第9回 感染症の予防（臨床の視点から）（小越） 第10回 病院受診時の対応（病院にかかる時、救急病院を紹介してもらう時）（小越） 第11回 医薬品・投薬に関する理解、薬の種類の解説（熊川） 第12回 保育所において子どもに薬を与える場合の留意点（保護者に医師名、薬の種類、服用方法の確認）（熊川） 第13回 保育所における薬の管理（熊川） 第14回 与薬に当たっての保育士等の連携（熊川） 第15回 まとめ（小越）						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	0	0	0	40	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について薬剤師の立場から留意点を学びそれを理解し、他者に詳細かつ適切な情報を伝えることができる。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について薬剤師の立場から留意点を学びそれを理解し、適切な情報として他者に伝えることができる。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について薬剤師の立場から留意点を学びそれについて理解している。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について薬剤師の立場から留意点を学びそれについて断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について薬剤師の立場から留意点を学び、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について薬剤師の立場から留意点を学び、より詳細な情報の収集と他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について薬剤師の立場から留意点を学び、ある程度他者への発信ができる。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について薬剤師の立場から留意点を学びそれらについて他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33230	ICT活用	—
授業科目名	教育課程総論					実務教員	—
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）				
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	劉 眞福／鳴海 裕						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 2. 教育内容・保育内容の充実と質の向上に資する教育・保育の計画と評価について理解する。 3. 計画、実践、評価、改善のP D C Aの過程について全体構造を理解する。							
授業の概要							
新しく改正された幼稚園教育要領や保育所保育指針にもとづき、幼稚園教育のための教育課程や保育所保育のための保育課程についてそれぞれの編成方法や指導計画の作成についての基本的知識を身につけるとともに、保育における計画・実践・評価・改善の過程について考える。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
毎回、予習に相当する課題を示し、考えてもらう。復習は、講義中に筆記したノートを読み返して、重要な点をチェックできるような課題を提示する。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	乳幼児カリキュラム論		北野幸子 編		建帛社		978-4-76795-096-9
2							
3							
使用教科書備考							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
劉：実務経験のある教員に該当しない。 鳴海：小学校教諭・管理職（38年）の実務経験から教育課程や指導計画等について教授する。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回	教育課程とは何か、カリキュラムの基礎理論、保育における計画と評価の意義（劉・鳴海）					
第2回	教育課程編成の目的を理解する（鳴海）					
第3回	幼稚園教育要領・保育所保育指針等の性格とその位置付け（劉・鳴海）					
第4回	幼稚園教育要領・保育所保育指針等の改訂の変遷と主な改訂内容とその社会的背景、目標と計画の基本的考え方（劉・鳴海）					
第5回	教育課程が社会において果たしている役割と機能（鳴海）					
第6回	教育課程編成の基本原則、子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環による保育の質の向上（鳴海）					
第7回	5つの領域を横断し、教育内容を選択・配列する方法（鳴海）					
第8回	幼児や地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画の検討一領域・学期・学年をまたいだ長期的視野な視点から（鳴海）					
第9回	3歳未満児の指導計画（長期的・短期的）の考え方とその実際（全体的計画と指導計画の関係性、計画の作成、留意事項、保育の柔軟な展開等）（鳴海）					
第10回	3歳以上児の指導計画（長期的・短期的）の考え方とその実際（全体的計画と指導計画の関係性、計画の作成、留意事項、保育の柔軟な展開等）（鳴海）					
第11回	接続期の指導計画の考え方とその実際一就学前教育と小学校教育のスムーズな移行を考える・幼小連携とは（鳴海）					
第12回	特色ある世界の保育とカリキュラム―具体例を参照して（鳴海）					
第13回	カリキュラム・マネジメントの意義とその重要性、保育の記録及び省察（鳴海）					
第14回	カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する、保育士及び保育所の自己評価、質向上に向けた改善の取り組み（鳴海）					
第15回	領域・学年をまたいだカリキュラム把握の意義―学校教育課程全体のマネジメント、保育所児童保育要録について（鳴海）					
定期試験						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33314	ICT活用	○
授業科目名	総合表現指導法					実務教員	—
科目	専門教育科目/領域及び保育内容の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	山下 真由美／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4, 5, 6, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針等示された当該領域のねらい及び内容を踏まえて身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術について理解できる。 2. 幼児の発達を理解した総合的な表現活動を構想するとともに、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定した保育構想の方法を身に付ける。 3. 幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた模擬保育の活動場面の振り返りを通して、保育を改善するとともに保育構想の向上に取り組む視点を身に付ける。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針等示された当該領域のねらい及び内容を踏まえて、幼児の発達と幼児理解に基づき、身体表現、音楽表現、造形表現等の総合的な表現活動を構想する力を身に付ける。授業では、幼児が協働して主体的・対話的な深い学びに取り組むことの重要性を認識し、具体的指導過程を踏まえた総合的な表現活動を展開できるようグループワークによる協働発表の取組みを通して総合的な表現の指導技術を身に付ける。子どもの生活と遊びを豊かに展開する具体例を学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習・復習については、授業において該当箇所や下調べの資料について明示する。グループによる発表の準備学習やグループワークを行う場合には、授業外でグループメンバーと時間調整を行い、協働して取り組むことができるよう協力し合う。							
標準学修時間の目安							
次の授業までに、予習・復習を合わせて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
提出課題には、コメントを付して返却する。試験は、総合的な表現活動を評価対象とすることから、毎回の授業において主体的に取り組むとともに、グループワークの際は協働して行うこと。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領（平成29年4月 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年4月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月 文部科学省・厚生労働省）							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
必要に応じて、授業内で提示した課題についてグループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。グループワークでは、授業外での打合せや練習などを行い、協働して自主的・主体的に取り組む。授業でML教室（第2音楽室）及び第1音楽室を使用する場合は、ICTを活用した双方向型授業を実施する。							

授業計画						
第 1回	オリエンテーション、第2回～第15回の総合的表現活動の全体構造（山下） （発達段階、幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解）、 他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術					
第 2回	幼児理解に基づく身体表現（幼稚園教育要領等における領域のねらい・内容・全体構造の理解）（山下） 生活や遊びでイメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術					
第 3回	身体表現の工夫と応用（幼稚園教育要領等の当該領域のねらいを踏まえた指導上の留意点）（山下）					
第 4回	幼児理解に基づく造形表現（幼稚園教育要領等における領域のねらい・内容・全体構造の理解）（野呂） 遊具や用具、素材や教材等の特性と活用・作成に必要な知識と技術					
第 5回	造形表現の工夫と応用（幼稚園教育要領等の当該領域のねらいを踏まえた指導上の留意点）（野呂）					
第 6回	幼児理解に基づく音楽表現（幼稚園教育要領等における領域のねらい・内容・全体構造の理解）（山下）					
第 7回	音楽表現の工夫と応用（幼稚園教育要領等の当該領域のねらいを踏まえた指導上の留意点）（山下）					
第 8回	保育における総合的表現活動の事例分析（保育実践の動向と小学校教科等のつながり）（山下）					
第 9回	発達段階に応じた総合的な表現活動の取り組み（指導案の作成と評価及び評価の考え方、評価の検討）（山下）					
第10回	具体的な指導場面を想定した総合的な表現活動の取り組み（ワークショップ、グループワーク編成）（山下、野呂）					
第11回	総合的な表現活動の取り組み①協働練習（幼児の認識・思考・動き等に基づく全体構想の理解）（山下、野呂）					
第12回	総合的な表現活動の取り組み②協働練習（模擬保育と活動の振り返りによる保育の改善）（山下、野呂）					
第13回	総合的な表現活動の取り組み③協働練習（保育構想の向上に向けた取り組み）（山下、野呂）					
第14回	総合的な表現活動の発表準備（ICT等の情報機器教材の活用と保育構想企画・実施）（山下、野呂）					
第15回	総合的な表現活動の発表（評価と改善、他者の表現の受容と共感）（山下、野呂）					
定期試験						
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33270	ICT活用	○
授業科目名	特別支援教育					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解				
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保幼心		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 4, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
特別支援とチーム学校 1. 特別な支援を必要とする児童・生徒について、障害の特性等を理解できる。 2. 特別な支援を必要とする児童・生徒に対する教育課程等について理解できる。 3. 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒のアセスメントと関係機関等との連携方法について説明できる。 4. 帰国子女、崩壊家庭、被虐待児の理解と対応策を考えることができる。							
授業の概要							
現在、学校にはアスペルガー症候群、ADHD、LDに加え、虐待等により生じたとされる発達遅滞、PTSD等、多くの特別な支援を必要とする児童・生徒が在籍している。本授業ではこれらの児童生徒の特性等の理解と対応策を学びながら、現在、多くの学校が学校全体（チーム学校）で取り組んでいる個別対応、スクールカウンセラー、特別支援教育支援員、関係諸機関との連携等について、実践的に学んでいく。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業では、予習・復習に必要と思われる箇所を明示し、資料の下調べと合わせて、内容をノートにまとめる。さらに、自ら調べたい内容については、図書館等の積極的な利用を心がける。準備学習として、日常において様々な配慮を必要とする人や障害がある人たちの共生社会についてニュース・新聞等の社会情報から自ら課題を見出し、広い視野から考察できるよう、学びを深める学修に取り組む。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
レポート等の課題提出後に、コメントを付して返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
中学校学習指導要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
特別支援学校での10年間の教員経験を生かし、特別支援教育の制度・障がいの特性理解、具体的な支援方法等、共生社会の実現を目指した特別支援教育の理解・推進に向けて、様々な配慮を必要とする人の理解に関する授業を行う。							
その他							
授業内容によってグループワークに取り組むなど、主体的な意見交換・意見の共有を目指す。手話や点字、視覚支援等のコミュニケーション法の紹介により、障害の特性を理解すると共に、様々な人の生き方について考えを深めていく。							

授業計画						
第1回 特別支援教育とは何か（制度の理念やしきみ、インクルーシブ教育等） 第2回 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の基礎理解①（心身の発達等、いろいろな特性の理解と学習過程） 第3回 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の基礎理解②（発達障害、軽度知的障害等の理解と心身の発達） 第4回 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の基礎理解③（特別支援教育システム、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、関係機関との連携のあり方） 第5回 授業のユニバーサルデザイン化の実際 第6回 自閉症スペクトラムの理解と指導の実際 第7回 ADHDの理解と指導の実際 第8回 ADHDと愛着障害（発生原因と対応の違い、心の安全基地と教師の重要性） 第9回 知的障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱等様々な障害の理解 第10回 特別支援学級の実際、通級指導学級、帰国子女等、特別な支援を必要とする児童・生徒の存在と言葉の学級等の取り組み 第11回 「自立活動」の教育課程上の枠組とその実際 第12回 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成 第13回 障害と各種アセスメント① 第14回 障害と各種アセスメント② 第15回 障害別の教材について 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	70	0	30	0	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の理念や制度、教育課程について充分理解している。特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の特性、支援及びアセスメント方法、家庭や関係機関の連携について分かりやすく説明できる。帰国子女、崩壊家庭、被虐待児の対応等、自ら課題を見出し、他者と考えを共有し深めることができる。	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の理念や制度、教育課程について理解している。特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の特性、支援及びアセスメント方法、家庭や関係機関の連携について説明できる。帰国子女、崩壊家庭、被虐待児の対応等、自ら課題を見出し、他者と考えを共有できる。	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の理念や制度、教育課程について概ね理解している。特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の特性、支援及びアセスメント方法、家庭や関係機関の連携について断片的に説明できる。帰国子女、崩壊家庭、被虐待児の対応等、自ら課題を見出し、他者と考えが共有できるよう努めている。	インクルーシブ教育システムの理念や制度、教育課程について断片的に理解している。特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の特性、支援及びアセスメント方法、家庭や関係機関の連携の理解は、今後の課題である。帰国子女、崩壊家庭、被虐待児の対応等について他者と考えが共有できるよう努めている。		
該当DPに対する到達度の目安	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の理念について充分理解している。学校には様々な困難を抱える児童・生徒が在籍する状況から、障害の特性や支援方法、教育課程及び関係機関との連携について理解し、課題を考察できる。食を通して人の健康や生命の尊厳を充分理解し、共生社会の実現に向けて他者と考えを共有できる。	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の理念について理解している。学校には様々な困難を抱える児童・生徒が在籍する状況から、障害の特性や支援方法、教育課程及び関係機関との連携について知り、課題を推察できる。食を通して人の健康や生命の尊厳を理解し、共生社会の実現に向けて他者と考えを共有できる。	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の理念について概ね理解している。学校には様々な困難を抱える児童・生徒が在籍する状況から、障害の特性や支援方法、教育課程及び関係機関との連携について知ると共に、食を通して人の健康や生命の尊厳を理解し、共生社会の実現に向けて他者と考えの共有に努めている。	インクルーシブ教育システムの理念について断片的に理解している。学校には様々な困難を抱える児童・生徒が在籍するが、障害の特性や支援方法、教育課程及び関係機関の連携の知識については、部分的に知っている。食を通して人の健康や生命の尊厳を理解し、共生社会に向けて他者と考えの共有に努めている。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33360	ICT活用	—
授業科目名	社会的養護Ⅱ					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	劉 眞福						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP2, 3, 4, 7					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1年時の社会的養護で習得した基礎知識を踏まえ、社会的養護を構成する施設養護と家庭養護の実践を学び、保育の専門性について理解を深めることを目的とする。 1. 子ども理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に説明できる。 2. 施設養護及び家庭養護の実践について説明できる。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について説明できる。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について説明できる。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について説明できる。							
授業の概要							
子どもの理解をふまえた社会的養護の基礎的内容、施設養護及び家庭養護の実践、社会的養護における計画・記録・自己評価の実践、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業前には、あらかじめテーマに関する事項とキーワードの下調べを行うこと。 授業後には、配布された資料をもとに授業の振り返りを行い、理解を深めること。							
標準学修時間の目安							
次の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
成績確定後、コメントを付した課題レポートを返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
毎時間資料を配布する。 https://www.mhlw.go.jp/content/000711002.pdf							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
授業は、主に配布資料（事例）で進行し、グループワークとディスカッションを行います。質問や要望があるときは振り返りシートに記入すること。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション（本授業の目的及び到達目標の確認） 第2回 社会的養護の内容① 社会的養護における子ども理解 第3回 社会的養護の内容② 日常生活支援 第4回 社会的養護の内容③ 治療的支援 第5回 社会的養護の内容④ 自立支援 第6回 社会的養護の実践① 施設養護の生活特性及び実際 第7回 社会的養護の実践② 家庭養護の生活特性及び実際 第8回 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価① アセスメントと個別支援計画の作成 第9回 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価② 記録及び自己評価 第10回 社会的養護に関わる専門的技術① 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 第11回 社会的養護に関わる専門的技術② 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 第12回 今後の課題と展望① 社会的養護における家庭支援 第13回 今後の課題と展望② 社会的養護における子ども虐待の防止 第14回 今後の課題と展望③ 社会的養護の課題と展望 第15回 全体のまとめ 定期試験						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	30	0	40	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	施設養護及び家庭養護の実践について理解し説明できる。社会的養護における計画・記録・自己評価の実際についてと相談援助の方法・技術について十分に理解し説明できる。また、社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援の課題について理解し説明できる。	施設養護及び家庭養護の実践について理解し、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際についてと相談援助の方法・技術についても理解している。また社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援の現状について理解している。	施設養護及び家庭養護の実践について理解し、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際についてと相談援助の方法・技術などについての基礎的な理解ができる。	施設養護及び家庭養護の実践についてと、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際や相談援助の方法・技術についての基礎的な理解が不十分ながらできる。		
該当DPに対する到達度の目安	社会的養護を必要とする子どもに対しその制度や相談援助の方法等を十分に理解し、子どもの人権擁護の視点で課題解決に向けて取り組む能力を有している。	社会的養護を必要とする子どもに対し、その制度や相談援助の方法等を理解し、子どもの人権擁護の視点で課題解決に向けて努力することができる。	社会的養護を必要とする子どもに対し、その制度や相談援助の方法等についての基礎的な理解ができ、子どもの人権擁護の視点でかかる重要性について、ある程度理解して取り組むことができる。	社会的養護を必要とする子どもに対し、その制度や相談援助の方法等についての基礎的な理解と子どもの人権擁護の視点で課題解決に向けて取り組む重要性についての学びが必要である。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33380	ICT活用	－
授業科目名	教育相談					実務教員	－
科目	専門教育科目/道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	保幼心		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	赤坂 和哉						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP3, 4, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
教育相談とカウンセリング 1. 教育相談の基本的な考え方を理解できる。 2. 教育相談の基本的方法を身につけることができる。 3. カウンセリング、心理療法の技法を理解し、教育相談に活用できる。 4. 児童・生徒に生じる諸問題についての理解とその対応策を考えることができる。 5. 医療機関等専門機関との連携の方法、必要性について理解できる。							
授業の概要							
教育相談とは何かを学ぶ。教育相談の理論や方法の理解、習得は子ども理解、保護者支援等に不可欠である。本授業では相談活動の中で行われる種々のカウンセリングや心理療法などの理論や技術の基礎を学び、幼稚園教諭として子どもを理解すること、子どもとの良い関わり合いのための教育相談的姿勢、支援方法を理解する。さらに保護者からの相談を受ける際のカウンセリングマインド等、基本的な姿勢、方法を、ロールプレイング等を通して学ぶ。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・ 予習や準備学習：時間的に余裕のある学生には、図書館にある「教育相談」や「臨床心理学」という言葉が入っている図書等で、シラバスに示されている各回の内容を一読して、資料の下調べをしておくこと。 ・ 復習：毎回様々な心理学や教育学の専門用語が出てくるので、それが何を意味するのか理解し、資料の下調べにて理解を深めること							
標準学修時間の目安							
1回の講義につき、1時間の予習と1時間の復習が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
レポート内容が不十分で再提出の者にはレポートを返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		－		－		－
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
小田豊・秋田喜代美編『子どもの理解と保育・教育相談』（みらい、2017年） 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・ 数回のレポートを課す。 ・ 授業の進行状況に応じて、グループディスカッションやグループワークを行う。							

授業計画						
第 1回	ガイダンス（教育相談の理解－学校における教育相談の意義と課題の理解、保育所等における支援）、子どもの保育とともに 行う保護者の支援					
第 2回	教育相談の基本的理解（相談目的ごとの様々な形態、方法）、不適応や問題行動の意味、幼児の発するシグナルに気づき把握 する方法の理解					
第 3回	学校における教育相談の意義、役割と園内体制の整備（職種や校務分掌に応じた幼児・保護者に対する教育相談）					
第 4回	幼児への接し方、保護者への対応の基本（学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性）、保護者との相互理解と信頼 関係の形成、保護者や家庭が抱える支援のニーズへの気づきと多面的理解					
第 5回	来談者中心療法の理解と方法（受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法の理解）、子ども・保護者 が多様な他者と関わる機会や場の提供					
第 6回	フロイト、ユング、アドラー理論の教育相談への活用（教育相談に関わる心理学の基礎的理論・概念の理解として）					
第 7回	教育相談の実際的方法（教育相談の計画の作成を中心に）、子ども・保護者の状況・状態の把握、支援計画と環境の構成、支 援の実践・記録・評価・カンファレンス					
第 8回	教育相談の考え方をクラス経営に生かす方法（集団の中で適応的に生活する力と個性の伸長を支援する）					
第 9回	教師が行う教育相談の実際（チーム幼稚園としての組織的取組み－必要な校内体制の整備など組織的取組み）、保育所等にお ける支援、職員間の連携・協働					
第10回	子ども理解と心理アセスメント（職種や校務分掌に応じた、幼児・保護者に対する教育相談の目標の立て方と進め方）					
第11回	いじめの発生メカニズムの理解と教育相談（発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方）					
第12回	不登園、不登校、虐待、非行等への理解と教育相談的対応（不適応や問題行動の意味と幼児の発するシグナルに気づき把握す る方法）、子どもの虐待の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援					
第13回	薬物乱用、ネット被害、ネット依存の理解と教育相談					
第14回	子ども、保護者への寄り添いと教育相談（自己理解の深まりと人間関係の構築にむけた人格の成長への支援）、地域の子育て 家庭支援、障害のある子ども・特別な配慮を要する子どもとその家庭の支援、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解					
第15回	専門機関との連携のあり方（地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義と必要性）、自治体・関係機関・専門職と の連携・協働					
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマ ンド・課題）を併用する。						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33320	ICT活用	○
授業科目名	コミュニケーション・スキルⅡ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	小林 博子／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP2, 3, 5, 6, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 場面に応じて適切な言葉を選び、適切な人間関係を築くために必要な思考・スキルを身につける。 2. 人の話をしっかりと聴くとともに自分の考えや気持ちをていねいに人に伝えられるようにする。 3. 他人の良いところを見つけ、記録できるようになる。 4. 幼児、保護者、保育者への働きかけ・コミュニケーションにおける留意点を知り、スキルなどを身につける。 5. 保育の場における文字による表現・表記の方法を知るとともに、スキルなどを身につける。							
授業の概要							
価値観が多様化するなかで、保育者を取り巻く環境も大きく変化している。保護者・子どもへの対応と共に、保育者同士の関係の構築も課題となってきた。本授業では、保育を取り巻く環境において、高い対応力を備えるために必要なコミュニケーション方法を学ぶ。特に、6月中旬から行われる保育実習は、これまで短大授業で学んだ保育の理論・技術を実践の場で試すことになる。一日の保育のすべてを一人の保育者として行う責任実習であり、現場の保育者とのコミュニケーション力が問われる。即戦力として活躍できる保育者の仕方を習得することを目標とする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習、復習、準備学習については、その都度伝える。							
標準学修時間の目安							
次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
採点後の課題返却、ミニテストや自己チェックリストの確認で得手不得手を知り、次回の講座まで正しい知識・より良いスキルを身に付けられるようにする。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		-		-		-
2							
3							
使用教科書備考							
資料は適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての経験と立場から、幼児教育者として必要な事項を講義する。 野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
なし							

授業計画						
第1回 オリエンテーション、やさしい頼み方 第2回 上手な断り方 第3回 実習日誌の書き方（なぜ実習日誌を書くのか、用語・表現など） 第4回 指導計画の書き方（指導計画の種類・計画する際の留意点） 第5回 子どもへの働きかけ（特別なニーズをもつ子どもへの関わり方） 第6回 保護者への働きかけ（特別なニーズをもつ子どもの保護者への関わり方） 第7回 連絡帳の書き方 第8回 園だよりの書き方 第9回 指導要録の書き方（小学校への引き継ぎに向けて） 第10回 子ども同士のトラブル対策 第11回 保護者とのトラブル対策 第12回 保護者同士のトラブル対策 第13回 共同制作によるコミュニケーション 第14回 インターネットのコミュニケーション 第15回 自分を大切にす						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	0	50	0	50	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、他者に詳細な情報を伝えることができるとともに、新たに発生した問題に対して適切な対処法を検討できる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解している。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、関連する情報の計測的な収集と他者への発信力を身に付けている。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、より詳細な情報の収集と他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法についてある程度理解しているが、他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33414	ICT活用	—
授業科目名	子どもの生活や遊びA					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	山下 真由美／梅津 奈保子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
幼児の発達段階を理解した上で、生活の中における遊びの意義を五領域との関連を踏まえて考察する。さらに、音楽や表現活動を媒介とした子どもの豊かな育ちを促す保育構想を検討し、協働して子どもが楽しめる表現活動を創造するとともに、総合的な保育実践力を培う。 1. 幼児期の育ちを支える五領域と子どもの生活における遊びの関連について説明できる。 2. あそびによる子どもの心の育ちを促す保育構想を仲間と協働して展開できる。 3. あそびと表現の実践をまとめる(表現活動または短編楽しいあそびのレシピ集等) 4. 該当科目は学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業の概要							
1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、幼児の発達段階を理解した上で、生活の中における遊びの意義を五領域との関連を踏まえて総合的に考察する(遊びの創造)。 2. 音楽や多様な表現を媒介とした子どもの豊かな育ちを促す遊びや保育活動を構想する(保育活動の創造)。 3. それらの保育構想を仲間と協働して主体的に展開できる保育実践力を培う(創造した保育活動の実践)。 4. 当該科目は学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)							
予習は、授業内で次回までの調べてくることや、取り組んでくることを提示する。また、グループで取り組む場合は、グループメンバーと協働して、授業外の準備学習においてグループ学習を行うこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義にあたり、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題(試験やレポート等)のフィードバック							
提出した課題には、コメントを付して返却をする。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
授業において、適宜資料を配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
梅津は、30年以上ヤマハ音楽教室でシステム講師として、幼児から高校生までを中心に指導。この音楽指導経験を生かし、子どもたちが音楽を表現する楽しさや喜びを発見し、音楽を学ぶ過程で子どもたちの成長を促す実践的な指導を行う。 山下は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
活動内容よってはグループで取り組むことから、グループメンバーと協働的活動ができるよう主体的に協力し合うこと。 成績評価の「その他の試験」は、『まとめ・発表会』を評価対象として位置付ける。 子どもの生活や遊びA, B, Cを統合した発表・制作についても検討する。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション、生活の中における遊びと子どもの育ち（山下） 第2回 ヤマハ（幼児教育と音楽①）心を育てる音楽（1, 2才児）（梅津） 第3回 ヤマハ（幼児教育と音楽②）心を育てる音楽（3才児）（梅津） 第4回 ヤマハ（幼児教育と音楽③）心を育てる音楽（4, 5才児）（梅津） 第5回 楽しむ心を育てるあそびの構想・基本（山下） 第6回 楽しむ心を育てるあそびの構想・応用（山下） 第7回 楽しむ心を育てるあそびの実践（山下） 第8回 あそびの創造と表現活動・基本（山下） 第9回 あそびの創造と表現活動・応用（山下） 第10回 発表の企画・構想（山下） 第11回 発表の練習①話し合い（山下） 第12回 発表の練習②グループワーク（山下） 第13回 発表の練習③合同練習（山下） 第14回 発表準備・制作活動（山下） 第15回 発表準備・制作活動（山下） 第16回 発表準備・制作活動（山下） 第17回 発表準備・制作活動（山下） 第18回 発表準備・制作活動（山下） 第19回 発表準備・制作活動（山下） 第20回 発表準備・制作活動（山下） 第21回 発表準備・制作活動（山下） 第22回 発表準備・制作活動（山下） 第23回 発表準備・制作活動（山下） 第24回 発表準備・制作活動（山下） 第25回 発表準備・制作活動（山下） 第26回 発表準備・制作活動（山下） 第27回 発表準備・制作活動（山下） 第28回 発表準備・制作活動（山下） 第29回 発表準備・制作活動（山下） 第30回 まとめ・発表会（表現活動または函短楽しいあそびのレシピ集等）（山下）						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	20	30	40	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義や重要性を理解し、保育構想ができる。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）を工夫活用して、子ども理解に基づく保育を創造し、わかりやすく実践を示すことができる。他者と協働して子どもの心身の成長を促す保育を構想できる。	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義を理解し、保育構想ができる。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）を活用して、子ども理解に基づく保育を創造し、実践を示すことができる。他者と協働して、子どもの心身の成長を促す保育を構想できる。	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義について知り保育構想を試みることができる。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）の一部を生かし、子ども理解に基づく保育の実践を試みることができる。他者と協働して子どもの心身の成長を促す保育のイメージをもつことができる。	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義について概ね知る。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）の一部を生かし、子ども理解に基づく保育の実践を断片的に試みることができる。他者と協働して、子どもの心身の成長を促す保育のイメージがもてるよう努力することができる。		
該当DPに対する到達度の目安	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能を活用して子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践を構想できる。身につけた知識や技能を分かりやすく子どもに伝えるよう工夫・改善ができる。子どもの発達を理解し、五領域が関連するあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を、他者と協働して構想・実践できる。	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能を活用して子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践について理解できる。身につけた知識や技能を子どもに伝えるよう工夫できる。子どもの発達を理解し、五領域が関連したあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を他者と協働して構想できる。	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能を活用して子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践について知る。身につけた知識や技能の基礎を子どもに示すことができる。子どもの発達を理解し、五領域が関連したあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を他者と協働して試みることができる。	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能の一部を活用して、子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践について知る。身につけた知識や基礎的技能の一部を子どもに示すことができる。子どもの発達を理解し、五領域が関連したあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を他者と協働して試みよう努力できる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33414	ICT活用	—
授業科目名	子どもの生活や遊びB					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	小林 博子／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
これまで学んできた幼児の育ちを支える五領域の学びや身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識・技能を総合的に発展させ、幼児の関わり合いや幼児の心身の豊かな成長を促す表現活動(創作劇など)を協働して創造する。 1. 子どもの生活やあそびにおける表現・創作活動について説明できる。 2. 小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成を説明できる。 3. 保育・幼児教育における劇発表やお遊戯会等の企画について説明できる。							
授業の概要							
子どもの生活やあそびにおける表現・創作活動を通して、思考力の芽生え、言葉による伝え合いなど、小学校での学びにつながる力を育てる保育の具体的展開のための技術習得や環境構成など、保育・幼児教育における劇発表やお遊戯会等を企画・実施できる総合的実践力を養う。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：脚本の基となる絵本や物語について広く調べたり、実際に読んでみる。また、オペラや演劇を広く鑑賞し、記録をとっておく。 復習：自分の造形表現や身体表現、音楽表現を振り返り、課題を見いだして次の授業への改善点を見いだす。							
標準学修時間の目安							
予習、復習を合わせて4時間程度の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・作成した造形作品や脚本について添削し、返却する。 ・身体表現、音楽表現についてはその場で評価し、伝えていく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長の経験を生かし、専門的職業人として保育・教職実践の基礎を育む具体的・実践的な授業を行う。 野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
オリジナルの脚本を作成したり、創作ダンス、舞台美術なども構想するため、読書や演劇鑑賞など幅広い知識や経験を積み重ねることが求められる。 子どもの生活や遊びA, B, Cを統合した発表・制作についても検討する。							

授業計画						
第1回	オリエンテーション、子どもの生活やあそびにおける体験を基にした保育・幼児教育の表現活動の意義					
第2回	子どもの生活やあそびの豊かな展開を目指す創作劇の構想					
第3回	創作劇の役割・係決め、(他者との関係や集団の育ちの理解と援助)、グループ編成					
第4回	企画案の制作(子どもの生活やあそびのイメージの醸成)					
第5回	企画案の確認、(保育の具体的展開のための技術の習得)					
第6回	企画案を踏まえた場の構成(子どもの生活や遊びにおける豊かな感性の養う環境構成)					
第7回	創作劇の練習・ストーリー確認(絵本、人形劇、ストーリーテリング等に親しむ体験を踏まえて)					
第8回	創作劇の練習・音楽表現の構想(身近な自然やものの音、声、音楽等に親しむ体験を踏まえて)					
第9回	創作劇の練習・造形表現の構想(身近な自然やものの色、形、感触やイメージ等に親しむ体験を踏まえて)					
第10回	創作劇の練習・身体表現の構想(ごっこ遊び、運動あそび等の体験を踏まえて)					
第11回	全体練習(保育環境構成の確認)					
第12回	全体練習の省察・改善点の確認(保育構想力の育成)					
第13回	リハーサル準備、劇発表用の資料作製(素材や教材の特性の理解と活用と作成)					
第14回	創作劇リハーサルと省察・改善点の確認(知識・技術の実践および保育構想力の育成)					
第15回	発表準備・制作活動					
第16回	発表準備・制作活動					
第17回	発表準備・制作活動					
第18回	発表準備・制作活動					
第19回	発表準備・制作活動					
第20回	発表準備・制作活動					
第21回	発表準備・制作活動					
第22回	発表準備・制作活動					
第23回	発表準備・制作活動					
第24回	発表準備・制作活動					
第25回	発表準備・制作活動					
第26回	発表準備・制作活動					
第27回	発表準備・制作活動					
第28回	発表準備・制作活動					
第29回	発表準備・制作活動					
第30回	創作劇発表(完成を養うための環境構成と保育の展開に必要な知識・技術および保育実践力の育成)					
【授業実施方法】						
原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						
</						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33414	ICT活用	—
授業科目名	子どもの生活や遊びC					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	白府 士孝／小越 康雄						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
乳児から多様な動きを経験させることと、運動遊びと幼児期の終わりまで育ってほしい姿の関連性について実技を通して体得する。 1. 乳幼児期にふさわしい運動指導のあり方を説明できる 2. 運動あそびと幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿の関連性を説明できる 3. 0歳児から3歳児以上児の運動あそびを説明できる 4. 5領域の総仕上げ創作幼児体育を説明できる							
授業の概要							
保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の乳児保育の身体発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」、1歳以上3歳未満児の領域「健康」でも「ねらい及び内容」には、「はう、立つ、歩くなど」「走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなど」の基本的な動きをしようとする、十分に体を動かすこと、さらには自らの体を動かそうとする意欲が育つようにすることが記された。本講義では、5領域の総仕上げとして、実際に行った実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」の発表をする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・毎週の講義で前回の復習をするので、ノートを用いて学習し、疑問点を整理すること。 ・実技では、担当教員がそれぞれ動きに何が養われるか、子どもの10の姿から解説をするのメモをしっかりと、ノートに整理すること。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
ノート、課題等については、担当教員が確認後コメントを付し、確認印を押し、学生に返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、文部科学省「幼児期運動指針」							
参考書・参考資料等							
必要に応じてプリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・A4ファイルを用意すること。 ・実技については、別途プリントにて知らせる。 ・子どもの生活や遊びA, B, Cを統合した発表・制作についても検討する。							

授業計画						
第1回 乳幼児期にふさわしい運動指導のあり方（白府） 第2回 乳幼児期にふさわしい運動指導のあり方（グループディスカッション）（白府） 第3回 運動あそびと運動発達（白府） 第4回 運動あそびと幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性（白府） 第5回 実技：0歳児向けの運動あそびを体験（なでなであそび、寝返りゴロゴロ、ボールコロコロ等）（小越） 第6回 実技：1歳児向けの運動あそびを体験（カニさん歩き、電車ごっこ、マットトンネル、マットうさぎ等）（小越） 第7回 実技：2歳児向けの運動あそびを体験（ものまねジャンプ、はしごあそび、いっしょにゴロゴロ等）（小越） 第8回 実技：3歳児向けの運動あそびを体験（フラミンゴ、かかしになーれ、トンネルジャンケン、波ジャンケン等）（小越） 第9回 実技：3歳児以上向けの運動あそびを体験（大根ぬぎ、マット引き競争、ドッジボール、タッチでキャッチ等）（小越） 第10回 実技：3歳児以上向けの運動あそびを体験（木とリス、円形場所変え鬼、いけこい鬼、各種ボールあそび等）（小越） 第11回 5領域の総仕上げ「創作幼児体育」の説明、グループ編成、指導案作成準備（白府、小越） 第12回 「創作幼児体育」内容決定、指導案作成（白府、小越） 第13回 体育館で書くグループ毎に指導案に沿って練習（白府、小越） 第14回 「創作幼児体育」各グループでのリハーサル（白府、小越） 第15回 発表準備、制作活動（白府） 第16回 発表準備、制作活動（白府） 第17回 発表準備、制作活動（白府） 第18回 発表準備、制作活動（白府） 第19回 発表準備、制作活動（白府） 第20回 発表準備、制作活動（白府） 第21回 発表準備、制作活動（白府） 第22回 発表準備、制作活動（白府） 第23回 発表準備、制作活動（白府） 第24回 発表準備、制作活動（白府） 第25回 発表準備、制作活動（白府） 第26回 発表準備、制作活動（白府） 第27回 発表準備、制作活動（白府） 第28回 発表準備、制作活動（白府） 第29回 発表準備、制作活動（白府） 第30回 「創作幼児体育」発表会、まとめ・ノート整理（白府、小越）						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	40	40	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして、実際に取り組んできた実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要かを他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、実際に取り組んできた実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要かを他者に適切に伝えることができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、実際に取り組んできた実技を組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要か理解している。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、実際に取り組んできた実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要かについて、断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして取り組む「創作幼児体育」を行うことで、専門的職業人として、大切なコミュニケーション力・社会人力の育成と同時に関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして取り組む「創作幼児体育」を行うことで、専門的職業人として、大切なコミュニケーション力・社会人力の育成について理解し、他者への発言、課題解決に向けて努力することができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして取り組む「創作幼児体育」を行うことで、専門的職業人として大切なコミュニケーション力について理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性について理解できず、関連する情報の収集や他者への発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	33420	ICT活用	—
授業科目名	保育の記録と伝え合い					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	小林 博子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
言葉が未発達な3歳未満児については、保育者がきちんと保育の中での子どもの多様な姿を伝える必要がある。登園降園時の保護者との会話や記録の中で、保育を伝えるといった能力が必要とされる。 1. 子どものしぐさ・行動から子どもの発達や状況を知り、子どもを見るべきポイント・視点を獲得する。 2. 保育者と子どもの関わりの実際から、なぜ保育者がそのように関わったのか、関わりの意図を理解する。 3. 保護者との関わりの中で、子どもの育ちに関わる情報を獲得し、保護者と共に子どもを育てる視点を養う。 4. 子育て・保育における「見る視点」「記録するポイント」「伝え合うポイント」を明確化する。							
授業の概要							
新しい保育所保育指針では、子どもの発達を 1) 乳児期(誕生から12カ月まで) 2) 1歳以上3歳未満期 3) 3歳以上期と大きく3つに区分しさらに、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を提示している。本授業では誕生から幼児期の終わりまでの子どもの発達やその状況を的確に把握し(見る力)、それを記録し(記録する力)、保護者に保育の内容を伝え、保護者から家庭の状況を伝えてもらう力(伝え合う力)の獲得に焦点化した学習を進める。							
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)							
予習: 授業に関連する項目について、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等を熟読しておくこと。 復習: 授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり2時間の予習と2時間の復習が必要となる。							
課題(試験やレポート等)のフィードバック							
ノートやレポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で適宜紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	保育士のための書き方講座		今井 和子		社会福祉協議会		978-4-7935-1210-0
2							
3							
使用教科書備考							
『保育士のための書き方講座』(出版社: 全国社会福祉協議会 著: 今井 和子)							
参考書・参考資料等							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林: 幼稚園教諭・園長の経験(41年間・内5年間認定こども園の実務経験を有する)から、10の姿を見据えた保育記録について教授する。							
その他							
本科目履修生は、担当教員の指示により、資料を綴るファイル、ノート等を持参する。レポート、提出物、ノート等については点検し、評価する。							

授業計画						
第1回	子どもを捉える視点の重要性(子ども理解の3層構造) ①その子理解 ②状況理解 ③普遍的孩子理解					
第2回	子どものしぐさ・表情・言葉等からつかむ「その子理解」と「状況理解」					
第3回	乳児期(誕生から12ヶ月まで)の保育における子どもを見る際のポイント(見る目の獲得)					
第4回	乳児期(誕生から12ヶ月まで)の保育における子どもの状況を記録するポイント(記録する力の獲得)					
第5回	乳児期(誕生から12ヶ月まで)の保育における子どもの状況の保護者との伝え合い(伝え合う力の獲得)					
第6回	1歳以上3歳未満児の保育における子どもを見る際のポイント(見る目の獲得)					
第7回	1歳以上3歳未満児の保育における子どもの状況を記録するポイント(記録する力の獲得)					
第8回	1歳以上3歳未満児の保育における子どもの状況の保護者との伝え合い(伝え合う力の獲得)					
第9回	3歳以上児の保育における子どもを見る際のポイント(見る目の獲得)					
第10回	3歳以上児の保育における子どもの状況を記録するポイント(記録する力の獲得)					
第11回	3歳以上児の保育における子どもの状況の保護者との伝え合い(伝え合う力の獲得)					
第12回	幼児期の終わりにおける子どもを見る際のポイント(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を見る目の獲得)					
第13回	幼児期の終わりにおける子どもの状況を記録するポイント(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を記録する力の獲得)					
第14回	幼児期の終わりにおける子どもの状況の保護者との伝え合い(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を伝え合う力の獲得)					
第15回	育ちゆく子どもの姿とそれを捉える保育者の確かな視点の獲得(本授業のまとめ)					
【授業実施方法】						
原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34210	ICT活用	—
授業科目名	保育実習 I					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2 年	期間	その他	必修区分	保		
授業形態	実験・実習	単位数	4	担当形態	複数		
教員	劉 眞福／白府 士孝						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育実習はその習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行うことを目的とする。 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に説明できる。 2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解について説明できる。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に説明できる。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に説明できる。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。							
授業の概要							
保育実習は、習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理念と実践の関係について習熟させる。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
実習前には、配布されたプリント、資料を熟読し、保育実習指導 I の学修を振り返ること。							
標準学修時間の目安							
1日の実習日誌記入に1-3時間程度の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・実習報告書並びに実習日誌を提出し検印を受ける。 ・実習園からの評価を開示し、自己評価と合わせた個別の指導を実施する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
保育実習ガイドライン (第3版) 施設実習編 全国保育士養成協議会 北海道ブロック協議会 編							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
【受講条件】原則として、1 年次に開講される卒業必修科目、保育士必修科目の単位を修得済みであること。							

授業計画						
第1回 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり 第2回 保育所保育指針に基づく保育の展開 第3回 保育所における子どもの観察とその記録による理解 第4回 保育所における子どもの発達過程の理解 第5回 保育所における子どもへの援助や関わり 第6回 保育の計画に基づく保育内容 第7回 保育所における子どもの発達過程に応じた保育内容 第8回 保育所における子どもの健康と安全 第9回 保育所における子どもの生活や遊びと保育環境 第10回 保育所における特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援 第11回 保育所における全体的な計画と指導計画及び評価の理解 第12回 保育実習における記録に基づく省察・自己評価 第13回 保育所における専門職としての保育士の役割と職業倫理①(保育士の業務内容) 第14回 保育所における専門職としての保育士の役割と職業倫理②(職員間の役割分担や連携・協働) 第15回 保育所における専門職としての保育士の役割と職業倫理③(保育士の役割と職業倫理) 第16回 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり 第17回 施設の役割と機能 第18回 施設における子ども理解①(子どもの観察とその記録) 第19回 施設における子ども理解②(個々の状態に応じた援助や関わり) 第20回 施設における子どもの生活と環境①(計画に基づく活動や援助) 第21回 施設における子どもの生活と環境②(子どもの心身の状態に応じた生活と対応) 第22回 施設における子どもの生活と環境③(子どもの活動と生活の環境) 第23回 施設における子どもの生活と環境④(健康管理) 第24回 施設における子どもの生活と環境⑤(安全対策の理解) 第25回 施設における計画と記録 第26回 施設における支援計画の理解と活用 第27回 施設実習における記録に基づく省察・自己評価 第28回 施設における専門職としての保育士の役割と職業倫理①(保育士の業務内容) 第29回 施設における専門職としての保育士の役割と職業倫理②(職員間の役割分担や連携) 第30回 施設における専門職としての保育士の役割と職業倫理③(保育士の役割と職業倫理)						
【授業実施方法】 ・原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ・授業外学修時間を活用して、保育実習指導Ⅰの内容に基づいた学外実習の事前及び事後の指導を実施する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	60	40	0	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。保育所の機能と保育士の職務について学ぶと同時に施設の機能と施設保育士の職務について他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。それらを理解し他者に適切に伝えることができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。それらのことについて理解している。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。それらのことを断片的に理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。その結果として社会人力・コミュニケーション力が身についている。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。また、課題解決に向けた努力をすることができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。それらのことをある程度他者へ発信ができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。しかし、これらの情報を他者へ発信がほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34320	ICT活用	—
授業科目名	保育実習Ⅱ					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	実験・実習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	赤坂 和哉／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育実習Ⅱでは、養護と教育が一体的に行われるという、保育の基本原理や社会的役割を具体的実践から学ぶことを目的としておこなう。 1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解できる。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解できる。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解できる。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、実際に取り組み、理解できる。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて説明できる。 6. 実習における自己の課題を明確にすることができる。							
授業の概要							
これまでの既習科目と保育実習Ⅰでの実習経験を踏まえて、保育を総合的にとらえる視点を培う。保育の基本となる考え方、多様な保育の展開、保護者支援、子育て支援、地域連携等、保育所及び保育士の役割全般に対する理解を深める。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・実習前に配布する資料を事前に読み返し、内容の詳細を理解し、実習に臨むこと。 ・実習生としての立場をわきまえ、実習生として相応しい礼節を身に付けておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の報告書（レポート）作成に2～4時間程度の学修が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
・実習日誌は、実習終了後に担当教員に提出し、確認後学生に返却する。 ・実習報告書は、指定された日までに提出すること（詳細については別途伝える）。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書・参考資料等							
必要に応じて適宜配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・【受講条件】原則として、1年次が開講される卒業必修科目、保育士必修科目の単位を修得済みであること。 ・成績評価については、実習園での評価と本学における評価を総合する。							

授業計画						
第1回	保育所の役割や機能の具体的展開の理解① 養護と教育が一体となっていて行われている保育					
第2回	保育所の役割や機能の具体的展開の理解② 保育所の社会的役割と責任					
第3回	観察に基づく保育理解① 子どもの心身の状態や活動の観察					
第4回	観察に基づく保育理解② 保育士等の援助や関わり					
第5回	観察に基づく保育理解③ 保育所の生活の流れや展開の把握					
第6回	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携① 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育					
第7回	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携② 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援					
第8回	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携③ 関係機関や地域社会との連携・協働					
第9回	指導計画の作成・実践・観察・記録・評価① 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解					
第10回	指導計画の作成・実践・観察・記録・評価② 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価					
第11回	保育士の業務と職業倫理① 多様な保育の展開と保育士の業務					
第12回	保育士の業務と職業倫理② 多様な保育の展開と保育士の職業倫理					
第13回	保育士間の連携とカンファレンスの意義の理解					
第14回	実習日誌への記録を通した保育実践の質的向上の理解					
第15回	自己の課題の明確化					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	60	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標 に対する 到達度の目安	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含む保育理解、子育て支援の必要性、PDCAサイクルの必要性、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を把握・理解し、実習での具体的かつ実践的な学習と既習の教科や保育実習Ⅰにおける学習を有機的に結び付け構造的に意味づけ、他者にわかりやすく詳細かつ正確に説明できる。	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含めた保育の理解、子育て支援の必要性、PDCAサイクルの必要性、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を把握・理解し、実習での具体的かつ実践的な学習と既習の教科や保育実習Ⅰにおける学習を結び付けて意味づけ、他者に説明できる。	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含めた保育の理解、子育て支援の必要性、実習におけるPDCAサイクルの意義、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を把握・理解することができる。	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含めた保育の理解、子育て支援の必要性、実習におけるPDCAサイクルの意義、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を、部分的に把握・理解することができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者としての高い倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を、実習園の特性を把握しながら実習に生かし、保育・子育て支援上の課題や問題を担当者や実習生同士で協働し、主体的に解決しようとする姿勢が培われている。また、実習先での経験を構造的に理解し、他者にわかりやすく、詳細かつ正確に説明できる。	保育者としての倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を実習園の特性を把握しながら実習に生かし、保育・子育て支援上の課題や問題を実習担当者に質問・相談しながら、解決しようとする姿勢が培われている。また、実習先での経験を他者に正確に説明できる。	保育者としての倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を実習に生かし、保育・子育て支援上の課題や問題を把握・理解しようとする姿勢が培われている。また、実習先での経験を他者に説明できる。	保育者としての倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な知識と技術を実習に生かそうとする姿勢が培われている。しかしながら、他者への実習先での経験の説明は断片的なものにとどまっている。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34330	ICT活用	—
授業科目名	保育実習Ⅲ					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	実験・実習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	劉 眞福						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
保育実習Ⅰ(施設)での体験に基づき、その他の社会福祉施設の養護を実践し、保育・養護の理論と技術を福祉施設場で総合的に応用する力を養う。 1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。							
授業の概要							
保育実習Ⅰ(施設)で明らかになった実習生の特徴を伸ばすとともに、課題になっている点について取り組めるようにする。							
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)							
・『保育実習ガイドライン(施設実習編)』を事前に読み、内容の詳細を理解し実習に臨むこと。 ・実習生としての立場をわきまえ、実習生として相応しい礼節を身に付けておくこと。							
標準学修時間の目安							
実習時間として原則として90時間が必要。							
課題(試験やレポート等)のフィードバック							
・実習日誌は、実習終了後提出し、確認後学生に返却する。 ・実習報告書は、指定された日まで提出の事(別途伝える)。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
保育実習ガイドライン(第3版)(施設実習編)全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会 編							
参考書・参考資料等							
必要に応じて適宜配布することがある。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
【受講条件】原則として、1年次に開講される卒業必修科目、保育士必修科目の単位を修得済みであること。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション（実習施設と子どもや利用者の特性について） 第2回 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能について（一日の流れの理解） 第3回 安定した日常生活を送るための援助とその意義についての理解（一日の流れの理解） 第4回 施設における子どもや利用者への接し方（受容し、共感する態度）について 第5回 個人差や生活習慣に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解について 第6回 個別支援計画の作成と実践について 第7回 保育士や支援者の業務と職業倫理について 第8回 生活援助の一部を担当し、援助技術や方法を習得①（子どもや利用者の特性別） 第9回 実習中の自己評価及び指導者のフィードバック（中間評価） 第10回 各施設における多様な専門職との連携・協働について 第11回 実習施設の地域社会との連携・協働について 第12回 子ども（利用者）の家族への支援と対応 第13回 生活援助の一部を担当し、援助技術や方法を習得②（施設別） 第14回 保育士としての施設における必要な危機管理について 第15回 実習の振り返りと自己課題の明確化について						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	60	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養う。また、新たに発生した課題に対して適切な対処法を検討できる。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養う。それらを他者へ適切な情報として伝えることができる。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うことについて理解している。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うことについて、断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養い、社会人とコミュニケーション力が身についている。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養い、課題解決に向けた努力をすることができる。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養い他者へ発信できる。	保育実習Ⅰ（施設）での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34220	ICT活用	○
授業科目名	保育実習指導Ⅱ					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	赤坂 和哉／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
児童福祉施設における実習に臨むにあたって必要な事前の学習を深める。 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。							
授業の概要							
本講義では、実習を円滑に進めるとともに、実習後において評価と自己の振り返りとともに自己課題を明確にする。 当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
初回の授業前にシラバスをよく読んでおくこと。また、担当教員が事前に配布する資料の下調べをしっかりと行うこと。毎授業時に提示する課題を次の授業の前までに完了させること。授業後は、学生同士のディスカッション等を通じて、授業内容をさらに深めることが望ましい。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
適宜プリントを配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
この授業は、保育実習Ⅱを選択する学生が同時に履修するものである。毎時、実習ファイルを持参すること。							

授業計画						
第1回 保育実習の総合的な学び 第2回 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第3回 子どもの保育と保護者支援 第4回 保育の実践力の育成 第5回 子ども(利用者)の状態に応じた適切なかわり 第6回 保育の知識・技術を活かした保育実践 第7回 計画と観察、記録、自己評価 第8回 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 第9回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 第10回 保育士の専門性と職業倫理 第11回 保育実習Ⅱの報告会 第12回 保育実習Ⅱの報告会から見えてきたもの 第13回 事後指導における実習の総括と評価 第14回 実習の総括と自己評価 第15回 課題の明確化						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。 ICTを活用した双方向型授業を実施する授業回がある。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	60	20	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解している。実習や既習科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力が身についている。また指導案作成を通して、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善の意義を理解し実践できる。実習後は実習における自己課題を明らかにし、他者にその内容を構造的に説明できる。	保育実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、保育を理解している。実習や既習科目の内容を踏まえ、保育の実践力が身についている。また指導案作成を通して、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善の意義を理解している。実習後は実習における自己課題を明らかにし、他者にその内容を説明することができる。	保育実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、保育を理解している。実習や既習科目の内容を踏まえ、保育の実践力が身についている。また指導案作成を通して、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善の意義を理解している。実習後は実習における自己課題を明らかにすることができる。	保育実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、最低限の保育の実践力は身につけている。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善は部分的であり、実習における自己課題の明確化も一部にとどまっている。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命と倫理観を十分に理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を用いて、実習準備と園の特性を把握し実習準備を主体的に進めている。またこれまでの学習を構造的に把握し、実習においても他者への思いやりを持ち、柔軟に対応する力を十分に身に付けている。	保育者の社会的使命と倫理観を理解し、これまで学習を踏まえて、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を用いて、実習準備を進めている。実習においても他者への思いやりを持ち、柔軟に対応しようと努力している。	保育者の社会的使命と倫理観を理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を用いて、指導担当者の助言により、実習準備を進めている。実習では柔軟に対応しようとしている。	最低限度の保育者の社会的使命と倫理観は理解している。また、実習準備における必要な専門的知識と技術の修得も必要最低限にとどまっている。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	34230	ICT活用	－
授業科目名	保育実習指導Ⅲ					実務教員	－
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2 年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	劉 眞福						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
児童福祉施設 (保育所以外) における実習に臨むにあたって必要な事前の学習を深める。 1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。							
授業の概要							
本講義では、実習を円滑に進めるとともに、実習後において評価と自己の振り返りとともに自己課題を明確にする。 当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・ 児童家庭福祉、社会的養護等の関連科目のテキスト、講義内容を再度確認して、理解を深めること。 ・ 社会福祉施設の概要を文献、インターネット等で調べておくこと。 ・ 実習施設、関連施設等からの行事等のボランティアの依頼があった場合は、可能な限り参加して施設理解に努めること。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
実習報告書、その他課題については、担当教員確認後返却する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	－	－	－			
2							
3							
使用教科書備考							
保育実習ガイドライン（第4版）（施設実習編）全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会 編							
参考書・参考資料等							
必要に応じて施設理解のためのプリントを配布する。							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
この授業は、保育実習Ⅲを選択する学生が同時に履修するものである。毎時、実習ファイルを持参すること。							

授業計画						
第1回 保育実習の総合的な学び 第2回 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第3回 子どもの保育と保護者支援 第4回 保育の実践力の育成 第5回 子ども(利用者)の状態に応じた適切なかかわり 第6回 保育の知識・技術を活かした保育実践 第7回 計画と観察、記録、自己評価 第8回 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 第9回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 第10回 保育士の専門性と職業倫理 第11回 保育実習Ⅲの報告会 第12回 保育実習Ⅲの報告会から見えてきたもの(自己課題の明確化) 第13回 保育実習Ⅲの報告会から見えてきたもの(自己課題の解決法) 第14回 実習の総括と自己評価 第15回 課題の明確化						
【授業実施方法】 原則として、対面(面接)授業を実施する。対面(面接)授業の実施が困難と判断された場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合(%)	0	50	30	0	20	100
成績評価の基準(ルーブリック)						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を理解し、実習への課題を明確にでき、詳細かつ適切な情報を他者に伝えることができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を理解し、実習への課題を明確に出来、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を理解している。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、関連する情報を継続的に他者への発信力が身についている。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、詳細な情報の収集と、課題解決に向けて努力することができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深め、ある程度他者の発信ができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深めることが出来ず、他者へ発信することがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36110	ICT活用	—
授業科目名	教育経営論					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）				
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	幼		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	単独		
教員	白幡 俊一						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 4					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 幼稚園や保育所などの組織や経営、方法などの基本を理解し、説明できる。 2. 幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解し、説明できる。 3. 幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題に対処する方法や改善方法について、自分の考えを持ったり説明することができる。							
授業の概要							
少子化や待機児童、家庭や地域の教育力の低下などさまざまな問題があるなかで、幼稚園や保育所、認定こども園等は、一層、その役割を果たすことが期待されている。本授業では、幼稚園を取り巻く諸問題を理解するとともに、園長や主任教諭、主任保育士などが、それに対処するための組織や経営の方法などについて学習する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：授業に関連する項目について、『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』を熟読しておくこと。 復習：授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
ノートあるいはレポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で紹介していく。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1							
2							
3							
使用教科書備考							
使用しない。							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
白幡は、学校現場における一般教員経験（24年間）や管理職経験（14年間）の実務経験を生かし、教育の関する組織や経営、方法を教授する。							
その他							
・本科目履修生は、資料を綴るファイルとB5版のノートを持参すること。 ・ノートあるいはレポート等は点検し、評価する。							

授業計画						
第 1回 学校を巡る近年の様々な状況の変化 第 2回 社会生活の変化を踏まえた上での指導上の課題 第 3回 近年の教育政策の動向 第 4回 諸外国の教育事情と教育改革の動向 第 5回 学校や教育行政機関の目的、公教育の原理及び理念の理解、教育関係法規の理解、教育行政の理念と仕組み、教育制度をめぐる諸課題の例示 第 6回 学校経営の望むべき姿を理解する 第 7回 教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論－P D C A の重要性 第 8回 学級経営の仕組みとその効果的な方法 第 9回 教職員、学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方の重要性 第10回 地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法 第11回 地域との連携を基本とする開かれた学校づくり 第12回 危機管理・事故対応を含む学校安全の必要性、事件・事故・災害への対応 第13回 学校保健安全法に基づく学校安全の目的と具体的な取り組み 第14回 生活安全・交通安全・災害安全からみた学校経営における安全上の課題 第15回 生活安全・交通安全・災害安全からみた学校経営における安全上の課題 定期試験 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	60	0	30	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	幼稚園や保育所などの組織や経営、地域・保護者等との連携などの詳細を的確に理解した上で、明確に説明することができる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について十分に理解し説明できるとともに、それらへの対処法や改善の方法について調べたり、自分の考えを持って、簡潔明瞭に説明することができる。	幼稚園や保育所などの組織の在り方や経営、地域・保護者等との連携の方法などを理解し、説明できる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解し、説明するとともに、それらの対処法について、理解したり自分の考えを持つことができる。	幼稚園や保育所などの組織や経営、地域・保護者等との連携を概ね理解しある程度説明することができる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題についての内容を概ね理解したり、それらの対処法について理解したり、考えを持つことができる。	幼稚園や保育所などの組織や経営、地域・保護者等との連携などの基本を理解することができる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解することができる。		
該当DPに対する 到達度の目安	幼稚園や保育所等の組織や経営への理解を十分に深め、保育と子育て支援の専門的知識を有し、子どもの成長に必要な技術を獲得することができる。また子育ての環境について深く分析し、幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について十分に理解を深め、その解決に向けて自分で深く考え、答えを導き出す能力を身につけることができる。	幼稚園や保育所などの組織経営について理解を深め、保育と子育て支援のための専門的知識を有し、子どもの成長に必要な技術を獲得することができる。また子育ての環境について分析し、幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解し、その解決に向けて答えを導き出す能力を身につけることができる。	幼稚園や保育所などの組織経営について理解し、保育と子育て支援のための専門的知識を有し、子どもの成長に必要な技術を概ね獲得することができる。また子育ての環境について理解し、幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について、その解決に向けて答えを導き出す能力を身につけようとする努力ができる。	幼稚園や保育所などの組織経営についてある程度理解し、子どもの成長に必要な知識、技術の幾つかを獲得することができる。また子育ての環境についてある程度理解することができ、幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題についても理解しようと努力することができる。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36220	ICT活用	—
授業科目名	教育の方法と技術					実務教員	○
科目	専門教育科目/道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）				
配当年次	2年	期間	前期	必修区分	幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	白幡 俊一						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP4, 5, 6					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 (2) 主体的・対話的で深い学び・保育を構成する基礎的要件（環境、教材・教具、活動等）と教材研究について説明できる。 (3) 深い学びのための目標・教材研究・学習形態・評価等の研究を踏まえた学習指導案作成について説明できる。 (4) 主体的・対話的で深い学びにおける教材・教具の機能について系譜の考察から説明できる。 (5) 幼児教育における教育機器・教材等の活用（情報活用能力・モラル）について説明できる。 (6) これからの社会を担う子供育成の教育方法（幼小教育連携と主体的・対話的で深い学び）の理論と実践について説明できる。							
授業の概要							
幼児教育では、「人間形成の基礎となる豊かな心情、物事に関わる意欲、よりよい生活を営む態度等」を育むために、保育者が子どもの発達特性等を考慮し、「環境を通して主体的・対話的で深い学び」の計画（内容・環境・方法等）をつくります。この授業では、幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び、豊かな保育を展開するための教育の方法と技術を学ぶことを目標とする。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
授業前に、(1) 資料等を読み、重要語・注目語等にマーキングする。(2) 重要語・注目語等の語彙・意味を辞書・事典等で調査し、予習ノートに記述する。(3) 併せて資料の主張等を整理し概要をまとめるとともに疑問点等をもとに予習ノートに作成し、授業に持参する。授業後に、(4) 授業における学びをノートにまとめる。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
小テスト後に模範解答を掲示する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領 ・幼稚園教育指導資料第1集 文部科学省 フレーベル館 ・幼稚園教育指導資料第5集 文部科学省 チャイルド本社							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
白幡は、学校現場における一般教員経験（24年間）や管理職経験（14年間）の実務経験を生かし、教育に関する方法や技術について教授する。							
その他							
・「教室授業の学びと教室外の学びの学習成果」を集成した「学習ポートフォリオ（総合報告書）」を作成してもらい、評価対象とする。 ・毎時間授業終了時に、学習の振り返りを記述。							

授業計画						
第 1回 オリエンテーション（授業の進め方等の共通理解） 第 2回 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた教育方法の基礎理論と実践 第 3回 先達（フレーベル等）の教育方法の在り方（育みたい資質・能力と主体的・対話的で深い学び等） 第 4回 保育を構成する基礎的要件（環境を通した主体的・対話的で深い学び・保育） 第 5回 保育を構成する基礎的要件（遊びの中における主体的・対話的で深い学び・保育） 第 6回 保育を構成する基礎的要件（主体的・対話的で深い学びのための教材・教具と教材研究） 第 7回 主体的・対話的で深い学びのための実践の研究と話法など指導の基礎的な技術 第 8回 主体的・対話的で深い学びのための学習理論（目標・教材研究・学習形態・学習評価の基礎的な考え方の理解等）の研究 第 9回 主体的・対話的で深い学びのための目標・教材研究・保育展開・学習形態・評価規準等の研究を踏まえた学習指導案作成 第10回 保育の観察・記録（育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた保育の観察・記録の視点） 第11回 学びをみとる（育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方） 第12回 主体的・対話的で深い学びにおける教材・教具の機能と系譜（ベスタロッツィ、フレーベル、デューイ等から情報機器まで） 第13回 幼児教育における教育機器を活用して効果的に教材等を作成・提示・活用する（情報活用能力・情報モラル） 第14回 これからの社会を担う子ども育成の教育方法（幼小教育連携と主体的・対話的で深い学び）の理論と実践 第15回 まとめ（授業の振り返り等）						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	0	30	0	10	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について理解し、それらを他者に詳細な情報として伝えることができるとともに、保育現場・実践に即した方法と技術を検討できる。	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について理解している。	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する到達度の目安	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に継続的に情報発信力を身につけている。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に伝えることができる。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に伝えることが難しい。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力や生涯にわたって学び続けることが難しい。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36230	ICT活用	—
授業科目名	幼稚園教育実習事前指導					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育実践に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育実習				
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	白幡 俊一／小林 博子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
・教育実習の意義、目的を理解し、自己課題を明確にできる。 ・ねらいを明確にした指導案を作成することができる。 ・幼児の姿、保育者の意図を理解した実習日誌の記録方法を説明できる。 ・教育実習に向け、意欲を持って準備に取り組むことができる。							
授業の概要							
教育実習をより充実した学びの多いものにするためには、事前指導が必要である。教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶ。また、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定できることをねらいとする。 当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・幼児の発達段階を理解し、年齢や時期に合った保育内容を学習しておくこと。 ・幼稚園で広く歌われている曲の伴奏ができるようピアノを練習しておくこと。 ・「資料の下調べ」							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題提出期限後の授業で個別指導を行い、コメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、専門的職業人としての基礎について講義する。白幡は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・本科を履修する学生は、「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事後指導」を同時に履修すること。 ・毎回実習ファイルを持参すること。やむを得ず欠席した場合は必ず資料を担当教員に取りに行くこと。 ・授業では課題についてのディスカッションを行う。＊本科目は幼稚園教諭二種免許「教職に関する科目」である。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション 第2回 教育実習の意義と目的、幼稚園教育の理解 第3回 実習の心構え 第4回 実習関係書類の作成 第5回 実習記録の書き方①（観察する視点の理解） 第6回 幼稚園観察学習①（幼児の活動） 第7回 幼稚園観察学習②（環境構成・保育者の活動） 第8回 研究保育について①（保育のねらいの理解） 第9回 研究保育について②（保育内容の理解） 第10回 実習記録の書き方②（個別指導） 第11回 指導案の書き方①（記載方法の理解） 第12回 指導案の書き方②（個別指導） 第13回 個別指導（実習目標の確認等） 第14回 自己課題の明確化 第15回 実習直前ガイダンス、指導担当教員との打ち合わせ						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定し、それらを他者に詳細な情報として伝えるとともに教育実習の自己課題実現の具体的方法を検討できる。	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定できる。	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び自己課題を設定できる。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確・詳細な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的に努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け努力をすることができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集と他者への発信ができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集や他者への発信を行うことが難しい。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36331	ICT活用	—
授業科目名	幼稚園教育実習事後指導					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育実践に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育実習				
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	白幡 俊一／小林 博子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
・教育実習を振り返り、学んだ成果と課題を確認できる。 ・実習報告会を通して学びを共有し、幼稚園教諭としての課題を理解する。 ・自らの教育実践を省察し、指導案を修正することができる。							
授業の概要							
3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習で体験し学んだことを総括し、今後の学習課題を明確にすることをねらいとする。当該科目は、学生の円滑な学修を支援するため、教育助手を配置する。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・教育実習報告会の資料作成、研究保育指導案の修正 ・学生同士のディスカッションにより、自らの課題について理解を深める。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題（指導案等）提出期限後の授業で、コメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、専門的職業人としての基礎について講義する。白幡は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
・実習ファイルを毎回持参すること。 ・本科目を履修する学生は、「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事前指導」を同時に履修すること。 *本科目は幼稚園教諭二種免許「教職に関する科目」である。							

授業計画						
第1回 オリエンテーション 第2回 教職履修カルテの記入 第3回 実習報告会1（発表：Aグループ、記録・質問：Bグループ） 第4回 実習報告会2（発表：Aグループ、記録・質問：Bグループ） 第5回 実習報告会3（発表：Bグループ、記録・質問：Aグループ） 第6回 実習報告会4（発表：Bグループ、記録・質問：Aグループ） 第7回 教育実習の成果と課題 第8回 教育実習の自己評価 第9回 研究保育を振り返って 第10回 指導案の再作成 第11回 グループワーク1（研究保育の改善点） 第12回 グループワーク2（研究保育の改善点） 第13回 教育実習評価の理解・個別指導 第14回 教育実習評価の理解・個別指導 第15回 まとめ 自己課題の明確化 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	0	80	0	20	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を理解し、それらを他者に詳細な情報として伝えることができ、学び続ける保育者として学びの具体策を検討できる。	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を理解している。	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確・詳細な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的に努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的な努力をすることができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集と他者への発信ができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集や他者への発信を行うことが難しい。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36330	ICT活用	—
授業科目名	幼稚園教育実習					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育実践に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教育実習				
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	幼		
授業形態	実験・実習	単位数	4	担当形態	複数		
教員	白幡 俊一／小林 博子						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 7, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
・幼稚園の社会的意義と幼稚園教諭の職務を理解し説明できる。 ・幼児、保育者とコミュニケーションを図りながら、主体的に実習に取り組むことができる。 ・課題を明確にして実習内容を記録し、次の保育に生かすことができる。 ・幼児の実態を理解し、適切な保育計画を立案・実施することができる。							
授業の概要							
教育実習は本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め教員としての資質能力を身に付けることをねらいとする。本学では実習期間を3週間と設定し、見学・観察実習、参加実習、責任実習（研究保育等）を行う。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・実習日誌の記録、指導案作成等は、目的意識を持ち、資料を参考にしながら取り組むこと。 ・幼児の発達段階を復習し、年齢や時期に合った保育内容を学習しておくこと。 ・関連する事柄についての資料の下調べをあらかじめ行うこと。							
標準学修時間の目安							
1日の実習日誌の記録に2～4時間程度の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
実習幼稚園からの評価を開示する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		—		—		—
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、専門的職業人としての基礎について講義する。白幡は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
【受講条件】原則として、2年次前期までに開講される卒業必修科目、教職必修科目の単位を修得済みであること。 *本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。							

授業計画						
第1回 幼稚園教育実習では、以下の内容を学ぶ、観察実習における視点の理解 第2回 一日の保育の流れの理解 第3回 保育内容の理解 第4回 幼稚園教諭の職務の理解 第5回 実習日誌の適切な記録 第6回 参加実習の基本的な理解 第7回 幼児理解 第8回 幼稚園の社会的意義の理解 第9回 園の教育目標の理解 第10回 指導技術の習得 第11回 責任実習に向けての準備とまとめ 第12回 幼稚園教諭に求められる資質の理解 第13回 指導案の作成・教材研究 第14回 指導案に基づいた保育の実践（研究保育） 第15回 教育観の確立 【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 （試験項目）	筆記（定期試験・小テスト）	口述・実技等	論文（レポート・課題等）	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	0	30	40	0	30	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する到達度の目安	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごししながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付けるとともに、それらを他者に詳細に適切な情報として伝え、学び続ける保育者として学びの具体策を検討できる。	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごししながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付けるとともに、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごししながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付ける。	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごししながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を断片的であるが身に付いている。		
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確・詳細な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的に努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的な努力をすることができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集と他者への発信ができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集や他者への発信を行うことが難しい。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	35410	ICT活用	－
授業科目名	保育・教職実践演習					実務教員	○
科目	専門教育科目/教育実践に関する科目						
施行規則に定める科目区分または事項等			教職実践演習				
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数オムニバス		
教員	白幡 俊一／小林 博子／赤坂 和哉／劉 眞福／山下 真由美／白府 士孝／野呂 祐人						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 本学における教育課程の全体を通して、保育士及び幼稚園教諭として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習・教育実習を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育・教育に関する今日の社会的状況等の課題について現状を分析し、その課題への対応として保育士及び幼稚園教諭の職務内容、子どもに対する責任、倫理、子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携等、保育・教育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をはかる。 ①保育・教職に関する科目横断的な学習能力を習得することができる。 ②保育に関する現代的課題について、現状分析、考察、検討を行うことができる。 ③保育の現代的課題に対する問題解決のための対応、判断方法等について学びを深めることができる。 ④これまでの自らの学びを振り返り、保育者としての必要な知識・技能を修得したことを確認した上で、保育者としての自己課題を明確にすることができる。							
授業の概要							
この授業では、これまでの学修の集大成として既習科目を複合させ保育者として必要な資質能力について確実に身に付けるとともに、その資質能力の全体像を確認することを目的としている。すなわち、これまでの学修を踏まえて、保育士・幼稚園教諭として必要な知識技能を修得したことを確認する。具体的内容として、①保育者としての責任感、使命感の再確認、②保育者に必要な社会性、対人関係能力の向上、③子ども理解、学級経営に関する理解、④保育内容の指導力のさらなる向上をめざす。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
事前学習:これまで学んできた保育・教職に関する各々の科目がどのようにつながるか、授業と保育実習、教育実習を振り返り、この授業で習得すべき資質能力、知識・技術は何かを把握しておくこと。 事後学習:指導案立案、レポート作成等は授業では時間的に不足するため、授業外学習時間、放課後を利用してグループで協議し早めに取り組むこと。							
標準学修時間の目安							
次の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題 (指導案やレポート等) 提出期限後の授業でコメントを付した課題を返却する。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	なし		－		－		－
2							
3							
使用教科書備考							
幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
小林は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、専門的職業人として保育・教職実践について指導する。 白幡・赤坂・劉・山下・白府・野呂は、実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教育実践に関する科目」、「保育士資格必修科目」である。							

授業計画						
第1回 保育・教育に関する科目横断的な学習能力の習得を目指して（白幡、小林、赤坂、劉、山下、白府、野呂） ～これまでの学修を振り返ることの意義～ 第2回 保育士・幼稚園教諭の意義と役割（白幡、小林、赤坂、劉、山下、白府、野呂） ～使命感、責任感、倫理、教育的愛情を中心に～（後半：グループ討論） 第3回 保育士・幼稚園教諭に求められる社会性と対人関係能力（後半：グループ討論）（白幡、小林、赤坂） 第4回 幼児理解に基づく学級経営の実践（後半：グループ討論）（白幡、小林、白府） ～「幼児理解」での学びを振り返って～ 第5回 保育や子育て家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携（白幡、劉） ～少子化への対応、長時間保育と子どもの発達～ 第6回 保育の現代的課題の問題発見① 虐待問題：函館児童相談所職員による問題提起等（白幡、劉） 第7回 場面別グループ学習①：指導案づくり（白幡、小林、赤坂、劉、山下、白府、野呂） ～実習指導を振り返って～ 第8回 保育の現代的課題の問題発見② 小学校との連携：函館市教育委員会の講話（白幡、劉） 第9回 保育・子育ての現代的課題の分析、考察、検討①（白幡、白府） ～虐待問題と世代間連鎖：問題解決のための対応～ 第10回 場面別グループ学習②指導案の再検討（白幡、小林、赤坂、劉、山下、白府、野呂） ～実習指導を振り返って～ 第11回 保育・子育ての現代的課題の分析、考察、検討②（白幡、小林、白府） ～小1プロブレムがおこる背景と問題解決のための対応～ 第12回 模擬保育ロールプレイング①親子遠足場面（白幡、小林、赤坂、劉、山下、白府、野呂） ～保育内容の指導力の更なる向上にむけたグループ討議～ 第13回 模擬保育ロールプレイング②避難訓練場面（白幡、小林、赤坂、劉、山下、白府、野呂） ～保育内容の指導力の更なる向上にむけたグループ討議～ 第14回 模擬保育ロールプレイング③運動会練習場面（白幡、小林、赤坂、劉、山下、白府、野呂） ～保育内容の指導力の更なる向上にむけたグループ討議～ 第15回 資質能力の確認と自己課題の明確化（白幡、小林、赤坂、劉、山下、白府、野呂） ～学びの振り返り、教職カルテ、必要な知識技能修得の確認～						
【授業実施方法】 原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	60	0	40	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。特に、保育者としての責任感・使命感、保育者に必要な社会性・対人関係能力、子ども理解・学級経営等を他者に詳細かつ適切な情報として伝えることができる。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。特に、保育者としての責任感・使命感、社会性・対人関係、子ども理解・学級経営について理解し、他者に適切な情報として伝えることができる。	保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。また、保育者としての責任感・使命感、社会性・対人関係、子ども理解・学級経営について理解している。	保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。また、保育者としての責任感・使命感、社会性・対人関係、子ども理解・学級経営について断片的であるが理解している。		
該当DPに対する 到達度の目安	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会力・コミュニケーション力を身に付けると同時に関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会力・コミュニケーション力を身に付け、より詳細な情報の収集と他者への発信に向けて努力することができる。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会力・コミュニケーション力を身に付け、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会力・コミュニケーション力が身につかず、他者へ発信を行うことがほとんどできない。		

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36140	ICT活用	—
授業科目名	レクリエーション指導法					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	後期	必修区分	レ		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	松本 伸吾						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP5, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
・レクリエーションにおける、基本的な支援の基礎を理解する。 ・コミュニケーション技術や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身に付ける。 ・日本レクリエーション協会公認指導者のレクリエーション・インストラクター資格取得に必要な基礎理論を身に付ける。							
授業の概要							
レクリエーションにおける基本的な支援の基礎を理解し、コミュニケーション技術や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身に付け、楽しさとおとした心の元気づくりのプログラムを立案し、実践力を身に付ける。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
・授業にて配布される資料を熟読すると共に、予習復習をして基礎となる理論をしっかりと身に付けること。 ・授業の他にも地域社会における様々なレクリエーション活動に目を向け、レクリエーション活動への理解を深めることやレクリエーション活動を体験することが望ましい。							
標準学修時間の目安							
1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間程度の学修が必要である。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
課題ごとにレポートを提出し、講義内容の理解に努める。							
使用教科書							
	教科書名		著者名		出版社名		ISBN
1	日本レク協会教本		日本レクリエーション協会		日本レク協会		978-4-931180-95-6
2							
3							
使用教科書備考							
楽しさとおとした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
なし							

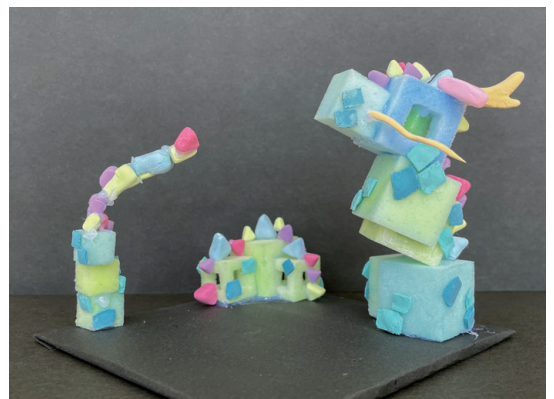
授業計画						
第1回	オリエンテーション・レクリエーション支援とは、レクリエーション・インストラクターの2つの役割					
第2回	楽しさをおとした心の元気づくりと対象者の心の元気					
第3回	元気と地域のきずな					
第4回	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論					
第5回	良好な集団づくりの理論					
第6回	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論					
第7回	リスク・マネジメントの方法					
第8回	レクリエーション活動の安全行動と留意点					
第9回	個々人のアセスメントに基づいたプログラム					
第10回	市民を対象とした事業の作り方とイベントの応用					
第11回	プログラムの立案					
第12回	レクリエーション支援のプログラムの立案方法					
第13回	レクリエーション支援のプログラムの立案					
第14回	対象に合わせたレク・ワークの基本技術					
第15回	対象に合わせたレク・ワークの段階的アレンジ技術、まとめ					
【授業実施方法】						
原則として、対面（面接）授業を実施する。対面（面接）授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業（オンライン・オンデマンド・課題）を併用する。						
</						

年度	2022	学科	保育学科	ナンバリング 科目コード	36340	ICT活用	—
授業科目名	レクリエーション現場実習					実務教員	—
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	2年	期間	その他	必修区分	レ		
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	白府 士孝／山下 真由美						
該当ディプロマ・ポリシー D P 項目番号		DP5, 8					
		知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会力 (DP7～9)					
授業のテーマ及び到達目標							
参加した事業の評価・分析を行い、そこから新たなアイデアを生み出し、より良い事業運営ができるよう知識を深めていく。 - 健康づくり、介護予防に関わる事業を説明できる。 - 社会参加を促進する事業を説明できる。 - 青少年の健全育成、子育て支援に関わる事業を説明できる。 - 地域づくり、コミュニティづくりに関わる事業を説明できる。 - 生涯学習、生涯スポーツ、地域文化の振興に関わる事業を説明できる。							
授業の概要							
レクリエーションインストラクター資格取得の為の必修科目である。レクリエーション活動が実際に行われている現場において、実際に指導する上で必要となる様々な技術や配慮事項、運営方法等を総合的に学習する。具体的には、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解し、参加した事業について参加者、スタッフ、運営責任者それぞれの立場から分析し、より良い事業にするためのアイデアを生み出すことができるようになることを目指す。							
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）							
予習：レクリエーションインストラクター取得関連科目で学んだ内容について資料の下調べをし、実習に備えること。 復習：実際に現場に出て実習を行ってきた後、振り返りの時間として自己の行動等の改善点・反省点を再度資料の下調べとともに随時まとめておくこと。							
標準学修時間の目安							
1回の報告書（レポート）作成に1～2時間程度の学修が必要になる。							
課題（試験やレポート等）のフィードバック							
模範的なレポートを研究室にて開示する。							
使用教科書							
	教科書名	著者名	出版社名	ISBN			
1	なし	—	—	—			
2							
3							
使用教科書備考							
なし							
参考書・参考資料等							
なし							
実務経験のある教員の略歴と教育内容							
実務経験のある教員に該当しない。							
その他							
フィールドワークで学んだ内容をグループワークの時間でディスカッションを行う。							

授業計画						
第1回 ガイダンス、現場実習の注意点 第2回 レクリエーション現場実習について 第3回 事業参加の目的と実施形態 第4回 現場実習参加への用意・準備 第5回 行事運営の流れを確認・理解する 第6回 コミュニケーション・ワーク 第7回 ホスピタリティ・トレーニングの実践 第8回 レクリエーション支援のプログラムの立案 第9回 レクリエーション支援のプログラムの評価 第10回 レクリエーション支援のプログラムの改善法 第11回 行事企画のプロセスとポイント 第12回 対象者の把握（アセスメント） 第13回 事業評価について レクリエーション支援の実施 第14回 事業の実施について 第15回 生涯学習、生涯スポーツ、地域文化の振興に関わる事業に参加						
【授業実施方法】 原則として、対面(面接) 授業を実施する。対面(面接) 授業の実施が困難と判断される場合には、遠隔授業(オンライン・オンデマンド・課題)を併用する。						
成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合 (%)	0	0	100	0	0	100
成績評価の基準（ルーブリック）						
到達度	秀逸	優秀	良好	最低限		
授業の到達目標に対する 到達度の目安	健康づくり、介護予防、子育て支援に関わる事業等について説明できる。また、それらの活動のプロセスおよびポイントを説明することができる。参加する対象者を把握してレクリエーション支援のプログラムの立案・実施することができ、さらにそのプログラムの評価・改善まで行うことができる。	健康づくり、介護予防、子育て支援に関わる事業等について説明できる。また、それらの活動のプロセスおよびポイントを説明することができる。参加する対象者を把握して、レクリエーション支援のプログラムの立案・実施することができる。	健康づくり、介護予防、子育て支援に関わる事業等について説明できる。また、それらの活動のプロセスおよびポイントを説明することができる。	健康づくり、介護予防、子育て支援に関わる事業等について説明できる。		
該当DPに対する 到達度の目安	レクリエーション活動が行われる現場で指導者として必要となる知識や技術力を身に付け発信することができる。また、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解し参加者に対して適切なアドバイスを行うことができる。さらに参加した事業を分析し、新たなアイデアを生み出すことができる。	レクリエーション活動が行われる現場で指導者として必要となる知識や技術力を身に付け発信することができる。また、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解し参加者に対して適切なアドバイスを行うことができる。	レクリエーション活動が行われる現場で指導者として必要となる知識や技術力を身に付け発信することができる。また、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解している。	レクリエーション活動が行われる現場で指導者として必要となる知識や技術力を身に付け発信することができる。		

保育学科
シラバス 2022（授業計画等）

発行：学校法人 野又学園 函館短期大学
発行日：令和 4 年 4 月 1 日



〔表紙〕

原作者：保育学科 松浦 まひる
編集：野呂 祐人

学校法人 野又学園
函館短期大学

〒042-0955 北海道函館市高丘町 52 番 1 号
TEL:0138-57-1800 FAX:0138-59-5549
<http://www.hakodate-jc.ac.jp/>